ビジネス実務学科（目次）

1）教養科目

文学　柴田　勝二……1
歴史学　蔦木　文湖……3
文化論　平澤　純子……5
法学　長沼　秀明……7
経済学　稲塲　建吾……9
自然科学　小島　　望……11
環境論　小島　　望……13

2）外国語科目

英語　近藤　真理……15
英会話　蒔田　裕美……17
中国語　李　　小捷……19
韓国語　李　　芝善……21

3）専門科目

経営学　平澤　純子……23
キャリアデザインⅠ　赤城　知里……25
キャリアデザインⅡ　赤城　知里……27
簿記Ⅰ　稲塲　建吾・劉　　博……29
簿記Ⅱ　稲塲　建吾・劉　　博……31
情報処理Ⅰ　織戸　恒男……33
情報処理Ⅱ　織戸　恒男……35
ゼミⅠ　ビジネス実務学科専任教員……37
ゼミⅡ（環境学）　小島　　望……39
ゼミⅡ（簿記会計）　稲塲　建吾……41
ゼミⅡ（経営社会学）　平澤　純子……43
ゼミⅡ（財務管理論）　劉　　博……45
ゼミⅡ（企業研究Ⅰ）　齋藤　篤史……47
ゼミⅡ（仕事研究）　冨吉　光則……49
ゼミⅡ（マーケティングリサーチ論）　織戸　恒男……51
ゼミⅡ（産業心理学）　赤城　知里……53
ゼミⅢ（環境学）　小島　　望……55
ゼミⅢ（簿記会計）　稲塲　建吾……57
ゼミⅢ（経営社会学）　平澤　純子……59
ゼミⅢ（ビジネスと情報）　劉　　博……61
ゼミⅢ（企業研究Ⅱ）　齋藤　篤史……63
ゼミⅢ（仕事研究）　冨吉　光則……65
ゼミⅢ（マーケティングリサーチ論）　織戸　恒男……67
ゼミⅣ（環境学）　小島　　望……69
ゼミⅣ（簿記会計）　稲塲　建吾……71
ゼミⅣ（経営社会学）　平澤　純子……73
ゼミⅣ（財務管理論）　劉　　博……75
ゼミⅣ（企業研究Ⅲ）　齋藤　篤史……77
ゼミⅣ（仕事研究）　冨吉　光則……79
ゼミⅣ（マーケティングリサーチ論）　織戸　恒男……81
経営管理論　平澤　純子……83
企業論　藤井喜一郎……85
中小企業論　藤井喜一郎……87
人的資源管理論　平澤　純子……89
財務管理論　劉　　博……91
マーケティング論　織戸　恒男……93
会計学　劉　　博……95
情報処理概論　原　かおり……97
文書作成　原　かおり……99
データ活用　原　かおり……101

インターンシップ　齋藤　篤史…… 103
流通ビジネス論　平野　英一…… 105
ベンチャービジネス論　織戸　恒男…… 107
秘書実務　原　かおり…… 109
コンテンツビジネス論　黄　　仙惠…… 111
サービスビジネス論　平野　英一…… 113
国際経営論　藤野　　洋…… 115
インターネットビジネス　劉　　博…… 117
簿記Ⅲ　稲塲　建吾…… 119
経営分析論　劉　　博…… 121
民法　三重野雄太郎…… 123
原価計算　稲塲　建吾…… 125
金融論　藤井喜一郎…… 127
会社法　三重野雄太郎…… 129
心理学　伊澤　利文…… 131
医療ビジネス論　一戸　真子…… 133
医療コミュニケーション論　一戸　真子…… 135
臨床心理学　蓮井千恵子…… 137
メンタルケア　蓮井千恵子…… 139
医療情報システム論　一戸　真子…… 141
産業心理学　赤城　知里…… 143
観光ビジネス論　齋藤　篤史…… 145
ホスピタリティ概論　冨吉　光則…… 147
ホテルビジネス基礎　冨吉　光則…… 149
ホテル経営論　齋藤　篤史…… 151
旅行業法　齋藤　篤史…… 153
観光マーケティング論　齋藤　篤史…… 155
かしこい旅行実務論　齋藤　篤史…… 157
エアラインビジネス　冨吉　光則…… 159
エアラインホスピタリティ　冨吉　光則…… 161
観光交通論　冨吉　光則…… 163
観光政策論　齋藤　篤史…… 165
ブライダルビジネスⅠ　岡本　尚也…… 167
ブライダルビジネスⅡ　岡本　尚也…… 169
アニメで学ぶ環境論　小島　　望…… 171
動物愛護　山田佐代子…… 173
生命の尊重　中野真樹子…… 175
ソーシャルメディア　劉　　博…… 177
テーマパーク論　冨吉　光則…… 179
健康ビジネス論　一戸　真子…… 181
スポーツマネジメント論　大野　貴司…… 183
スポーツマーケティング論　織戸　恒男…… 185
スポーツ心理学　相羽枝莉子…… 187
特殊講義Ⅰ　劉　　博…… 189
特殊講義Ⅱ　小島　　望…… 191
特殊講義Ⅲ　小島　　望…… 193
経営学（旧課程）　平澤　純子…… 195

4）こども学科開講科目

国語(書写を含む)　佐内　信之…… 197
生活　齋藤　澄子…… 199
栽培　橋本　敏幸…… 201
演劇　中村　一規…… 203

文学　～文学とドラマの交わり～	柴田　勝二

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

西洋の作品も交えつつ、主に古典から現代に至る日本文学の作品を対象として、その特質を講義します。劇と物語・小説作品については、著名作品の内容を把握するとともにその映像化を取り上げ、原作との比較をおこないます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：日本文学の特質
第 2 回	和歌と西洋詩：自然の表現の多様性
第 3 回	俳句から近代詩へ：言葉の意味とイメージの重なり
第 4 回	夢幻能の世界：『井筒』と『伊勢物語』
第 5 回	近松劇の世界：『心中天網島』を見る
第 6 回	『卒都婆小町』：三島由紀夫作品の概要と原作との比較
第 7 回	『源氏物語』：似姿を求める行動
第 8 回	『源氏物語』：堀川とんこう監督作品の鑑賞と検討
第 9 回	西洋のドラマ：『嵐が丘』の主題と風土
第 10 回	西洋のドラマ：『嵐が丘』と西洋的自我
第 11 回	『沈黙』：遠藤周作作品の概要と主題
第 12 回	『沈黙』：マーティン・スコセッシ監督作品の鑑賞と検討
第 13 回	『ドライブ・マイ・カー』：村上春樹作品の概要と主題
第 14 回	『ドライブ・マイ・カー』：濱口竜介監督作品の鑑賞と検討
第 15 回	『ドライブ・マイ・カー』：濱口竜介監督作品の鑑賞と検討

予習・復習

・予習：各時間に取り上げる作品についてあらかじめ学んでおくこと。
・復習：学習した内容を振り返り、レポート提出の準備をすること。

履修上の注意

・毎時間欠かさず出席すること。
・授業中は私語を慎むこと。
・遅刻は 10 分まで許容する。遅刻２回について欠席１回に換算する。

到 達 目 標

・日本の古典文学にどのような特質があるかを説明できる。
・三島・遠藤・村上といった近現代の代表的な作家がどのような作品を生み出しているか説明できる。
・文学作品を通して日本文化と西洋文化の違いを説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
日本文学への理解度（40%）	古典・近現代の代表的な作家・作品の特質を十分に説明できる。	古典・近現代の代表的な作家・作品の標準的な特質を説明できる。	古典か近現代の代表的な作家・作品の特質をある程度説明できる。	古典か近現代の代表的な作家・作品の特質を最低限説明できる。	古典か近現代の代表的な作家・作品の特質を説明できない。
日本演劇・映画への理解度（30%）	古典劇と現代映画の特質と、文学作品との連関を十分に説明できる。	古典劇と現代映画の特質と、文学作品との連関を標準的に説明できる。	古典劇か現代映画の特質をある程度説明できる。	古典劇か現代映画の特質を最低限説明できる。	古典劇か現代映画の特質を説明できない。
作品への鑑賞と批評の能力（30%）	原作の作品とそのドラマ化の特徴を把握したうえで自身の見解を明晰に述べることができる。	原作の作品とそのドラマ化の特徴を把握し、自身の見解を不足なく述べることができる。	原作の作品とそのドラマ化の特徴を把握し、自身の見解をある程度述べることができる。	原作の作品とそのドラマ化の特徴に対する自身の見解を最低限述べることができる。	原作の作品とそのドラマ化の特徴に対する自身の見解を適切に述べることができない。

評価方法

・時間ごとに課する小レポート：20%
・中間レポート：30%
・期末レポート：50%

テキスト

テキストは使用せず、毎時間教員がプリントを配布する。

歴史学　～国際関係からみるドイツ現代史～

蔦木　文湖

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

戦後ドイツの歩みは、国際社会の変化と密接に関わって展開してきました。特にその変化に大きな影響を受けてきたベルリンを中心に、戦後のドイツ、ヨーロッパ、国際社会の歴史的変遷を明らかにします。

戦後ドイツの歴史を、国際社会との関係を重視して時間の流れに即しつつ、ナチの歴史をめぐる問題、ベルリンの壁と人の移動、東西ドイツ統一、ヨーロッパ統合に重点を置いて講義します。そして、ドキュメンタリーや映画などの映像資料、毎回授業の最後に提出してもらう小レポートなどで理解を深めるとともに、現代ドイツに対する参加者の関心に応えたテーマ（料理や季節のイベントなど）も随時取り上げて、講義をおこなっていきます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	歴史を学ぶことの意義（ガイダンス・授業の進め方）
第 2 回	ドイツ帝国の成立からナチ・ドイツの時代まで
第 3 回	過去と現在の結びつき～ドキュメンタリー「ホロコーストを生きのびて」から学ぶ～
第 4 回	テーマ学習～映画の中のドイツ史、ナチ時代の女性たち～
第 5 回	戦後ドイツの歩み①～第二次世界大戦から東西ドイツの分断へ～
第 6 回	戦後ドイツの歩み②～国際社会の対立とベルリンの壁建設～
第 7 回	戦後ドイツの歩み③～外交的方向転換と新しい世代の登場～
第 8 回	戦後ドイツの歩み④～民主化運動からベルリンの壁崩壊へ～
第 9 回	映像で知るベルリンの壁崩壊 ～ドキュメンタリー「ヨーロッパ・ピクニック」から学ぶ～
第 10 回	東西ドイツ統一をめぐる政治的葛藤と心の壁
第 11 回	ドイツ統一がもたらしたもの～映画「グッバイ・レーニン！」から学ぶ～
第 12 回	国際社会の中のドイツ①～移民・難民問題を中心に～
第 13 回	国際社会の中のドイツ②～ヨーロッパ統合の発展と葛藤～
第 14 回	日本とドイツ～過去をめぐる取り組みから学ぶ～
第 15 回	まとめ～学習の振り返りと到達度の確認～

予習・復習

・予習：配布されたプリントを読み、授業の概要を把握して授業のポイントを理解すること

・復習：プリントに書き込んだ内容を復習し、次回の授業につながる要点を整理すること

履修上の注意

授業への質問・簡単なコメントを小レポートとして毎回授業の最後に作成し、提出することとします。小レポートのテーマは、講義の内容に即して、授業内で毎回発表します。提出されたレポートの中からいくつかを次の講義で紹介し、学生自身の多様な意見をお互いに知るという双方向的な学びを通し、理解を深めていきます。遅刻ややむをえぬ欠席については、その都度相談するようにしてください。

到 達 目 標

・私たちの住む日本の状況を常に念頭に置き、ドイツやヨーロッパの歴史を現代社会の問題として考察する。
・過去の歴史と現在のわたしたちとの結びつきを理解する。
・複合的・多層的な視点の獲得という歴史を学ぶ姿勢を身につける。
・授業で理解したことから、自身の考えを発展させまとめることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（60%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	授業内容についての理解ができていない。
自身の考えを文章で記述する力（授業内レポート）（30%）	独創的で説得力のある内容を記述することができている。	論理が通った考えを記述することができている。	不足する点があるが、自身の考えを書くことができている。	最低限の自身の考えについて記述ができる。	自身の考えについての記述ができない。
授業を受ける姿勢（10%）	自身の問いを明確に持ち、積極的に授業から答えを得ようとする。	授業を通じて自身の問いを立て取り組む事ができる。	授業から何かを得ようとする姿勢がある。	授業に取り組むが、多少不足がある。	授業の理解に受け身である。

評価方法

学期末試験 60%、授業内レポート 30%、受講態度 10%

テキスト

使用しません。プリント配布と視覚教材を使用します。また参考文献は授業内でお伝えします。

文化論　～映像で学ぶ企業理解のための「文化」論～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

上のサブタイトルをご覧になって「企業と文化って関係あるの」と思ったかもしれません。実は企業活動のプロセスや結果に大きな影響を及ぼします。この授業では「経営文化」「組織文化」「企業文化」といった文脈での「文化」を学びます。「文化」（価値と規範の体系）という概念で企業を見ることができるようになっていただきたいと思います。価値と規範といった概念で映像の中の出来事を見て映像の中の人々の「文化」を推察していただきます。具体的には次のようなことを講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業のねらい、授業の受け方、予習・復習のしかた、評価についての説明
第 2 回	§1　国による「文化」の違い　その 1 「文化が違う」ということはどういうことなのか、考えてみよう。
第 3 回	§1　国による「文化」の違い　その 2 行動の違いの根底にある、規範の違いを探ってみよう。
第 4 回	§1　国による「文化」の違い　その 3 文化の違いを理解しあうことは、いかにして可能か考えてみよう。
第 5 回	§2　官と民による「文化」の違い 官にはどんな文化があるかを学ぶ。
第 6 回	§2　官と民による「文化」の違い 官と民の文化の違い、違いの要因を学ぶ。
第 7 回	§2　官と民による「文化」の違い 官と民、それぞれの苦手を理解する。
第 8 回	§2　官と民による「文化」の違い 官と民、それぞれ学び合うべきところを考えてみよう。
第 9 回	これまでの学びの振り返り 授業の意図がつかめていたか、確認してみよう。
第 10 回	§3　「価値」による理解　その 1 自己理解：自分は何を大事にしている人なのかを理解しよう。
第 11 回	§3　「価値」による理解　その 2 企業理解：企業が追求する価値の表明たる経営理念、企業理念との向き合い方を学ぶ。
第 12 回	§4　「文化」による企業理解　その 1 企業が追求する価値の表明たる理念を浸透する方法を学ぶ。
第 13 回	§4　「文化」による企業理解　その 2 追求する価値が言動や企業の性格を規定することを学ぶ。
第 14 回	§4　「文化」による企業理解　その 3 企業の文化を誰がどのように体現しているかを理解しよう。
第 15 回	§4　「文化」による企業理解　その 4 企業の文化を自分なりに理解してみよう。

予習・復習

予習・復習に求めることは確認・要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の 2 点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②学んだ概念や理論が、ここにも当てはめることができるのではないかと思う経験や出来事を探してみてください。

・予習：前回の授業のポイントを 1 分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は成績に反映させます。
2 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
3 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。

到 達 目 標

この授業が終わる頃、次のような状態に到達することを目標とします。
1　あらゆる場で文化の違いに気づき、違う文化を尊重できるようになる。
2　文化という視点で企業を比較し、企業を理解できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 50%）	指導内容を深く理解した上で自分の意見や考えを持つことができている。	指導内容を十分理解できている。	指導内容を理解できていないところがある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度（ 50%）	意欲的に受講し、教室全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講し、教室全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に受講している。	意欲的に受講しているとは言えない。	意欲が見られない。

評価方法

・学期末試験（50%）：ルーブリックの「理解度」にあたります。
　　試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
・受講態度　（50%）：ルーブリックの「受講態度」にあたります。

テキスト

教科書はありません。教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分で確実に実行してください。

法学　～法をめぐるＨとＪの物語～	長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

ビジネス実務学科の教養科目として、私たちの生活を支える法律の枠組みをわかりやすく講義します。
ＨとＪという、どこにでもいる、ごく普通の２人の大学生のドラマをとおして、私たちの生活を支えている法律（刑法、刑事訴訟法、民法、民事訴訟法、憲法）の基礎理論を学びましょう。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	一瞬のできごと：何かが起こったときに突如として意識される法律の存在
第 2 回	なぜ罪を犯すと処罰されなければならないのか―**刑法**の基礎―（その１）
第 3 回	なぜ罪を犯すと処罰されなければならないのか―**刑法**の基礎―（その２）
第 4 回	罪を犯したＨの裁判―**刑事訴訟法**の基礎―（その１）
第 5 回	罪を犯したＨの裁判―**刑事訴訟法**の基礎―（その２）
第 6 回	罪を犯したＨの裁判―**刑事訴訟法**の基礎―（その３）
第 7 回	許せない！―事故を起こしたＨの民事責任：**民法** 不法行為法の基礎―
第 8 回	民事裁判手続―**民事訴訟法**の基礎―
第 9 回	病院と旅行会社の責任―**民法** 契約法の基礎―
第 10 回	Ｊと家族の物語―**民法** 家族法の基礎―
第 11 回	さいごの願い―法を決めるのは誰か：**憲法** 統治機構の基礎―（その１）
第 12 回	さいごの願い―法を決めるのは誰か：**憲法** 統治機構の基礎―（その２）
第 13 回	多数者でも侵害することのできない権利―**憲法** 基本的人権の基礎―（その１）
第 14 回	多数者でも侵害することのできない権利―**憲法** 基本的人権の基礎―（その２）
第 15 回	法律学を学ぶということ

予習・復習

・予習：次回の授業で扱われる内容に関する教科書の該当部分に目を通しておくこと。
・復習：授業で扱われた内容に関する教科書の該当部分を熟読すること。

履修上の注意

1）　民法については、ビジネス実務学科の専門科目として「民法」が開講されているので、本科目では基本的な枠組みのみを講義します。また、いわゆる六法のうち商法については、同じく専門科目として「会社法」が開講されているので、本科目では取り扱いません。
2）　受講学生諸君と対話を重ねながら授業を進めます。
3）　遅刻３回＝欠席１回として取り扱います。

到 達 目 標

1）　私たちの生活を支えている法律（刑法、刑事訴訟法、民法、民事訴訟法、憲法）の基礎理論のうち、その基本的な部分を理解することができるようになること。
2）　〈法的な考え方〉を身につけることができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容を十分に理解している。	授業内容をほぼ理解しているが多少の不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容について理解ができていない。
理解したことを文章で説明する力（30%）	他人に対し十分に説得し得る内容を記述することができる。	論理が通った説明文を書くことができる。	不足する点があるものの説明文を書くことができる。	最低限の内容についてのみ説明ができる。	内容についての説明ができない。
法的思考力（20%）	〈法的な考え方〉を十分に使いこなすことができる。	〈法的な考え方〉を身につけることができる。	〈法的な考え方〉を身につける努力をしている。	〈法的な考え方〉が足りない。	〈法的な考え方〉を知らない。

評価方法

毎回の授業の成果（51%）および定期試験の得点（49%）により厳正に評価する。

テキスト

・教科書名：『はじめての法律学―Hと J の物語―』第６版
・著 者 名：松井茂記ほか
・出版社名：有斐閣
・出 版 年（ISBN）：2020 年（978-4-641-22160-4）

経済学　～身近な経済事象を理解しよう～	稲場　建吾

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

ニュースや新聞に出てくるような経済事象について理解できるようになることを目的とした講義とします。就活時や就社後に役立つ知識を吸収してください。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　経済学の内容　：Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの概要を解説
第 2 回	Ⅰ　身近な経済用語編 株式(1)　株式、株式会社とは何か
第 3 回	株式(2)　株式の発行（発行市場）ならびに売買（流通市場）について
第 4 回	債券(1)　債券とは何か。株式、貸付金との違いについて
第 5 回	債券(2)　債券の評価とくに割引現在価値について
第 6 回	為替(1)　為替とは、円高・円安とは何かについて
第 7 回	為替(2)　為替換算と輸出、輸入について
第 8 回	小括
第 9 回	Ⅱ　ミクロ経済学編 需要と供給(1)　①需要曲線と供給曲線、②消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰について
第 10 回	需要と供給(2)　需要の価格弾力性について
第 11 回	損益分岐点(1)　理論（経済学）上の損益分岐点について
第 12 回	損益分岐点(2)　実際（会計学）上の損益分岐点について
第 13 回	Ⅲ　マクロ経済学編 国民総生産　　国民総生産とは何か。その算出方法について
第 14 回	物価　　物価および物価指数とは何か。指数算出方式について
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。

・復習：授業中に解いた問題を活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

・遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。

到 達 目 標

1. 身近な経済事象を経済学の視点から理解する。
2. 上記 1 の理解をもとにして、経済といわれるもの以外の諸々の現象についても考えてみようとする力を付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などからうかがえる。	強く興味を持っている様子が質問内容などからうかがえる。	興味を持っている様子が受講態度などからうかがえる。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などからうかがえる。	興味を全くもっていない様子が受講態度などからうかがえる。

評価方法

試験の成績 70%（内訳：基礎力 40%＋発展力 30%）、受講姿勢(毎回の質問・感想コメントが主)30%

テキスト

配付資料

自然科学　～自然の「循環」と私たちの暮らし～	小島　　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

自然が大切だと思う心を養うには、自然へ「興味を持つ」こと、そして「理解する」ことが必要です。本講義では、現代の社会情勢を把握しやすい自然環境の保全について共感し理解を深めるだけでなく、同時に社会情勢を把握題材を中心に扱うことで，学際的な講義を行います。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	生物の分類（「種」とは何か？） 同種であれば繁殖可能，種が違えば繁殖はできないのだが…
第 3 回	森林機能と緑のダム１ 天然の森林と人工の森林の比較を通じて「水」が生み出される謎を探る
第 4 回	森林機能と緑のダム２ 白神のブナ林を破壊する開発計画「清秋林道」と，世界遺産「白神山地」の魅力と問題点
第 5 回	自然も人間社会も破壊するダム１ ダム建設を拒否するムラ「徳島県木頭村」の歴史と現在
第 6 回	自然も人間社会も破壊するダム２ ダムは洪水防止にはならず反対に洪水を増やすという事実
第 7 回	干潟の埋め立てが漁業と農業を衰退させる１ 諫早湾にすむ生き物たちと水質浄化の関係
第 8 回	干潟の埋め立てが漁業と農業を衰退させる２ 「諫早干拓事業」を通して考える現代の環境破壊型農林水産業
第 9 回	干潟の埋め立てが漁業と農業を衰退させる３ 「諫早干拓事業」をめぐる裁判からみえる日本の歪んだ公共事業の構図
第 10 回	サンゴと沖縄の暮らし１ 沖縄観光ガイドとサンゴの再生事業の闇
第 11 回	サンゴと沖縄の暮らし２ 海の熱帯雨林「サンゴ礁」の成り立ちとしくみ
第 12 回	サンゴと沖縄の暮らし３ 新たに建設される米軍基地に反対して辺野古に座り込む基地反対運動の歴史と今
第 13 回	サンゴと沖縄の暮らし４ 不条理な日米地位協定が沖縄の自治と文化・伝統を破壊する
第 14 回	山と海をつなぐ川２ 「山は海の恋人」の理由とサケ・マス類の研究から導き出される山と海とのつながり
第 15 回	文明の崩壊と自然破壊 ラパ・ヌイにおける古代文明の衰退事例から学ぶ自然保護の重要性

予習・復習

・予習：次回の講義で扱うテーマのチェックは必ずしておいてください。授業内で予習や事前準備等の指示をすることがあります。

・復習：原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらいます。講義時間内に行ないますが、これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにする訓練だと考えてください。まれに復習の一環としてレポート提出をしてもらう時があります。

履修上の注意

皆が知らない「環境問題」に関する驚愕の事実を集めた内容となってるいるため、かなり楽しめると思います。なお、遅刻については公共交通機関の遅延を除き、授業開始 20 分以上が経過した際の入室は認めていません。授業中のスマホも厳禁です。

到 達 目 標

「環境問題」に興味を持ち、「環境問題」が自分の生活や社会と非常に密接につながっていることを理解，把握，行動ができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自ら進んで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の社会問題などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

講義時間内実施レポート 70%、定期テキスト 30%

テキスト

・教科書名：『生物多様性と現代社会：「生命の輪」30 の物語』
・著者名：小島望
・出版社名：農山漁村文化協会出版
・出版年：2010 年

環境論　～人と自然とのつながりを考える～	小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

講義前半は、自然科学・社会科学的な視点から「生物多様性（ヒトを含めた様々な生物のつながりとそれらを支える環境からなる全体)」とは何かについて考えます。後半は、動物園動物や身近なペットを題材に、「生命のつながり」について法的倫理的な問題を扱います。扱うテーマは全て、①物事を様々な角度から考える、②物事を批判的に見る目を持つ、③常に弱者へ配慮を忘れないようにする、④科学の限界を知る、の４つの視座から分析・検証を行なうことができる問題設定をし，講義を行います。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	野生動物への餌づけ 野生動物へ餌をあげることによる影響
第 3 回	野生動物の交通事故 野生動物の交通事故の原因と対策
第 4 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち１ レッドリスト、レッドデータブックとは何か
第 5 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち２ 生物の絶滅原因
第 6 回	動物園の役割と今後 1 動物園は必要？動物園の実態とは？
第 7 回	動物園の役割と今後 2 動物園を評価するための準備と予備知識
第 8 回	動物園の役割と今後 3 動物園評価の方法とその意味
第 9 回	動物園の役割と今後 4 動物園評価の発表
第 10 回	動物園の役割と今後 5 動物園の将来像
第 11 回	ペットと私たちの生活１ 身近なペット、イヌ・ネコ
第 12 回	ペットと私たちの生活２ 外来生物が引き起こす問題、輸入規制対象となる飼育動物
第 13 回	ペットと私たちの生活３ 飼育動物に関する法律
第 14 回	ペットと私たちの生活４ ペット産業の実態
第 15 回	ペットと私たちの生活５ イヌ・ネコの命を救う活動

予習・復習

・予習：次回の講義で扱うテーマのチェックは必ずしておいてください。授業内で予習や事前準備等の指示をします。

・復習：原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらいます。講義時間内に行ないますが、これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにする訓練だと考えてください。まれに復習の一環としてレポート提出をしてもらう時があります。

履修上の注意

「自然科学」を履修すればより理解が深まりますので，できる限り履修するようにしてください。本講義は、受講生にとって興味深いであろうとっておきの問題の題材ばかりを集め、また、受講生の人生観や価値観を変えるかもしれないような内容も用意しています。魅力的な講義ができるよう最大限の努力をしていますので、楽しみにしておいてください。なお、遅刻については公共交通機関の遅延を除き、授業開始 20 分以上が経過した際の入室は認めていません。授業中のスマホも厳禁です。

到 達 目 標

「環境問題」について、個人の努力や価値観で考えるのではなく、様々な角度から問題を検証する「多面的視点」を養うことを目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解してい る。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしてい る。	内容についての理解ができていな い。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の社会問題などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

講義時間内実施レポート 70%、定期テキスト 30%

テキスト

・教科書名：『生物多様性と現代社会：「生命の輪」30 の物語』
・著者名：小島望
・出版社名：農山漁村文化協会出版
・出版年：2010 年

英語　～*Business Talk* やさしいオフィス英語～	近藤 真理

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	1	選択	外国語科目　選択

授業概要

『*Business Talk* やさしいオフィス英語』という教科書を使い、大学生が商社に履歴書を送り、面接を受けるまでの成長の過程において、ビジネスに必要な英語の語彙と表現を学び、受講生が就職活動をするとき、さらには入社してから必須となる英語の知識を身につけられるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第1回	オリエンテーション　自己紹介　教科書の説明など
第2回	Unit 1: 英語で履歴書を書いてみよう（1）ボキャブラリービルディング・リスニング
第3回	Unit 1: 英語で履歴書を書いてみよう（2）オーラルプラクティス・ライティング
第4回	Unit 1: 英語で履歴書を書いてみよう（3）確認と復習
第5回	Unit 2: 英語で応募書類を書いてみよう（1）ボキャブラリービルディング・リスニング
第6回	Unit 2: 英語で応募書類を書いてみよう（2）オーラルプラクティス・ライティング
第7回	Unit 2: 英語で応募書類を書いてみよう（3）確認と復習
第8回	これまでのまとめと復習
第9回	Unit 3: 英語での面接に備えよう（1）ボキャブラリービルディング・リスニング
第10回	Unit 3: 英語での面接に備えよう（2）オーラルプラクティス・ライティング
第11回	Unit 3: 英語での面接に備えよう（3）確認と復習
第12回	Unit 4: 英語で面接を受ける（1）ボキャブラリービルディング・リスニング
第13回	Unit 4: 英語で面接を受ける（2）オーラルプラクティス・ライティング
第14回	Unit 4: 英語で面接を受ける（3）確認と復習
第15回	レポート提出　これまでのまとめと復習

予習・復習

・予習：次の回に学ぶテキストの箇所を読んで、知らない語彙、表現を必ず辞書で調べておくこと。
・復習：授業後には、授業中にとったノートとテキストを使い、読み、書き、繰り返し発音して復習すること。

履修上の注意

授業には必ず英和辞典（電子辞書も可）を持参し、授業に積極的に参加すること。授業後には、授業中にとったノートとテキストを繰り返し書き、読み、繰り返し音声を聴き、発音して復習してくる（音声データは出版社のサイトからダウンロードできる)。遅刻は受講態度においてマイナスとなる。

到達目標

学生が、ビジネスのさまざまな場面で用いられる英語の語彙や表現を習得することによって、英語の基本的な日常会話能力、英語圏における常識や教養、英語による履歴書やメールなどの文章表現力など、総合的な英語力を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
英語の基本的な日常会話能力（50%）	相手の言うことが理解でき、十分な会話の発信もできる。	十分ではないが、相手の会話が理解でき、意思疎通が可能である。	聞き取り能力はあるが、発信能力が不足している。	英語力に関する基本的な学力がやや不足し、努力を要する。	英語の基礎力からの再養成が必要である。
英語圏の異文化における常識や教養（20%）	異文化理解に必要な知識を十分にできている。	英語圏の異文化理解のための教養をおおむね修得している。	異文化理解のための文化的基礎力がやや不足している。	異文化理解に、基本的な教養が不足し、努力を要する。	基本的な教養、社会的通念の再要請が必要である。
英語による履歴書やメールなどの文章表現力（30%）	英語で業務に必要な文章を独力で十分に作成できる。	メールなどの一般的な英語の文章は作成できる。	ファーマルな英語を作成するのにやや努力を要する。	英語による日常的な文章作成に基本的能力がやや不足し、努力を要する。	英語による日常的な文章作成ができない。

評価方法

レポート 60%　受講態度 40%　授業参加点も含めます。

テキスト

・教科書名：『*Business Talk* やさしいオフィス英語』
・著 者 名：城由紀子、島田拓司、Edward J. Schaefer
・出版社名：成美堂
・出 版 年（ISBN）：1997 年（978-4-7919-4711-9）

英会話　～海外出張、旅行の英会話～	蒔田　裕美

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2 年	後期	1	選択	外国語科目　選択

授 業 概 要

主に海外出張や旅行先の様々な場面で使用する英語表現を学ぶが、習得するフレーズは旅先に限らず、日常生活や、日本に来た外国人を観光案内する際にも大いに役立つ。本科目では、日常生活の基本的な英語表現を学び、実際に運用できるよう指導する。アクティビティやロールプレイを通して会話練習を行い、自信を持って英語でコミュニケーションがとれることを目指す。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、英語で自己紹介
第 2 回	Unit 1: On the Plane
第 3 回	Unit 2: At the Currency Exchange
第 4 回	Unit 3: At the Hotel 1
第 5 回	Unit 4: At the Hotel 2
第 6 回	Unit 5: On the train/ Bus
第 7 回	Unit 6: Sightseeing 1
第 8 回	Review 1: Unit 1-6
第 9 回	Unit 7: Shopping 1
第 10 回	Unit 8: Shopping 2
第 11 回	Unit 9: At the Post Office
第 12 回	Unit 10: Sightseeing 2
第 13 回	Unit 11: At the Restaurant
第 14 回	Unit 12: At the Hospital/ Pharmacy
第 15 回	Presentation

予 習 ・ 復 習

・予習：テキストの単語の意味を調べ、問題をあらかじめ解いて分からない箇所を明確にしておく。

・復習：授業で学んだ英単語の発音練習をして、表現を自分のものにできるよう覚える。

履修上の注意

遅刻２回で欠席１回とみなす。授業開始から大幅に時間が過ぎても、参加の意欲があれば欠席扱いにしないので遅刻してもあきらめないで授業に参加すること。

到 達 目 標

・海外旅行先での様々な場面で自信を持って適切に話せるようになる。
・相手に伝わる発音や英語のイントネーションが身につく。
・海外でのマナや一慣習について理解できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（50%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
表現力（50%）	場面に応じた多様な英語表現を用い、正しい発音で自分の意見を表明することができる。	相手に伝わる発音と適切な英単語で自分の意見を表現できる。	英語で最低限の意思疎通をすることができる	英単語の並べ方や発音に改善が必要である。	英語を聞き取り、発音することができない。

評価方法

授業内確認テスト 50%、発表 50%

テキスト

・教科書名：『My First Trip: Key Phrase for Traveling Abroad 使える！話せる！海外旅行の基本フレーズ』
・著 者 名：工藤多恵
・出版社名：センゲージラーニング
・出 版 年（ISBN）：2014 年（978-4-86312-242-0）

中国語　～中国語初級～	李　　小捷

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	1	選択	外国語科目　選択

授業概要

この授業は初めて中国語を学ぶ学習者を対象とするものである。正確な発音の読み書きや基礎単語、初級レベルの文法項目などを学ぶ。授業中、先生やクラスメートとの練習、ロールプレイなどを通して、中国語の基本的な表現を身に付ける。最終的に日常的なコミュニケーション能力を養う。また、中国関連の視聴覚資料や中国の歌などを通して現代中国の文化や社会にたいする理解力を高めていくように講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	はじめての中国語、中国語の発音基礎 1（声調、あいさつ言葉）
第 2 回	中国語の発音基礎 2（単母音、子音）
第 3 回	中国語の発音基礎 3（複合母音、鼻音母音、数字の言い方）
第 4 回	第 1 課　初対面のあいさつなど、要点、会話文
第 5 回	第 1 課　会話文、練習問題、読み物
第 6 回	第 2 課　いろいろな場所の言い方など、要点、会話文
第 7 回	第 2 課　会話文、練習問題、読み物
第 8 回	第 3 課　いろいろな身の回り品の言い方など、要点、会話文
第 9 回	第 3 課　会話文、練習問題、読み物
第 10 回	第 4 課　いろいろな中華料理の言い方など、要点、会話文
第 11 回	第 4 課　会話文、練習問題、読み物
第 12 回	第 5 課　1 日のルーティン、時刻の言い方など、要点、会話文
第 13 回	第 5 課　会話文、練習問題、読み物
第 14 回	第 6 課　いろいろな特長の言い方など、要点、会話文
第 15 回	第 6 課　会話文、練習問題、読み物

予習・復習

・予習：各課の前に、その課の単語や文法の説明を予習すること。

・復習：授業で習った文法、単語、会話文を復習し、覚えること。

履修上の注意

積極的な授業参加の態度が重視される。
遅刻３回は無断欠席１回となる。

到 達 目 標

1. 正しい発音、基礎単語、文法をマスターする。
2. 中国語で自分の名前や自己紹介などを言えるようになる。
3. 教科書の表現を覚え、実際の場面に生かすことができるようになる。
4. 中国文化の映像などを通じて、中国語学習の興味を高めるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
語彙・文法の習得度（60%）	授業における教員の説明を聞いて理解でき、習得できる。	授業で文法や語彙の使い方の説明を聞いて教科書の内容をほとんど理解できる。	授業で文法や語彙の使い方の説明を聞いて教科書の内容を多く理解できる。	授業で文法や語彙の使い方の説明を聞いて教科書の内容を最低限に理解できる。	授業で文法や語彙の使い方の説明を聞いて教科書の内容を最低限に理解できない。
発音習得度（20%）	一人で音声を聞いて正しく発音できる。	一人で音声を聞いてある程度、正しく発音できる。	授業で教員の発音を聞いて、やや正しく発音できる。	授業で教員の発音を聞いて、指摘されながら、正しく発音できる。	教員の発音を聞いて、何回も指摘されても、うまくまねできない。
異文化理解力（20%）	授業で視聴覚資料などを通じて中国の文化を説明できる。	授業で視聴覚資料などを通じて中国の文化を多く理解できる。	授業で視聴覚資料などを通じて一部の中国の文化を理解できる。	授業で視聴覚資料などを通じて中国の文化を最低限に程度理解できる。	授業で視聴覚資料などを見ても理解できない。

評価方法

学期末試験 70%　小テスト 20%　授業態度 10%

テキスト

・教科書名：『中国語への旅立ち　―基礎からの出発―』
・著 者 名：王振宇　李小捷著
・出版社名：朝日出版社
・出 版 年（ISBN）：978-4-255-45387-3

韓国語　～韓国語が読める・使える～

李　芝善

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	1	選択	外国語科目　選択

授業概要

言葉は文化の一部であり、他者の文化を理解するための入り口でもある。そのため、自他理解の出発点とも言える外国語の必要性は益々高まる一方である。外国語の中でも韓国語は、日本語と語順が似ている点で学びやすく短期間でも文字が読めるとても魅力的な言語である。この講義では、韓国語・韓国文化学習を通じて国際異文化理解を深めることを主たる目的とし、韓国語の基礎的なコミュニケーションに必要なハングル文字の読み書きはもちろん、簡単な読解と日常会話・観光ビジネス会話ができることを目指す。授業の７回目までは、発音の練習と読み書き単純な会話が中心で、正確な発音を身につけてもらい同時に聞く、書く、読む力をつけて行く。

基本の読み書きが終わったら毎回、基礎文法事項を活用し言語活動を行う。言語活動時には、異文化体験やリスニングのためにドラマや映画、音楽など韓国文化にも触れながら学習者が緊張せず、自由に話せるように指導する。さらに卒業後、韓国係会社の就職を考える学生のためにも韓国語能力試験（TOPIK）２～３級を目指したいと考えている。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス及び韓国の文字（ハングル）と音韻体系
第 2 回	あいさつと韓国語の基本母音　◇「自己紹介」＊発表
第 3 回	ハングルの子音①「平音」　◇演習・文化体験（映像）
第 4 回	ハングルの子音②「平音」と「複合母音‘에（エ)’」 ◇演習・文化体験（映像）
第 5 回	ハングルの子音③「激音」子音④「硬音（濃音)」 ◇演習・文化体験（映像）
第 6 回	ハングルの複合母音　◇演習・文化体験（映像）
第 7 回	パッチムと発音の変化・読み書き練習・音楽　◇演習・文化体験（映像）
第 8 回	天気の表現―助詞「～は・～が」、肯定文・疑問文「～です・～ですか」◇会話演習
第 9 回	趣味を言う―指示代名詞「これ・それ・あれ」、助詞「～も」、疑問詞「何」 ◇会話演習
第 10 回	場所や存在の有無を説明する―「～にある・いる」「～にない」、位置名詞、 疑問詞「どこ」、助詞「～と」＊発表
第 11 回	好みを聞く「好きな料理について」否定形「～ない」◇会話演習
第 12 回	道案内「行きたい場所を聞く」願望の表現「～たい」◇会話演習
第 13 回	電車の乗り換え「動詞・形容詞の丁寧語及び過去形」◇会話演習
第 14 回	歴史・映画①『7 番房の贈り物』前半「1950 年以降の韓国社会を中心に」
第 15 回	歴史・映画②『7 番房の贈り物』後半「冤罪が生まれるシステムを考える」・まとめ

予習・復習

・予習：毎回、提示されるテキストを読んでくること。
・復習：小テストのために毎回提示される課題をやってくること。

履修上の注意

1. 外国語の授業なので、ペアで行う言語演習活動など授業への積極的な参加が求められる。
2. 30 分以内の遅刻でも授業への積極さを考慮し、出席とする。

到 達 目 標

1. ハングルの発音表記をマスターして、正確な発音と読み書きができる。
2. 基礎的な文法事項を応用して、韓国語で簡単なコミュニケーションができる。
3. 韓国語での多様な会話演習活動を通じてグローバルビジネスに必要な言語力を高める。
4. 韓国文化・韓国社会についての知識及び異文化理解を深める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
読み書き （ 40%）	ハングル文字が正確に読み書きでき、文章の構造も理解できる。	ハングル文字が正確に読み書きできる。	正確ではないが、ハングル文字が大体読み書きできる。	最低限のハングル文字しか読み書きできない。	指導しないとハングル文字が読み書きできない。
リスニング （ 20%）	会話の主旨や基本的な文脈、難しい語彙も理解できる。	会話の基本的な文脈や簡単な語彙が理解できる。	会話の簡単な語彙やよく使用される句が理解できる。	会話の簡単な語彙しか理解できない。	会話の極限られた語彙しか理解できない。
表現力 （ 40%）	語彙や文型、文法を正確に使え、さらに応用できる。	語彙や文型、文法を正確に使える。	語彙や文型、文法の使いに多少の間違いがある。	最低限の語彙や文型、文法しか使えない。	指導しないと単語や文型、文法を正確に使えない。

評価方法

平常点（50%―毎回の言語演習参加度 20%・簡単な小テスト 10%・課題 10%・発表 1 回 10%）、試験（50%）

テキスト

テキストのページ数と授業回数を考慮したところ、テキストの全てを活用することができないため、
テキストは使用せず、プリント教材を配布する。

経営学　～経営学でものごとを見る、考える～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

みなさんの中には、「就職に有利かなぁ」と考えてビジネス実務学科を選んだ方も少なくないと思います。ビジネス実務学科では経営学関連科目を学ぶことになります。その入門的な科目がこの「経営学」です。

同じ組織、同じ出来事を見聞きしても、学んだ分野で気になるところも考えることも違うものです。「経営学」を学ぶ人は、何を気にして、何を考えてきたのでしょうか。これを一緒に学ぶことで、みなさんが働くようになって職場や仕事のことで気がついたり、よりよくする方法を考えたりすることができるようになればと思います。具体的には次のようなことを指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業のねらい、授業の受け方、予習・復習のしかた、評価について説明する。
第 2 回	経営学を学ぶ意義：経営学を学んだことを、こう生かしてほしい
第 3 回	経営学 before/after：経営学を学ぶ前の私たちは何を気にして何を考えるか
第 4 回	マネジメントとは
第 5 回	企業は何のために、誰のために？
第 6 回	企業はどうすれば目標を達成できるか
第 7 回	企業はどのように戦略を実行するか
第 8 回	企業は人と組織をどうマネジメントするか
第 9 回	マネジメント理論の展開　その 1　経営戦略論
第 10 回	マネジメント理論の展開　その 2　経営管理論
第 11 回	マネジメント理論の展開　その 3　経営組織論
第 12 回	マネジメント理論の展開 その 4　比較的最近の理論
第 13 回	企業とは、経営とは
第 14 回	経営学 before/after：経営学を学んだ私たちは何を気にして何を考えるか
第 15 回	まとめとふりかえり

予習・復習

予習・復習に求めることは確認・要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の 2 点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②学んだ概念や理論が、ここにも当てはめることができるのではないかと思う経験や出来事を探してみてください。

・予習：前回の授業のポイントを 1 分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は成績に反映させます。
2 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
3 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。

到 達 目 標

この授業が終わる頃に、次のような状態に到達することを目標とします。
・組織で働いたり活動したりするときに、経営学が生かせないか考えられるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 50%）	指導内容を深く理解した上で自分の意見や考えを持つことができている。	指導内容を十分理解できている。	指導内容を理解できていないところがある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度（ 50%）	意欲的に受講し、教室全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講し、教室全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に受講している。	意欲的に受講しているとは言えない。	意欲が見られない。

評価方法

・学期末試験（50%）：ルーブリックの「理解度」にあたります。
　　試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
・受講態度　（50%）：ルーブリックの「受講態度」にあたります。

テキスト

教科書はありません。教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分で確実に実行してください。

キャリアデザインⅠ　～社会が求める力の習得～	赤城　知里

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

社会人意識の養成と、自己評価を高める講義です。社会人になる心の準備を一緒に行うと同時に、他者との関わりを通じて自己評価を高めます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　授業のねらい、意図を伝え、受講にあたり心構えを共有します
第 2 回	社会が求める力　社会で求められている力は何なのか検討し、学生と社会人の違いを学びます
第 3 回	企業で働くということ　企業は、チームで働きます。チームで働くということがどういうことなのか？グループとチームの違いを解説し、コミュニケーション能力の重要性に気づきます
第 4 回	コミュニケーション力基礎　コミュニケーションの基本スキル学びます。
第 5 回	コミュニケーション力実践　基本スキルを活用しながら、グループでのワークを通じて、コミュニケーション力をブラッシュアップしコミュニケーションの楽しさを実感します
第 6 回	ビジネスコニュニケーション　ビジネスでのコミュニケーションの基本ついて学びます
第 7 回	自己理解を深める１　これまでの人生を振り返り、経験の意味を考えます。
第 8 回	自己理解を深める２　強みについて理解します
第 9 回	自己理解を深める３　ペアワークでこれまでの体験を振り返ります。
第 10 回	インターンシップについて　インターンシップについて理解します
第 11 回	社会人になるということは？　これまでの授業を振り返り自分自身が社会で働くイメージをします。講師や学生同士でのディスカッションを通じて、社会人になる上での疑問や不安を解消します。
第 12 回	ビジネスプレゼンテーション　プレゼンテーションの方法ついて理解します。
第 13 回	プレゼンテーション準備　社会人になるということは、どういうことなのか？考え、グループでプレゼンテーションの準備をします
第 14 回	プレゼンテーション　13 回で準備した内容をプレゼンテーションします。
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：毎回の授業テーマについて、ネットで調べ自分なりに理解し、疑問点を明確にする。
・復習：授業での学びをリアクションペーパーで整理し理解する。

履修上の注意

人と関わることや発表の機会が多い授業である。
教員と学生が双方向でやりとりしながら運営し、グループワーク等体感的なカリキュラムであり、主体的に参加することを求める。
遅刻厳禁。提出物の締め切り厳守。

到 達 目 標

・授業を通じて社会人として働く意識を持てるようになる
・他者との関わりを通じて自己理解を深め、自分を肯定できるようになり自信をつくることができる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（30%）	自分の考えを他人に伝わるように論理的に記述する事ができる。	自分の考えを含めて記述する事ができる。	不足する点があるが、課題に沿った文を書く事ができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明ができない。
積極性（40%）	率先して自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する努力ができる。	リアクションを取るなど、人と関わろうという意思がある。	人と関わろうとしない。

評価方法

授業での積極性（発言、他者との関わり、意欲）２０％
毎回の授業レポート課題（リアクションペーパー）２０％
定期試験（レポート）６０％

テキスト

必要に応じてプリントを配布

キャリアデザインⅡ　～就職活動に向けて準備をしよう～	赤城　知里

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

就職活動について理解し就職活動を行えるように講義します。就職活動のノウハウを扱いますが、基本は、「社会人意識の養成」です。社会人としての文章の書き方、社会人としての話し方等、「社会人として」という視点を意識し、「社会人力を身に付けることで自ずと内定がついてくる」という共通理解のもと運営しますので、就職活動だけではなく、就職後も役に立つカリキュラムです。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	自己理解１　職業選択について理解します。働く上で大切な価値観について、ワークを通じて自己理解を深め働くイメージをします
第 3 回	自己理解２　適職について考えます。ワークを通じ、固定概念を覆し、自分の可能性を広げます
第 4 回	業界職種企業研究　業界・企業・職種についての理解を深めます。研究の方法、各種企業説明会の違いやブラック企業について検討し、社会を知ることができます
第 5 回	エントリーシート・履歴書対策　エントリーシートや履歴書の役割、ルールをおさえます。基本質問に対する意図と作成ポイントを解説します
第 6 回	自己 PR　書き方の原則、自分の個性を文字に起こすポイントを学びます
第 7 回	学生時代力を注いだ事　書き方の原則、自分の個性を文字に起こすポイントを学びます
第 8 回	履歴書の作成　履歴書様式を使い、実際に記入していきます。一度作成してみる事で、今自分に足りていないものが何か？認識できます
第 9 回	面接マナー　第一印象を磨き、身だしなみのポイントをチェックします。笑顔、挨拶を繰り返し実践練習することで、第一印象をアップできます。
第 10 回	面接対策基礎　面接の流れ、基本質問とその主旨、ポイントを解説し、実践します。
第 11 回	面接対策実践　模擬面接を実施します。複数回繰り返すことで、面接への抵抗感を緩めます。
第 12 回	履歴書ブラッシュアップ　実際に作成した履歴書をもとに、ブラッシュアップします。彼らが作成したものを元に、事例比較検討を行う事で、質の向上と応募書類作成意欲を高めます
第 13 回	グループディスカッション基礎　グループディスカッションとは何かを学びます
第 14 回	グループディスカッション実践　実際にグループディスカッションを体験します
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：毎回の授業テーマについて、ネットで調べ自分なりに理解し、疑問点を明確にする。
・復習：授業での学びをリアクションペーパーで整理し理解する。

履修上の注意

人と関わることや発表の機会が多い授業である。
教員と学生が双方向でやりとりしながら運営し、グループワーク等体感的なカリキュラムであり、主体的に参加することを求める。
遅刻厳禁。提出物の締め切り厳守。

到 達 目 標

・授業を通じて社会人として働く意識を持てるようになる
・自己理解・職業理解をし、自分の強みを活かして働くイメージができる
・他者との関わりを通じて、自信を持って就職活動に取り組むことができる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（30%）	自分の考えを他人に伝わるように論理的に記述する事ができる。	自分の考えを含めて記述する事ができる。	不足する点があるが、課題に沿った文を書く事ができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明ができない。
積極性（40%）	率先して自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する努力ができる。	リアクションを取るなど、人と関わろうという意思がある。	人と関わろうとしない。

評価方法

授業での積極性（発言、他者との関わり、意欲）３０％
毎回の授業レポート課題（リアクションペーパー）２０％
定期テスト（レポート）５０％

テキスト

必要に応じてプリントを配布する

簿記Ⅰ　～簿記の入門知識を学ぶ～	稲場 建吾・劉　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

簿記とは、企業の経営活動を記録・計算・整理して、企業の経営成績と財政状態をあきらかにする記帳技術です。簿記Ⅰにおいては、この簿記の入門的な知識および技術を講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	簿記の基礎概念(1)
第 2 回	簿記の基礎概念(2)
第 3 回	簿記上の取引概念(1)
第 4 回	簿記上の取引概念(2)
第 5 回	勘定と仕訳(1)
第 6 回	勘定と仕訳(2)
第 7 回	帳簿の記入(1)
第 8 回	帳簿の記入(2)
第 9 回	決算と財務諸表(1)、とくに試算表(1)について
第 10 回	決算と財務諸表(2)、とくに試算表(2)について
第 11 回	決算と財務諸表(3)、とくに財務諸表(1)について
第 12 回	決算と財務諸表(4)、とくに財務諸表(2)について
第 13 回	現金と預金(1)
第 14 回	現金と預金(2)
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。
・復習：授業中に解いた問題

履修上の注意

1. 1年前期に簿記Ⅰと簿記Ⅱは同時に履修してください。この2科目で学習の想定範囲が完結するように構成されているためです。
2. 毎回電卓を持参してきてください。
3. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。

到 達 目 標

①簿記の基礎概念が理解できる。②簿記上の取引が理解できる。③基本的な仕訳ができる。④転記ができる。

本講受講後に、全経簿記・基礎簿記会計には合格してもらいたいとおもいます。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などからうかがえる。	強く興味を持っている様子が質問内容などからうかがえる。	興味を持っている様子が受講態度などからうかがえる。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などからうかがえる。	興味を全くもっていない様子が受講態度などからうかがえる。

評価方法

試験の成績 70%（内訳：基礎力 40%＋発展力 30%）、受講姿勢(毎回の質問・感想コメントが主)30%

テキスト

・教科書名１：『新検定簿記講義　3級商業簿記』
　・著 者 名：渡部裕亘・片山　覚・北村敬子編著
　・出版社名：中央経済社
　・出 版 年（ISBN）：2025年

・教科書名2：『新検定簿記ワークブック　3級商業簿記』
　・著 者 名：渡部裕亘・片山　覚・北村敬子編著
　・出版社名：中央経済社
　・出 版 年（ISBN）：2025年

簿記Ⅱ　～簿記の基本知識を学ぶ～	稲場　建吾・劉　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

簿記Ⅰでは、商業の小企業で必要とされる簿記上の入門的な知識および技術を修得しました。簿記Ⅱでは、引き続き、商業の小企業で必要とされる簿記上の基礎的な知識および技術を講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	商品売買(1)
第 2 回	商品売買(2)
第 3 回	売掛金と買掛金(1)
第 4 回	売掛金と買掛金(2)
第 5 回	その他の債権債務(1)
第 6 回	その他の債権債務(2)
第 7 回	手形(1)
第 8 回	手形(2)
第 9 回	固定資産(1)
第 10 回	固定資産(2)
第 11 回	収益と費用
第 12 回	合計残高試算表
第 13 回	精算表と財務諸表
第 14 回	伝票会計
第 15 回	重要論点の復習

予習・復習

・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。
・復習：授業中に解いた問題

履修上の注意

1. 1年前期に簿記Ⅰと簿記Ⅱは同時に履修してください。この2科目で学習の想定範囲が完結するように構成されているためです。
2. 毎回電卓を持参してきてください。
3. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。

到 達 目 標

簿記Ⅰの目標は、①簿記の基礎概念が理解できる、②簿記上の取引が理解できる、③基本的な仕訳ができる、④転記ができる、でしたが、それを前提に、簿記Ⅱの目標は、⑤補助簿の作成ができる、⑥基本的な決算手続きができる、となります。

本講受講後に、全経簿記3級はもちろんですが、日商簿記3級に合格してもらいたいとおもいます。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などからうかがえる。	強く興味を持っている様子が質問内容などからうかがえる。	興味を持っている様子が受講態度などからうかがえる。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などからうかがえる。	興味を全くもっていない様子が受講態度などからうかがえる。

評価方法

試験の成績 70%（内訳：基礎力 40%＋発展力 30%）、受講姿勢(毎回の質問・感想コメントが主)30%

テキスト

・教科書名１：『新検定簿記講義　3級商業簿記』
　簿記Ⅰに同じ

・教科書名 2：『新検定簿記ワークブック　3級商業簿記』
　簿記Ⅰに同じ

情報処理Ⅰ　～パソコンの基本操作方法を学ぶ～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ビジネス実務で必要なパソコンの知識と技能を習得するために、パソコンの使用方法とパソコン利用の基礎となるアプリケーションソフト（Microsoft Word／Microsoft Excel）の操作方法を、ハンズオン（体験型学習）形式で指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方と成績の評価方法についての説明／Microsoft（Office）365 の基本設定
第 2 回	パソコンの基本操作 ① Microsoft Teams の基本設定／パソコンを学ぶことの意義とパソコンの基礎の理解
第 3 回	パソコンの基本操作 ② Microsoft Word ファイルの作成（アプリの起動）／簡単な文字入力
第 4 回	パソコンの基本操作 ③ 簡単な文書作成とタイピング練習
第 5 回	インターネット検索 Web ブラウザと検索エンジンの理解／インターネット検索による情報収集
第 6 回	電子メールの設定と使用 ① ドメインの理解／Outlook の操作方法／電子メールの送受信／添付ファイルの送受信
第 7 回	電子メールの設定と使用 ② 電子メールの署名の設定／電子メールの書き方とマナー（件名・宛名・本文・署名）
第 8 回	Web 会議システム（Zoom）の基本操作 サインアップ／ダウンロード／サインイン／基本機能の理解／会議への参加など
第 9 回	Microsoft Word を使った文書作成 ① イラストを使ったチラシの作成（図形の組み合わせによるイラストの作成など）
第 10 回	Microsoft Word を使った文書作成 ② アンケート用紙の作成（文字・文章の編集やレイアウトなどの詳細設定など）
第 11 回	Microsoft Word を使った文章作成 ③ 施設利用申込書の作成（表の作成や行間・列幅の設定／塗りつぶしの装飾など）
第 12 回	Microsoft Excel を使った表作成と表計算 ① Excel の画面構成と機能の理解／表の作成と装飾（基礎）／表計算（基礎）
第 13 回	Microsoft Excel を使った表作成と表計算 ② Excel の画面構成と機能の理解（復習）／表の作成と装飾（応用）／表計算（応用）
第 14 回	Microsoft Excel を使った表作成と表計算 ③ グラフの種類と用途の理解／グラフの作成（縦棒・積み上げ縦棒・集合縦棒グラフ）
第 15 回	前期 定期試験対策（模擬試験）

予習・復習

・予習：講義で取り上げるテーマを必ず事前に確認すること（授業内で事前準備の指示あり）。
・復習：講義で学習した内容を必ずその日のうちに復習すること（授業内で課題の指示あり）。
※タイピングの練習を毎日必ず 30 分以上行なうこと。

履修上の注意

1. 事前に充電を完了させたノートパソコンを毎回必ず持参すること。
2. 受講者の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. パソコンの基本機能と操作方法を理解する。
2. キーボードの文字入力・タイピングを習得する。
3. アプリケーションソフト（Microsoft Word／Microsoft Excel）の基本機能を理解するとともに、基礎的な操作方法を習得する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
パソコンの基本操作（20%）	講義で取り上げていないパソコンの機能を応用することができる。	講義で取り上げたパソコンの機能を活用することができる。	パソコンの機能をある程度活用することができる。	パソコンの機能を活用することは不十分だが、アプリケーションソフトをある程度操作することができる。	アプリケーションソフトの操作が不十分である。
Microsoft Word の基本操作（30%）	講義で取り上げていない Word の機能を応用することができる。	講義で取り上げた Word の機能を活用することができる。	Word の機能をある程度活用することができる。	Word の機能を活用することは不十分だが、Word で文章を入力することができる。	Word では不完全な文章しか入力できない。
Microsoft Excel の基本操作（50%）	講義で取り上げていない Excel の機能を応用することができる。	講義で取り上げた Excel の機能を活用することができる。	Excel の機能をある程度活用することができる。	Excel の表計算は不十分であるが、Excel で表を作成することができる。	Excel では不完全な表しか作成できない。

評価方法

前期定期試験 40%、提出課題（合計 10 種類を予定）40%、受講態度 20%

テキスト

- 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
- 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「情報処理Ⅰ」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

情報処理Ⅱ

～ビジネス実務におけるパソコンの実践的活用方法を学ぶ～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ビジネス実務に必要なアプリケーションソフト（Microsoft Word／Microsoft Excel／Microsoft PowerPoint）の実践的活用方法を習得するために、就職活動や就職後に役立つ資料作成の技能をハンズオン（体験型学習）形式で指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や情報処理Ⅱの最終ゴール、成績の評価方法などについての説明など
第 2 回	Microsoft Word の実践的活用方法 ① Word を使ったポスターの作成（イベントの告知）
第 3 回	Microsoft Word の実践的活用方法 ② Word を使ったレポートの作成（論文・レポートの書き方）
第 4 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ① Microsoft Excel を使った表計算とグラフの作成／データの解釈方法 1（日本の財政規模）
第 5 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ② Excel を使った表計算とグラフの作成／データの解釈方法 2（年収ランキング）
第 6 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ③ Excel を使った表計算とグラフの作成／データの解釈方法 3（平均年収の推移）
第 7 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ④ Excel を使った表計算とグラフの作成／データの解釈方法 4（生産性・経済成長）
第 8 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ⑤ Excel を使った表計算とグラフの作成／データの解釈方法 5（データの代表値）
第 9 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ⑥ Excel を使った表計算とグラフの作成／データの解釈方法 6（相関係数の計算）
第 10 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ① 効果的なプレゼンテーション資料の作成 1（イベント案内資料の作成）
第 11 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ② 効果的なプレゼンテーション資料の作成 2（スライドデザインの活用）
第 12 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ③ 効果的なプレゼンテーション資料の作成 3（オリジナルテンプレートの作成）
第 13 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ④ 自己 PR プレゼンテーション資料の作成 1
第 14 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ⑤ 自己 PR プレゼンテーション資料の作成 2
第 15 回	後期 定期試験対策（模擬試験）

予習・復習

・予習：講義で取り上げるテーマを必ず事前に確認すること（授業内で事前準備の指示あり）。
・復習：講義で学習した内容を必ずその日のうちに復習すること（授業内で課題の指示あり）。
※テキスト・データ入力が苦手だと感じている履修生は、情報処理Ⅰに引き続き、タイピングの練習を毎日必ず 30 分以上行なうこと。

履修上の注意

1. 事前に充電を完了させたノートパソコンを毎回必ず持参すること。
2. 受講者の理解度や課題の作業進捗などに応じて、授業内容を変更することがある(業界・企業のデータ分析／生成 AI のインプット・アウトプットの追加講義を予定)。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡)。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. 文字の装飾や図形・画像の挿入、レイアウトのデザインなど、Microsoft Word の応用機能を習得する。
2. グラフの種類と用途を使い分けることができる（Microsoft Excel)。
3. スライド資料のストーリー作成と図・文字・色・レイアウトなどの装飾を表現することができる(Microsoft PowerPoint)。
4. 自己 PR プレゼンテーション資料を作成することができる（Microsoft PowerPoint)。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
Microsoft Word の機能の習得（20%）	講義で取り上げていない Word の機能を応用することができる。	講義で取り上げた Word の高度な機能を活用することができる。	Word の高度な機能をある程度活用することができる。	Word の高度な機能を活用することは不十分だが、Word で文書・資料を作成することができる。	Word では不完全な文書・資料しか作成できない。
グラフの種類と用途の使い分け; Microsoft Excel（30%）	講義で取り上げていない Excel の機能を応用することができる。	講義で取り上げた Excel の高度な機能を活用することができる。	Excel の高度な機能をある程度活用することができる。	Excel の表計算は不十分であるが、Excel で表を作成することができる。	Excel では不完全な表しか作成できない。
スライド資料のストーリー作成と装飾の表現; Microsoft PowerPoint（20%）	講義で取り上げていない PowerPoint の機能を応用することができる。	講義で取り上げた PowerPoint の機能を活用することができる。	PowerPoint の機能をある程度活用することができる。	PowerPoint の操作は不十分であるが、スライド資料をある程度作成することができる。	PowerPoint では不完全な資料しか作成できない。
自己 PR プレゼンテーション資料の作成（30%）	自分の考えに反論する人も納得させることができる。	自分の考えを論理的に説明することができる。	自分の考えを他人に伝えることができる。	論理にあいまいさが残るが、ある程度自分の考えを伝えることができる。	自分の考えを伝えることができない。

評価方法

提出課題（合計 12 種類を予定）50%、後期定期試験 30%、受講態度 20%

テキスト

- 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
- 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「情報処理Ⅱ」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること)。

ゼミⅠ　～短期大学での学びの素地をつくる～	専任教員

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ゼミは大学生活で重要な役割を果たします。最初のゼミとなるゼミⅠでは、人間関係づくり、大学での学びの基本姿勢やスタディスキルを習得します。また、2年間の短期大学生活と卒業後のキャリア形成に欠かせないメディアセンター、キャリアセンター、エクステンションセンターの利用方法を学びます。所属ゼミの各チューターがそれぞれの専門性を生かして指導をします。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	履修指導 時間割作成の指導
第 2 回	人間関係をつくる 自己紹介、グループワーク等
第 3 回	個別面談カード、かわたんシートの作成 大学にプロフィールや、短大２年間の目標などを伝えよう
第 4 回	学びの基本姿勢、スタディスキル 大学での望ましい・望ましくない姿勢・態度、授業の受け方等を学ぶ
第 5 回	アカデミックライティング入門 『簡易版　論文・レポートの書き方』でレポートなどに備える
第 6 回	・所属ゼミの各チューターの専門を生かしたゼミ活動 ・メディアセンターツアー ・キャリアセンターツアー ・エクステンションセンターツアー
第 7 回	
第 8 回	
第 9 回	
第 10 回	
第 11 回	
第 12 回	専門ゼミの選択・決定 １年後期から卒業まで所属するゼミの選定
第 13 回	学園祭（10 月開催予定）の準備 学園祭へのエントリーについて考えてみよう
第 14 回	大学での学びについて 専門分野を学ぶことの意味
第 15 回	総括 まとめと振り返り

予習・復習

別途、各チューターが指示します。

履修上の注意

別途、各チューターが指示します。

到 達 目 標

別途、各チューターが指示します。

ルーブリック

別途、各チューターが指示します。

評価方法

別途、各チューターが指示します。

テキスト

・学科共通のテキストとして冊子『簡易版　論文・レポートの書き方』を配付します。
・その他各ゼミでテキストを使用する場合は、別途、各チューターが指示します。

・成績評価の対象は、学期末試験、レポート、受講態度などに限定してください

ゼミⅡ(環境学)　～情報の収集と選択、問題解決能力を養う～	小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

本ゼミでは、環境問題についての学習を「情報の収集と選択、問題解決能力を開発する」ための学習であると位置づけ、複雑な環境問題の問題点をわかりやすく理解するための手法を身につけることを目的とします。おもに情報の整理や取捨、選択、それに基づいた合意形成の図り方などについて指導していきます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ゼミの進め方、自己紹介など
第 2 回	レポートの書き方 文章作成のルール
第 3 回	レポートの書き方 文章作成における様々な手法
第 4 回	レポート作成 1 レポート作成のための図書選別
第 5 回	レポート作成 2 PC ソフト『Ward』による文章作成
第 6 回	レポート作成 3 レポート作成実践
第 7 回	レポート作成 4 レポート添削返却
第 8 回	動物福祉検定試験対策 映画『犬と猫と人間と』上映
第 9 回	動物福祉検定試験対策 人と動物の歴史について
第 10 回	動物福祉検定試験対策 家庭動物について
第 11 回	動物福祉検定試験対策 畜産動物について
第 12 回	動物福祉検定試験対策 実験動物・展示動物について
第 13 回	動物福祉検定試験対策 野生動物について
第 14 回	進学・就職希望調査と就活対策講座 模擬面接・履歴書の書き方講座
第 15 回	進学・就職希望調査と就活対策講座 模擬面接・履歴書の書き方講座

予習・復習

・予習：次回の講義でテーマを扱うにあって事前準備等の指示をします。

・復習：原則的に講義毎に必ず感想文あるいは成果物を提出してもらいます。これを基に復習をするようにしてください。

履修上の注意

本ゼミで行なう様々な取り組みに意欲的である学生を求めます。なお、ゼミ内での要望が多ければ、イヌネコの譲渡施設や博物館見学、ゼミ合宿など野外実習を行なうことがあります。

到 達 目 標

おもに情報の収集と選択問題解決能力を開発することを目標とします。またゼミ内での要望が多ければ、「動物福祉検定」資格修得のための講義を行ない、検定試験に臨みます（上記授業計画は「動物福祉検定」を前提に作成しています)。要望があまり多くなければ行なわず，授業計画もゼミ生の要望に合わせて修正します.

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解してい る。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしてい る。	内容についての理解ができていな い。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の社会問題などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

講義時間内提出物 100%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配布します。

ゼミⅡ　～簿記を理解しよう～	稲場　建吾

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

2 年後期のゼミⅣで予定している会計の歴史研究に入る前に、まず、その基礎である簿記の技法について指導します。　(注)下記の「履修上の注意」も読んでおいてください。

それにあたっては、模擬試験などを用いた演習形式で進めたいと思います。学習範囲は、資格試験の範囲で言えば日商簿記 3 級、全経簿記 3 級、2 級を想定しています。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	仕訳
第 3 回	勘定記入
第 4 回	合計残高試算表の作成(1)
第 5 回	精算表の作成(1)
第 6 回	商品売買
第 7 回	手形
第 8 回	合計残高試算表の作成(2)
第 9 回	合計残高試算表の作成(3)
第 10 回	収益と費用
第 11 回	精算表の作成(2)
第 12 回	精算表の作成(3)
第 13 回	資本金と引出金
第 14 回	伝票
第 15 回	重要論点の復習

予習・復習

・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。

・復習：授業中に解いた問題を活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

大まかな計画です。下記の事情により、授業計画(進度、目標など)を変更する場合もあります。
① 学園祭の準備
② ゼミ生の簿記に関する学習状況
③ その他

到 達 目 標

日商簿記 3 級、全経簿記 3 級、2 級商業簿記の合格

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などからうかがえる。	強く興味を持っている様子が質問内容などからうかがえる。	興味を持っている様子が受講態度などからうかがえる。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などからうかがえる。	興味を全くもっていない様子が受講態度などからうかがえる。

評価方法

上記ルーブリックによる。

テキスト

配付資料

ゼミⅡ(経営社会学)　～「できる人」とは？～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

「あの人は仕事が『できる』『できない』」という言葉をよく聞きます。「できない」と言われるよりは、「できる」と言われた方が嬉しいですよね。

このゼミの担当教員その専門領域（「人的資源管理論」やその基盤となる「経営社会学」）には、「できる人」をめざすための手がかりが多少ありますから、一緒に学びましょう。具体的には次のようなことを指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 2年間におけるゼミⅣの位置づけ、ねらい、内容、評価について理解を共有する。
第 2 回	プレゼンについて学ぶ　1　プレゼンについての説明　/　個別面談
第 3 回	プレゼンについて学ぶ　2　プレゼンのテーマを決める　/　個別面談
第 4 回	プレゼンについて学ぶ　3　プレゼンの準備　/　個別面談
第 5 回	プレゼンについて学ぶ　4　プレゼンに挑戦　/　個別面談
第 6 回	「できる人」とは？　映像を見て一緒に考えてみよう（前半）
第 7 回	「できる人」とは？　映像を見て一緒に考えてみよう（後半）
第 8 回	「できる人」とは？　1　「できる人」に関する思い込み
第 9 回	「できる人」とは？　2　「できる人」に関する思い込みが招く残念なこと
第10回	「できる人」とは？　3　「成果」について
第11回	「できる人」とは？　4　「再現性」について
第12回	「できる人」とは？　5　「できる人」なのにそれが伝わらない残念な現象について
第13回	「できる人」とは？　6　「できる人」だと伝わるコツは何か
第14回	「できる人」とは？　7　「できる人」だと伝わるコツをつかむことのおまけの効果
第15回	まとめとふりかえり

予習・復習

予習・復習に求めることは学習成果の確認と実践、要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の3点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②できるようになったこと、③授業を受けて「こうしよう」と思ったこと。要するに学習成果の確認です。学んだことは実践してみてください。

・予習：前回のポイントと、自分に及ぼした影響を1分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 ゼミについては遅刻・欠席する場合、事前に連絡をください。
2 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は成績に反映させます。
3 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
4 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。
5 上記 1～4 は「あたりまえ」にしてください。連絡（上記 1）や手続き（上記 2, 3)、説明（上記 4）への対応が、適切な時に適切にできないと、苦労するからです。

到 達 目 標

このゼミが終わるころ、次のような状態に到達することが目標です。
1 社会に出るために「できるだけの準備をした」と言える。
2 短期大学士（ビジネス実務）として高校卒より一段上の処遇を受けるに値すると自分で言える。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
伝える力（ 50%）	提出物・発表で課した要件を超えた自発的な工夫がある。	提出物・発表で課した要件は満たしている。	提出物・発表で課した要件はほぼ満たしている。	提出物・発表で課した要件をほとんど満たしていない。	提出物を出さない、発表をしない。
姿勢・行動（ 50%）	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体にも貢献している。	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体をも意識できている。	自分のやるべきことは自分でできている。	自分のやるべきことを自力でできないこともある。	自分のやるべきことを自力でできていない。

評価方法

提出物・発表等（50%）:「伝える力」に対応します。考察が深いほど、読み手や聞き手にわかりやすい言い方、書き方ができているほど高く評価します。
受講態度 （50%）:「姿勢・行動」に対応します。自分のやるべきことはもちろん、ゼミ全体の運営に貢献する姿勢・行動を評価します。

テキスト

・「教科書」はありませんが、ゼミで一緒に読む本を適宜指示します。
・教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分で確実に実行してください。

ゼミⅡ(ビジネスと情報)　～情報社会と企業活動～	劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ゼミでは、「情報社会と企業活動」に焦点を当て、受講生の就職活動と就職後の活躍に備え、ビジネス企画、データ分析と文書作成におけるパワーポイント、エクセル、ワードなどのオフィスツールの知識と活用スキルについて指導する。ゼミの専門知識を応用し、自らの視野と可能性をさらに広げることを期待する。ゼミ生の進路（就職・進学）については主に個人面談を通じて指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の狙い、全体像、進め方、評価方法および受講上の注意点
第 2 回	ビジネス企画とパワーポイントの活用（1）基本スキル、個人面談
第 3 回	ビジネス企画とパワーポイントの活用（2）スマートアート、個人面談
第 4 回	ビジネス企画とパワーポイントの活用（3）アニメーション、個人面談
第 5 回	ビジネス企画とパワーポイントの活用（4）総合演習、個人面談
第 6 回	ビジネスデータとエクセルの活用（1）基本スキル、個人面談
第 7 回	ビジネスデータとエクセルの活用（2）関数の活用、個人面談
第 8 回	中間まとめ（前半までの授業内容の振り返り）
第 9 回	ビジネスデータとエクセルの活用（3）グラフの作成、個人面談
第 10 回	ビジネスデータとエクセルの活用（4）総合演習、個人面談
第 11 回	ビジネス文書とワードの活用（1）基本スキル、個人面談
第 12 回	ビジネス文書とワードの活用（2）表の作成、個人面談
第 13 回	ビジネス文書とワードの活用（3）スマートアート、個人面談
第 14 回	ビジネス文書とワードの活用（4）総合演習、個人面談
第 15 回	期末まとめ（後半の授業内容の振り返り）

予習・復習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計６回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・ビジネス企画、データ分析と文書作成の知識を理解し、自分の言葉で説明できる。
・パワーポイント、エクセル、ワードのスキルを応用し、自らの可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

受講姿勢：１００%（授業内小課題またはリアクションペーパーの提出）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

ゼミⅡ（企業研究Ⅰ）　～進路を決めよう～	齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

このゼミでは、皆さんの就職先とその業界について理解できるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション（就職について考える）
第 2 回	社会人であること
第 3 回	会社で働くということ
第 4 回	将来の設計をどう考える
第 5 回	個別面談
第 6 回	個別面談
第 7 回	個別面談
第 8 回	個別面談
第 9 回	株式会社について
第10回	企業文化とは（会社の歴史と顧客目線）
第11回	ラインとスタッフ（職種としての営業系とサポート系）
第12回	親会社と子会社の関係について（グループ企業について学ぶ）
第13回	企業の人事・評価制度について
第14回	企業の健康経営、福利厚生
第15回	まとめ（やりたい仕事、楽しんで出来る仕事について考える）

予習・復習

・予習：ゼミ内で適宜指示します。

・復習：ゼミ内で適宜指示します。

履修上の注意

・進路決定に大切な面接が多くなるため、休まずに出席しましょう。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・少しでも早く進路が決められるようにする。
・関心のある企業の業務内容や方針（ミッション、ビジョン、求める人材など)、採用情報を調査して説明できるようにする。
・就活で役立つ、時事関連のニュースに関心を持って、知識として得られる習慣を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０%）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０%）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案がでる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０%）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

受講態度（70%)、課題レポート及び授業内の理解度テスト（30%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

ゼミⅡ　～就職活動に向けて準備し、意識を高めていく～	冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ホテル業界、ブライダル業界、航空会社、観光業界を志望する学生が集うこの専門ゼミでは、就活に向かう心構え、自己分析・企業の選定等を、個人面談を繰り返しながら早期に活動を開始する。ゼミ生全員が役割を担い、責任感を持って学内活動を実施する。本気で就活と向き合い、後悔しない就活を実践し各自の目標を実現するためのゼミ活動となる。観光庁が進めるこれからの観光産業を支える「観光 DX 検定」も講義に取り入れて、「初級資格」取得の一助とする。観光業界を志望するゼミ生の経験値を高め社会に出てから役に立つように、フィールドワークによる実践を体験する機会を作る。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、就活の考え方と取り組み方、ゼミ内役割分担、冨吉ゼミの目的
第 2 回	ガクチカ①　SDGs「金継ぎ」の実演－大学祭発表の準備①
第 3 回	ガクチカ②　SDGs「金継ぎ」の実演－大学祭発表の準備②
第 4 回	ガクチカ③　SDGs「金継ぎ」の実演－大学祭発表の準備③
第 5 回	ガクチカ④　SDGs「金継ぎ」の実演－大学祭発表の準備④
第 6 回	データ分析①　ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）とデータサイエンス
第 7 回	データ分析②　需要予測「観光ＤＸ」初級対策
第 8 回	自己ＰＲ・ガクチカ・志望動機作成の鬼コツ、個人面談、理解度小テスト①
第 9 回	オンライン説明会・オンライン面接のコツ、業界・業種の絞り込み方法
第10回	冨吉ゼミ2年生（先輩）による合同就活座談会、先輩達からの業界別就活アドバイス
第11回	ホテル・ブライダル企業訪問（都内ホテルへの訪問、ホテル内アフタヌーンティー体験）
第12回	志望企業の絞り込み、逆求人サービスの活用方法、個人面談
第13回	指定教科書からの新たな学び発表会―人生における仕事とは、やりがいとは、使命感とは
第14回	面接・グループディスカッションを高度化するノウハウの伝授
第15回	振り返り、理解度小テスト②、最終課題レポートの提出

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を２回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

・ほうれんそう（報告、連絡、相談）の意味を理解し行動に反映し、レポート等の提出期限を遵守すること。
・授業計画は変更になることがある。
・企業訪問の実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることもある。
・ホテル・ブライダルのための企業訪問（アフタヌーンティー体験を含む）を実践する際は、交通費実費・飲食代（約３，５００円）の費用は個人負担となる。また取り組む際は対応マナーに留意する。
・観光業界に特化したフィールドワークでは、宿泊を伴う見学、インバウンド対応のための英会話習得、伝統工芸を通じた交流、食品ロス防止、等の活動を行う。学生負担の経費が必要となる場合もあり、早めに伝達の上、積極的に取り組むこととする。
・「観光 DX 検定初級」（12 月予定）を受験する際の検定料（2,500～3,000 円予定）は別途個人負担。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到 達 目 標

１．早い就活スタートを切りインターンシップと企業の説明会を効果的に活用するノウハウを習得する。
２．個人面談によりマンツーマンの就活サポートに慣れ、強い意志を持って納得のいく就活を行うことができる。
３．「ガクチカ」素材となる本ゼミ独自の日本の伝統文化である「金継ぎ」をマスターできる。
４．「観光ＤＸ検定初級資格」の取得を目指しデジタルトランスフォーメーションのことが理解できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０％）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが設定した項目の 50%程度しか理解していない。	授業内容を最低限レベルの理解として習得している。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０％）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０％）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・平常点（毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の提出）　　５０％
・理解度小テスト（前半・後半、２回実施）　３０％
・最終課題レポート　２０％

テキスト

・教科書名：苦しかったときの話をしようか ビジネスマンの父が我が子のために書きためた「働くことの本質」（1,650 円税込）
・著者名：森岡毅
・出版社名：ダイヤモンド社
・出版年：2019 年 4 月 11 日
・ISBN：978-4478107829

ゼミⅡ(マーケティングリサーチ論)

～マーケティングリサーチの技法を用いたカワイイプロダクト研究～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

マーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）とマーケティングリサーチの技法を用いて、ゼミ生が「カワイイ」と感じる化粧品やファッション関連プロダクトを対象に、企業のマーケティング戦略実現のために必要とされる計画的なデータ収集・分析の論理と技法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	マーケティングリサーチとは？(ゼミⅠの復習と応用) マーケティングとマーケティングリサーチ(マーケティング・マネジメントプロセス)
第 2 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ① ゼミⅡ「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の完成度を高めるための企画立案
第 3 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ② 「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の各象限に適したブランドの追加
第 4 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ③ 第3回講義で追加されたブランドのアトリビュートの考案
第 5 回	マーケティングリサーチの基本的な概念 マーケティングリサーチに必要な要件／サンプリングの概念／インターネット調査の基本
第 6 回	調査企画（計画的なマーケティングデータの収集） 調査企画の手順／企画書作成の要件／企画書の内容／調査企画に関する考察
第 7 回	調査の種類・タイプ（データの収集方法） データ・情報取得手段の種類／定量調査と定性調査／その他の調査の分類方法
第 8 回	調査票設計（調査企画の具体化） 調査票の基礎知識と作成の留意点／尺度の理解(等間隔尺度など)／回答方法の分類
第 9 回	データ集計（ビジネス実務の意思決定に必要なデータの準備） 集計の方法と手順／単純集計／代表値／クロス集計／ウェイト集計／検定
第10回	定性調査における情報・データ処理の方法 定性情報とは？／分類／類型／再構成／取りまとめと結論／インサイトの抽出
第11回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの作成 ① グループワークによる「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」へのブランド再配置
第12回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの作成 ② グループワークによる各象限に配置されたブランドのアトリビュート再考
第13回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの作成 ③ グループワークによる各象限の特徴を表したユーザーイメージの考案（タレントの選定）
第14回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの作成 ④ グループワークによる各象限のペルソナの設定
第15回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの発表（ゼミⅠの仮説強化）

予習・復習

・ 予習：講義で取り上げるテーマは、必ずチェックすること（授業内で事前準備の指示あり）。
・ 復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること（他に、授業内で提出課題の指示あり）。
※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 自身がカワイイと感じる化粧品やファッション関連プロダクトの「特徴」、「買った（利用した）理由」、「満足しているところ」、「不満を感じているところ」などを、日頃から意識的に考える習慣を身につけること。
2. ゼミ生の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. 企業のマーケティング活動におけるマーケティングリサーチの意義・役割、課題を説明することができる。
2. ビジネス課題を解決するための代表的なデータ収集・分析手法の重要性を理解し、『カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡ』を作成する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
マーケティングリサーチの説明（30%）	新たな手法を用いて結論を導き出すリサーチを企画することができる。	自発的な論理展開に必要なリサーチ技法を説明することができる。	明示された範囲のリサーチ技法を説明することができる	不十分だが、明示された範囲のリサーチ技法をある程度説明することができる。	リサーチ技法の説明が不完全である。
カワイイプロダクトポジショニングマップⅡの作成（70%）	根拠を示して説得力のある意見を述べるだけではなく、新たな論点を提示することができる。	根拠を示して説得力のある意見を述べることができる。	他者への賛成意見・反対意見を述べることができる。	単なる感想しか述べることができない。	発言しない。

評価方法

受講態度 70%、提出課題 30%

テキスト

- 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
- 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「ゼミⅡ（織戸ゼミ）」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

ゼミⅡ(産業心理学)　～社会に出る準備をしよう～	赤城　知里

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

自分自身の職業選択や就職活動、就職後の職場での適応やキャリア形成の考え方を指導します。前半はカウンセリングスキルを学びつつ、社会人として必須なコミュニケーション力を向上させます。後半は就職活動に向けて皆で準備をしましょう。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　ゼミの進め方　自己紹介
第 2 回	キャリアとは？カウンセリングとは？
第 3 回	カウンセリングスキル１　コミュニケーションで大切なことを知る
第 4 回	カウンセリングスキル２　話を聴く技術を学ぶ
第 5 回	カウンセリングスキル３　話を聴く技術を繰り返し実践する
第 6 回	自己理解１　自分のことを知る
第 7 回	自己理解２　職業選択の理論を知り自身の適職を考える
第 8 回	履歴書・エントリーシート対策１　自己 PR を作成する
第 9 回	履歴書・エントリーシート対策２　学生時代力を注いだことを作成する
第 10 回	グループディスカッション対策１　グループディスカッションのポイントを知る
第 11 回	グループディスカッション対策２　繰り返し実践し不安を払拭する
第 12 回	集団面接対策１　模擬面接を体験し自身の課題を明確にする
第 13 回	集団面接対策２　模擬面接を体験し不安を払拭する
第 14 回	個別面接対策１　模擬面接を体験し自身の課題を明確にする
第 15 回	個別面接対策２　模擬面接を体験し不安を払拭する

予習・復習

・予習：次回の授業内容について調べる
・復習：授業後、リアクションペーパーの提出を求める（書く内容はその日に指示）

履修上の注意

人と関わることや発表の機会が多い授業である。
教員と学生が双方向で対話しながら運営し、グループワーク等学生同士で刺激しあい気づきを得るカリキュラムであり、主体的に参加することを求める。
無断欠席、遅刻厳禁。提出物の締め切り厳守。

到 達 目 標

コミュニケーション力を高め、仲間と共に学べるようになる
就職活動について実践的に体験しながら準備し不安を払拭する

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（30%）	自分の考えを他人に伝わるように論理的に記述する事ができる。	自分の考えを含めて記述する事ができる。	不足する点があるが、課題に沿った文を書く事ができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明ができない。
積極性（40%）	率先して自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する努力ができる。	リアクションを取るなど、人と関わろうという意思がある。	人と関わろうとしない。

評価方法

授業での積極性（発言、他者との関わり、意欲）２０％
毎回の授業レポート課題（リアクションペーパー）２０％

テキスト

必要に応じてプリントを配布

ゼミⅢ(環境学)　～環境問題を題材にした情報収取と分析方法を学ぶ～　小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

本ゼミでは、環境問題についての学習を「情報の収集と選択、問題解決能力を開発する』」めの学習であると位置づけ、複雑な環境問題の問題点をわかりやすく興味をもって把握できる手法を身につけることを目的とします。おもにグループ単位での活動を基本とし、共同作業によって課題に取組むといったスタイルをとります。情報の整理や取捨選択、それに基づいた合意形成の図り方などについて指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ゼミのコンセプトや進め方，野外実習などについて
第 2 回	個別相談 ゼミ生の進学進路，その他の相談
第 3 回	個別相談 ゼミ生の進学進路，その他の相談
第 4 回	動物福祉検定試験対策 動物関連の諸問題１
第 5 回	動物福祉検定試験対策 動物関連の諸問題２
第 6 回	巡検事前学習 実習現場に行く前の情報整理
第 7 回	巡検事前学習 実習現場に行く前の事前準備
第 8 回	巡検 実習現場での体験・学び１
第 9 回	巡検 実習現場での体験・学び２
第 10 回	巡検事後学習 体験したことと関連事業についての情報整理
第 11 回	巡検事後学習 ディスカッション
第 12 回	インターネットや図書館を利用した情報収集方法について
第 13 回	KJ 法を用いたワークショップ体験 1 グループ作成とワークショップの進め方の説明
第 14 回	KJ 法を用いたワークショップ体験 2 発表
第 15 回	KJ 法を用いたワークショップ体験 3 まとめ

予習・復習

・予習：次回の講義でテーマを扱うにあっての事前準備等の指示をします。

・復習：原則的に講義毎に必ず感想文あるいは成果物を提出してもらいます。これを基に復習をするようにしてください。

履修上の注意

本ゼミで行なう様々な取り組みに意欲的である学生を求めます。ゼミ内での要望が多ければ、イヌネコの譲渡施設や博物館見学、ゼミ合宿（北海道・旭山動物園に行く）などの野外実習を行なうことがあります。また実普段のゼミについても施要望が多ければ、動物愛護関連の資格講座を実施します。

到 達 目 標

環境問題を題材に、情報の収集と選択、問題解決能力の養成を目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解してい る。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしてい る。	内容についての理解ができていな い。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の社会問題などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

講義時間内提出物 100%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配布します。

ゼミⅢ　～時事問題を使ってコミュニケーション力高める～	稲場　建吾

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

2年後期のゼミⅣでの発表に対する準備です。いきなり発表してというのは辛いでしょうから、授業内でPCを使用して自分の興味を持ったニュースを検索して、それを資料化するという作業を行い、そして順次、他のゼミの方々に発表するという方式で指導します。聴き手側と発表側の間で質問と応答を通してコミュニケーション力を付けたいとおもいます。やらされてる感ではなく、就活で利用しようなど価値転換させて広い視野で捉えてください。面倒だとはおもいますが、若い今のうちこういう経験を積んでおいたほうがよいとおもいます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　：　ゼミⅢのやり方を説明。
第 2 回	発表資料の作成と発表。聴き手の立場の時は質問を考える。
第 3 回	同上
第 4 回	同上
第 5 回	同上
第 6 回	同上
第 7 回	同上
第 8 回	同上
第 9 回	同上
第10回	同上
第11回	同上
第12回	同上
第13回	同上
第14回	同上
第15回	同上

予習・復習

・予習：常にニュースに触れておいてください。

・復習：発表のあった内容に関して、その後の内容を追い続けてください。

履修上の注意

・授業内で、ニュースを検索し、資料を作成するのでPCを持参してください。

到達目標

人の発表内容をよく聞いた上で質問するという、人に対して真摯な対応姿勢を身に付ける。
ちなみに、下記ルーブリックでは「聴き手側の姿勢」の評価が一番高くなっています。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
発表側の姿勢（30%）	就活時や世の中に出た後に、聴き手のみんなが、有用な知識であったとおもえるような発表であったと認められる	発表用の資料に関して、自分が理解した上で人に分かり易く伝えようという努力が認められる。	発表用の資料に関して、時間をかけて作成した努力が認められる。	発表用の資料に関して量が少なく、質が低い。	発表用の資料を作成しない。もしくは出来ない。
聴き手側の姿勢（40%）	強く興味をもち他の事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。

評価方法

上記ルーブリックによる。

テキスト

なし。

ゼミⅢ(経営社会学)　～「できる人」の思考・行動を学ぶ～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

ゼミⅡで「できる人」とはどんな人かを学びました。その成果を土台に、ゼミⅢでは「できる人」の仕事に対する考え方や行動を学び、私たちにも取り入れることができそうなところを一緒にさがしましょう。

具体的には次のようなことを指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 2年間におけるゼミⅢの位置づけ、ねらい、内容、評価について理解を共有する
第 2 回	映像で学ぶ「できる人」　映像1（前半）/　個別面談
第 3 回	映像で学ぶ「できる人」　映像1（後半）/　個別面談
第 4 回	映像で学ぶ「できる人」　映像2（前半）/　個別面談
第 5 回	映像で学ぶ「できる人」　映像2（後半）/　個別面談
第 6 回	就職活動報告プレゼン　その1　プレゼンについての説明
第 7 回	就職活動報告プレゼン　その2　発表（前半）
第 8 回	就職活動報告プレゼン　その3　発表（後半）
第 9 回	「できる人」から学ぶ　その1　学びの共有の仕方を説明
第10回	「できる人」から学ぶ　その2　マインド
第11回	「できる人」から学ぶ　その3　コミュニケーション
第12回	「できる人」から学ぶ　その4　ビジネススキル
第13回	「できる人」から学ぶ　その5　思考・議論
第14回	「できる人」から学ぶ　その6　さらなる成長をめざす
第15回	まとめとふりかえり

予習・復習

予習・復習に求めることは学習成果の確認と実践、要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の3点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②できるようになったこと、③授業を受けて「こうしよう」と思ったこと。要するに学習成果の確認です。学んだことは実践してみてください。

・予習：前回のポイントと、自分に及ぼした影響を1分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 ゼミについては遅刻・欠席する場合、事前に連絡をください。
2 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は成績に反映させます。
3 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
4 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。
5 上記 1～4 は「あたりまえ」にしてください。連絡（上記 1）や手続き（上記 2, 3）、説明（上記 4）への対応が、適切な時に適切にできないと、苦労するからです。

到 達 目 標

このゼミが終わるころ、次のような状態に到達することが目標です。
1 成果を上げられる人の考え方・行動について、自分なりの意見が持てる。
2 学んだことを生かして、自分は「＊＊」が成長したと言える（程度は問わない）。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
伝える力（ 50%）	提出物・発表で課した要件を超えた自発的な工夫がある。	提出物・発表で課した要件は満たしている。	提出物・発表で課した要件はほぼ満たしている。	提出物・発表で課した要件をほとんど満たしていない。	提出物を出さない、発表をしない。
姿勢・行動（ 50%）	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体にも貢献している。	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体をも意識できている。	自分のやるべきことは自分でできている。	自分のやるべきことを自力でできないこともある。	自分のやるべきことを自力でできていない。

評価方法

提出物・発表等（50%）：「伝える力」に対応します。考察が深いほど、読み手や聞き手にわかりやすい言い方、書き方ができているほど高く評価します。
受講態度 （50%）：「姿勢・行動」に対応します。自分のやるべきことはもちろん、ゼミ全体の運営に貢献する姿勢・行動を評価します。

テキスト

・「教科書」はありませんが、ゼミで一緒に読む本を適宜指示します。
・教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分で確実に実行してください。

ゼミⅢ(ビジネスと情報)　～企業データの利活用と分析～

劉　博

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ゼミでは、「情報社会と企業活動」に焦点を当て、受講生の就職活動と就職後の活躍に備え、ビジネス企画、データ分析と文書作成におけるパワーポイント、エクセル、ワードなどのオフィスツールの応用知識と活用スキルについて指導する。ゼミの専門知識を応用し、自らの視野と可能性をさらに広げることを期待する。ゼミ生の進路（就職・進学）については主に個人面談を通じて指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ゼミの狙い、全体像、進め方、評価方法および受講上の注意点
第 2 回	企業活動で取り扱うデータ、個人面談
第 3 回	一般事務における計算処理、個人面談
第 4 回	業務データの分析方法、個人面談
第 5 回	業務上の問題発見と課題解決、個人面談
第 6 回	Excel によるクロス集計の活用演習、個人面談
第 7 回	Excel によるピボットテーブルの活用演習、個人面談
第 8 回	中間まとめ（前半までの授業内容の振り返り）
第 9 回	バランスの可視化とレーダーチャートの作成演習（Excel)、個人面談
第 10 回	相関関係の可視化と散布図の作成演習（Excel)、個人面談
第 11 回	成長性の可視化と Z チャートの作成演習（Excel)、個人面談
第 12 回	ABC 分析とパレート図の作成演習（Excel)、個人面談
第 13 回	Excel データ分析の総合演習（１)、個人面談
第 14 回	Excel データ分析の総合演習（１)、個人面談
第 15 回	期末まとめ（後半の授業内容の振り返り）

予習・復習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計 6 回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・企業データの利活用の基礎知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・企業データ分析の知識を応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

受講姿勢：１００%（授業内小課題またはリアクションペーパーの提出）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

ゼミⅢ（企業研究Ⅱ）

～観光産業のホスピタリティーについて学びます～

齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

このゼミでは観光関連産業全般について学びます。接客業務でのホスピタリティーやコミュニケーション能力、顧客対応力、関係協力機関との対応、ビジネスマナー、チームワーク、協調性などの重要性を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション　授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	観光を取り巻く環境
第 3 回	個別面談
第 4 回	個別面談
第 5 回	企業研究：運輸関連業界（航空、鉄道、バス、船舶他）
第 6 回	企業研究：宿泊業界（ホテル、日本旅館）
第 7 回	企業研究（テーマパーク、レジャー関連）
第 8 回	企業研究（旅行会社の役割、業務内容、海外・国内・訪日旅行）
第 9 回	個別面談
第10回	個別面談
第11回	業界研究：ホテル、旅行会社のホスピタリティー
第12回	業界研究：MICE、イベント業界
第13回	業界研究：地方自治体観光課、観光協会の役割
第14回	観光立国を目指す日本
第15回	まとめ

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示します。

履修上の注意

・観光産業や様々なイベントに興味を持って、関連の情報収集（TV、新聞、雑誌、Web）を心掛けてください。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・「観光関連産業全般」が理解出来て興味を持つことにより就職先の選択肢のひとつとする。
・「ホテルや旅行業界におけるホスピタリティー」を学ぶことによって、他業界でも活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０%）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０%）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０%）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

課題レポート及び授業内の理解度テスト（40%）、受講態度（60%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

ゼミⅢ　～就活戦線を一緒に乗り切り納得のいく結果を導く～	冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

2年生前期は、就活本番という最も大切な時期となる。1年生後期に学んだノウハウと準備をあますことなく発揮し、タイミングを逃さず、最大の効果を上げるため、講師の企業在籍時に担当した採用担当・人材育成の実務経験を反映した有益な活動を行う。就活を進めていくと志望する業界や希望職種が変わることもあり、自分自身の変化にも柔軟に対処する精神力とスピード感を養う。面接・グループディスカッションを高度化し、結果につなげていく。観光業界を志望するゼミ生の経験値を高め社会に出てから役に立つように、フィールドワークによる実践を体験する機会を作る。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、これまでの就活の状況チェック、今後の就活戦略
第 2 回	ESの見直しと改善、個人面談
第 3 回	メール・電話のマナーの振り返り
第 4 回	面接の改善①、面接の高度化
第 5 回	面接の改善②、個人面談
第 6 回	インターネットサービスの活用方法①　ハローワーク
第 7 回	インターネットサービスの活用方法②　indeed、キャリタスUC
第 8 回	就職情報サイトの活用方法①　基本、理解度小テスト①
第 9 回	就職情報サイトの活用方法②　実践、個人面談
第10回	6月の対応方法と連携①、個人面談
第11回	6月の対応方法と連携②
第12回	7・8月の対応方法と連携③、個人面談
第13回	AIを深掘り①　生成ＡＩの基礎
第14回	AIを深掘り②　生成ＡＩの応用
第15回	振り返り、理解度小テスト②、最終課題レポート提出

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を２回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

・ほうれんそう（報告、連絡、相談）の意味を理解し行動に反映し、レポート等の提出期限を遵守すること。
・授業計画は変更になることがある。
・観光業界に特化したフィールドワークでは、宿泊を伴う見学、インバウンド対応のための英会話習得、伝統工芸を通じた交流、食品ロス防止、等の活動を行う。学生負担の経費が必要となる場合もあり、早めに伝達の上、積極的に取り組むこととする。
・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到 達 目 標

１．業界・業種ごとの知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
２．就職活動の実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
３．就職活動の現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０%）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０%）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０%）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・平常点（毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の提出）　　５０%
・理解度小テスト（前半・後半、２回実施）　３０%
・最終課題レポート　２０%

テキスト

・テキストの指定はしない。
スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

ゼミⅢ(マーケティングリサーチ論)

～マーケティングリサーチの技法を用いたカワイイプロダクト研究～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

マーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）とマーケティングリサーチの技法を用いて、ゼミ生が「カワイイ」と感じる化粧品やファッション関連プロダクトを対象に、企業のマーケティング戦略実現のために必要とされる計画的なデータ収集・分析の論理と技法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	マーケティングリサーチとは？(ゼミⅡの復習と応用) マーケティングとマーケティングリサーチ(マーケティング・マネジメントプロセス)
第 2 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ① ゼミⅡ「カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡ」の完成度を高めるための企画立案
第 3 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ② 「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の各象限に適したブランドの追加
第 4 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ③ 第3回講義で追加されたブランドのアトリビュートの考案
第 5 回	定性調査(インタビュー)の企画書作成 ① 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 6 回	定性調査(インタビュー)の企画書作成 ② 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 7 回	定性調査(インタビュー)の実施 ① 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 8 回	定性調査(インタビュー)の実施 ② 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 9 回	調査結果の整理と取りまとめ ① カワイイプロダクトに関するインサイトの抽出／ブランドとアトリビュート再検討
第10回	調査結果の整理と取りまとめ ② カワイイプロダクトに関するインサイトの抽出／ブランドとアトリビュート再検討
第11回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの作成 ① グループワークによる「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」へのブランド再配置
第12回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの作成 ② グループワークによる各象限に配置されたブランドのアトリビュート再考
第13回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの作成 ③ グループワークによる各象限の特徴を表したユーザーイメージの考案(タレントの選定)
第14回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの作成 ④ グループワークによる各象限のペルソナの設定
第15回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの発表(ゼミⅡの仮説強化)

予習・復習

・予習：講義で取り上げるテーマは、必ずチェックすること（授業内で事前準備の指示あり）。
・復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること（他に、授業内で提出課題の指示あり）。
※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 自身がカワイイと感じる化粧品やファッション関連プロダクトの「特徴」、「買った（利用した）理由」、「満足しているところ」、「不満を感じているところ」などを、日頃から意識的に考える習慣を身につけること
2. ゼミ生の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. 仮説の確認と強化を目的とした定性調査を企画し、実施することができる。
2. 定性調査の結果を反映させた『カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢ』を作成する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
定性調査の企画と実施（30%）	新たな手法を用いて結論に至る調査を実施することができる。	自発的な論理展開に必要な調査を実施することができる。	提示された仮設の確認に必要な調査を実施することができる。	指示された手法の範囲内で調査を実施することができる。	調査が不完全である。
カワイイプロダクトポジショニングマップⅢの作成（70%）	根拠を示して説得力のある意見を述べるだけではなく、新たな論点を提示することができる。	根拠を示して説得力のある意見を述べることができる。	他者への賛成意見・反対意見を述べることができる。	単なる感想しか述べることができない。	発言しない。

評価方法

受講態度 70%、提出課題 30%

テキスト

- 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
- 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「ゼミⅢ（織戸ゼミ）」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

ゼミⅣ(環境学)　～卒業プレゼンテーション発表～	小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

本ゼミでは、環境問題についての学習を「情報の収集と選択、問題解決能力を開発する」ための学習であると位置づけ、複雑な環境問題の問題点をわかりやすく理解するための手法を身につけることを目的とします。その成果として、環境問題を題材にしたレポート作成およびパワーポイントによるグループ発表の方法について指導していきます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	個別進路相談
第 2 回	個別進路相談
第 3 回	パワーポイントの作成準備１ 卒業プレゼン発表についてのガイダンス
第 4 回	パワーポイントの作成準備２ テーマの決定
第 5 回	パワーポイントの作成１ 発表計画書の作成
第 6 回	パワーポイントの作成２ 発表計画書の作成
第 7 回	パワーポイントの作成３ 発表計画書の提出と内容確認，修正
第 8 回	パワーポイントの作成４ 発表計画書の提出と内容確認，修正
第 9 回	パワーポイントの作成５ 進行状況確認
第 10 回	パワーポイントの作成６ 進行状況確認
第 11 回	パワーポイントの作成７ 進行状況確認
第 12 回	パワーポイントの作成８ 発表前最終確認
第 13 回	パワーポイントの作成９ 発表前最終確認
第 14 回	パワーポイントによる発表１ 各ゼミ生，または各グループ毎のプレゼン発表
第 15 回	パワーポイントによる発表２ 各ゼミ生，または各グループ毎のプレゼン発表

予習・復習

・予習：次回の講義でテーマを扱うにあって事前準備等の指示をすることがあります。

・復習：卒業プレゼンを作成する際には、進捗状況について頻繁に報告するようにしてください。

履修上の注意

指示がない限り、特に必要ありません。

到 達 目 標

環境問題を題材に、情報の収集と選択、問題解決能力の養成を目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解してい る。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしてい る。	内容についての理解ができていな い。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の社会問題などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

卒業プレゼン発表 80%、講義時間内提出物 20%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配布します。

ゼミⅣ　～会計の歴史について見てみよう～	稲場　建吾

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

抽象的すぎるのでやや具体的な会計学という分野を導入口にして学問とは何かを指導します。それにあたっては、まず、①会計の役割および必要性を歴史的な観点から確認します。つぎに、②過去に会計学上で問題とされてきたいくつかの事項を見ます。そして、③現在問題とされているいくつかの事項を考察します。会計が、もっといえば様々なことが、なぜ研究されるのか理解できるとおもいます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	会計とはなにか、会計の歴史をどうみるか（下記テキストの第1章）1
第 3 回	会計とはなにか、会計の歴史をどうみるか（下記テキストの第1章）2
第 4 回	複式簿記（第2章）1
第 5 回	複式簿記（第2章）2
第 6 回	期間計算（第3章）1
第 7 回	期間計算（第3章）2
第 8 回	近代会計の成立環境（第4章）1
第 9 回	近代会計の成立環境（第4章）2
第10回	発生主義（第5章）1
第11回	発生主義（第5章）2
第12回	会計プロフェッションの生成（第6章）1
第13回	会計プロフェッションの生成（第6章）2
第14回	近代会計制度の成立（第7章）1
第15回	近代会計制度の成立（第7章）2

予習・復習

・予習：担当者によって発表される教科書の範囲を毎回読んできてください。

・復習：発表を聞いた後、再度その範囲を読み直してください。

履修上の注意

ガイダンス時に、いくつか候補を挙げるので、その候補の中からこのゼミで使用する本をゼミ員のみなさんに選択してもらいます。つまり、下記の「使用教科書」が選択されれば、授業計画のようになりますが、違うものが選択されれば、計画は異なるものとなります。ご了承ください。

到 達 目 標

①会計の必要性を理解できる。②会計学上ではどのようなことが問題となっているかを理解できる。③会計学上の問題は、会計学内部からだけでなく社会の変化から問題が発生することを理解できる。④会計学の範囲の広さを理解できる。⑤様々なことが研究されていることが理解できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
発表側の姿勢（30%）	就活時や世の中に出た後に、聴き手みんなが、有用な情報であったとおもえるような発表であったと認められる	発表用の資料に関して、自分が理解した上で人に分かり易く伝えようという努力が認められる。	発表用の資料に関して、時間をかけて作成した努力が認められる。	発表用の資料に関して量が少なく、質が低い。	発表用の資料を作成しない。もしくは出来ない。
聴き手側の姿勢（40%）	強く興味をもち他の事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。

評価方法

上記ルーブリックによる。

テキスト

・参考書名：『会計の時代だ』
・著 者 名：友岡　賛
・出版社名：ちくま新書
・出 版 年（ISBN）：2006 年(978-4480063298)

ゼミⅣ(経営社会学)　～学習成果確認と社会に出る準備～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

最後のゼミです。みなさんには卒業後の新天地でうまくやっていってほしいので、自分の失敗談も伝えつつ、社会に出る前に知っておいてほしいことを学んでいただきます。

卒業時に短期大学士（ビジネス実務）の学位を受けます。短期大学士（ビジネス実務）として高校卒よりも一つ上の処遇を受けるにふさわしいことを自ら証明するために学位請求プレゼンもしていただきます。「学位請求」というと難しそうですが、プレゼンの準備・方法はもちろん指導しますので、ご安心ください。

具体的には次のようなことを指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 2年間におけるゼミⅣの位置づけ、ねらい、内容、評価について理解を共有する。
第 2 回	社会にでる準備1　新社会人にありがちな失敗について　/　個別面談
第 3 回	社会に出る準備2　新社会人として好スタートを切るために　/　個別面談
第 4 回	社会に出る準備3　新生活への準備について/　個別面談
第 5 回	「できる人」を目指そう　1　「できる人」になれたら何がしたいか
第 6 回	「できる人」を目指そう　2　聞き方を学ぶ
第 7 回	「できる人」を目指そう　3　聞き方を取り入れる
第 8 回	「できる人」を目指そう　4　考え方を学ぶ
第 9 回	「できる人」を目指そう　5　考え方を取り入れる
第10回	「できる人」を目指そう　6　話し方を学ぶ
第11回	「できる人」を目指そう　7　話し方を取り入れる
第12回	学位請求プレゼン　1　学位請求プレゼンのやり方の説明
第13回	学位請求プレゼン　2　発表（前半）
第14回	学位請求プレゼン　3　発表（後半）
第15回	総括　（かわたんシートなどによる2年間の学びのふりかえり）

予習・復習

予習・復習に求めることは学習成果の確認と実践、要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の3点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②できるようになったこと、③授業を受けて「こうしよう」と思ったこと。要するに学習成果の確認です。学んだことは実践してみてください。

・予習：前回のポイントと、自分に及ぼした影響を1分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 ゼミについては遅刻・欠席する場合、事前に連絡をください。
2 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は成績に反映させます。
3 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
4 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。
5 上記 1～4 は「あたりまえ」にしてください。連絡（上記 1）や手続き（上記 2, 3)、説明（上記 4）への対応が、適切な時に適切にできないと、苦労するからです。

到 達 目 標

このゼミが終わるころ、次のような状態に到達することが目標です。
1 社会に出るために「できるだけの準備をした」と言える。
2 短期大学士（ビジネス実務）として高校卒より一段上の処遇を受けるに値すると自分で言える。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
伝える力（ 50%）	提出物・発表で課した要件を超えた自発的な工夫がある。	提出物・発表で課した要件は満たしている。	提出物・発表で課した要件はほぼ満たしている。	提出物・発表で課した要件をほとんど満たしていない。	提出物を出さない、発表をしない。
姿勢・行動（ 50%）	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体にも貢献している。	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体をも意識できている。	自分のやるべきことは自分でできている。	自分のやるべきことを自力でできないこともある。	自分のやるべきことを自力でできていない。

評価方法

提出物・発表等（50%）:「伝える力」に対応します。考察が深いほど、読み手や聞き手にわかりやすい言い方、書き方ができているほど高く評価します。
受講態度 （50%）:「姿勢・行動」に対応します。自分のやるべきことはもちろん、ゼミ全体の運営に貢献する姿勢・行動を評価します。

テキスト

・「教科書」はありませんが、ゼミで一緒に読む本を適宜指示します。
・教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分で確実に実行してください。

ゼミⅣ(ビジネスと情報)　～ESG 情報の分析と利活用～

劉　博

年次	時期	単位	卒業	区分
2 年	後期	2	必修	専門科目　必修

授 業 概 要

ゼミでは、企業 ESG（環境・社会・ガバナンス）情報分析の基礎や金融経済のしくみ、就職活動における業界・企業研究だけでなく、就職後の活躍と資産形成にも役立つ知識と活用スキルについて指導する。ゼミの専門知識を応用し、自らの視野と可能性をさらに広げることを期待する。ゼミ生の進路（就職・進学）については主に個人面談を通じて指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の狙い、全体像、進め方、評価方法および受講上の注意点
第 2 回	ESG・金融経済に関する基礎学習、個人面談
第 3 回	企業の ESG 情報開示・日経電子版を使って記事検索、個人面談
第 4 回	ESG スクリーニング（1）業界研究、個人面談
第 5 回	ESG スクリーニング（2）企業研究、個人面談
第 6 回	ESG スクリーニング（3）財務・非財務情報の分析、個人面談
第 7 回	銘柄・証券コードの確定、個人面談
第 8 回	バーチャル取引の利用と値動きの分析、個人面談
第 9 回	銘柄ごとの投資金額の検討と決定、個人面談
第 10 回	ポートフォリオの作成、個人面談
第 11 回	投資家アピールの作成、個人面談
第 12 回	日経ストックリーグを通して学んだことの作成、個人面談
第 13 回	レポート表紙デザインの検討と制作、個人面談
第 14 回	レポート提出と最終発表
第 15 回	期末まとめ（後半の授業内容の振り返り）

予 習 ・ 復 習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計６回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・ESG 情報の知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・ESG 情報分析のスキルを応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

受講姿勢：１００%（授業内小課題またはリアクションペーパーの提出）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

ゼミⅣ　（企業研究Ⅳ）～社会人になる～

齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

このゼミでは社会人になる心構えと、社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー、ESG、社会保障制度について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション
第 2 回	個別面談
第 3 回	個別面談
第 4 回	個別面談
第 5 回	社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー❶
第 6 回	社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー❷
第 7 回	社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー❸
第 8 回	社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー❹
第 9 回	企業の求める人材
第10回	個別面談
第11回	個別面談
第12回	ESG（環境、社会、ガバメント）について❶
第13回	ESG（環境、社会、ガバメント）について❷
第14回	社会保障制度について
第15回	まとめ

予習・復習

・予習：ゼミ内で適宜指示します。

・復習：ゼミ内で適宜指示します。

履修上の注意

・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・社会で必要なビジネスマナー、社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナーを理解して身に付ける。
・ＥＳＧの概略について理解して説明できる様にする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０％）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案が出来る。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０％）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

受講態度（70%）、課題レポート及び授業内の理解度テスト（30%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

ゼミⅣ　～就活の仕上げと、社会人への準備～	冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

就職活動を継続する学生と、内々定を獲得した学生、双方の指導を行いながら、講師の企業在籍時に担当した採用担当・人材育成の実務経験を反映した社会人となるためのオフィスワーク、先を読んだ思考、働き方改革について、総合的に今必要な技術・教養を習得する。この授業を通じて皆さんは、教員と学生の枠を超えた「人生の先輩・後輩」となっていく。また、今後必要となる社会人に向けてＡＩの基礎を学び、応用する力を付け、リスキリングについても理解を深められる講義を展開する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、就職活動の総括、大学祭出展・卒業研究の擦り合わせ
第 2 回	PC 操作・オフィスソフトの高度化
第 3 回	大学祭出展の準備①
第 4 回	大学祭出展の準備②
第 5 回	ＰＣ力を強化！　タッチタイピング２級・ショートカットキーのマスター
第 6 回	働き方改革（フレックスタイム、ワーケーション）
第 7 回	第2新卒とは、転職の時代をどう考えるか
第 8 回	ゼミⅣ前半の研究発表、理解度小テスト①
第 9 回	プレゼンテーションの基礎知識―PPT・画像修正機能の活用
第 10 回	卒業研究―観光と環境を学ぶ冨吉ゼミの実践（フィールドワーク）の準備
第 11 回	卒業研究―観光と環境を学ぶ冨吉ゼミの実践（フィールドワーク）
第 12 回	ファイナンス（金融・年金・社会保険・新ＮＩＳＡ・ｉＤｅＣｏ）の基礎と考え方
第 13 回	ＡＩ実用化時代とその活用方法、リスキリング（学び直し）の重要性
第 14 回	卒業研究発表―観光と環境を学ぶ冨吉ゼミのフィールドワークレポート提出
第 15 回	振り返り、理解度小テスト②、最終課題レポートの提出

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を２回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

・ほうれんそう（報告、連絡、相談）と提出期限の遵守、のゼミのルールを守ること。
・企業訪問の実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることある。
・観光業界に特化したフィールドワークでは、宿泊を伴う見学、インバウンド対応のための英会話習得、伝統工芸を通じた交流、食品ロス防止、等の活動を行う。学生負担の経費が必要となる場合もあり、早めに伝達の上、積極的に取り組むこととする。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到 達 目 標

１．社会人になる準備として、最低限出来なければならないビジネスマナーを習得する。
２．タッチタイピング、PC 操作、プレゼン力、生成 AI 等の基礎を習得し、社会人となる準備ができる。
３．卒業研究となる観光に関するフィールドワークを通じてＰＤＣＡサイクルを習得する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０%）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが設定した項目の 50%程度しか理解していない。	授業内容を最低限レベルの理解として習得している。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０%）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０%）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・平常点（毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の提出）　　５０％
・理解度小テスト（前半・後半、２回実施）　３０％
・最終課題レポート　２０％

テキスト

・テキストの指定はしない。
スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

ゼミⅣ(マーケティングリサーチ論)

～マーケティングリサーチの技法を用いたカワイイプロダクト研究～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

マーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）とマーケティングリサーチの技法を用いて、ゼミ生が「カワイイ」と感じる化粧品やファッション関連プロダクトを対象に、企業のマーケティング戦略実現のために必要とされる計画的なデータ収集・分析の論理と技法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	マーケティングリサーチとは？(ゼミⅢの復習と応用) マーケティングとマーケティングリサーチ(マーケティング・マネジメントプロセス)
第 2 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ① ゼミⅢ「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の完成度を高めるための企画立案
第 3 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ② 「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の各象限に適したブランドの追加
第 4 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ③ 第3回講義で追加されたブランドのアトリビュートの考案
第 5 回	定量調査(アンケート)の企画書作成 ① 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その検証を行うための調査
第 6 回	定量調査(アンケート)の企画書作成 ② 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その検証を行うための調査
第 7 回	定量調査(アンケート)の実施 ① 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その検証を行うための調査
第 8 回	定量調査(アンケート)の実施 ② 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 9 回	調査結果の整理と取りまとめ ① カワイイプロダクトに関するインサイトの抽出／ブランドとアトリビュート再検討
第10回	調査結果の整理と取りまとめ ② カワイイプロダクトに関するインサイトの抽出／ブランドとアトリビュート再検討
第11回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの作成 ① グループワークによる「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」へのブランド再配置
第12回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの作成 ② グループワークによる各象限に配置されたブランドのアトリビュート再考
第13回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの作成 ③ グループワークによる各象限の特徴を表したユーザーイメージの考案(タレントの選定)
第14回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの作成 ④ グループワークによる各象限のペルソナの設定
第15回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの発表(卒業制作の完成)

予習・復習

・予習：講義で取り上げるテーマは、必ずチェックすること（授業内で事前準備の指示あり）。
・復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること(他に、授業内で提出課題の指示あり)。
※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 自身がカワイイと感じる化粧品やファッション関連プロダクトの「特徴」、「買った（利用した）理由」、「満足しているところ」、「不満を感じているところ」などを、日頃から意識的に考える習慣を身につけること
2. ゼミ生の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. 仮説の検証を目的とした定量調査を企画し、実施することができる。
2. 定量調査の結果を反映させた『カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣ（卒業制作）』を完成させる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
定量調査の企画と実施（30%）	新たな手法を用いて結論に至る調査を実施することができる。	自発的な論理展開に必要な調査を実施することができる。	提示された仮設の検証に必要な調査を実施することができる。	指示された手法の範囲内で調査を実施することができる。	調査が不完全である。
カワイイプロダクトポジショニングマップⅣの作成（70%）	根拠を示して説得力のある意見を述べるだけではなく、新たな論点を提示することができる。	根拠を示して説得力のある意見を述べることができる。	他者への賛成意見・反対意見を述べることができる。	単なる感想しか述べることができない。	発言しない。

評価方法

受講態度 70%、提出課題 30%

テキスト

- 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
- 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「ゼミⅣ（織戸ゼミ）」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

経営管理論　～映像で学ぶ経営者・管理者の役割～	平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

経営管理とは、具体的にはどんなことをするのでしょうか。ドラマや映画で、トップ・マネジメント、ミドル・マネジメント、ロワー・マネジメント、それぞれの具体的な仕事を見て学び、考える授業です。

具体的には次のようなことを指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業のねらい、授業の受け方、予習・復習のしかた、評価についての説明
第 2 回	経営管理とは　その1　本質：そもそも管理ってなんだろう？
第 3 回	経営管理とは　その2　担い手：経営管理って誰がやるの？
第 4 回	経営管理とは　その3　歴史：経営管理はどのように生まれ、発展してきたのか？
第 5 回	トップの役割　その1　把握し描く
第 6 回	トップの役割　その2　決める
第 7 回	トップの役割　その3　巻き込む
第 8 回	トップの役割　その4　代表する
第 9 回	トップの役割　その5　結局、トップ・マネジメントは何をするのか？
第10回	ミドルの役割　その1　トップから求められること
第11回	ミドルの役割　その2　ロワーから求められること
第12回	ミドルの役割　その3　結局、ミドル・マネジメントは何をするのか？
第13回	ロワーの役割　その1　現場を回すために、ロワー・マネジメントは何をするのか？
第14回	ロワーの役割　その2　結局、ロワー・マネジメントは何をするのか？
第15回	まとめと振り返り

予習・復習

予習・復習に求めることは確認・要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の2点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②学んだ概念や理論が、ここにも当てはめることができるのではないかと思う経験や出来事を探してみてください。

・予習：前回の授業のポイントを1分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は成績に反映させます。
2 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
3 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。

到 達 目 標

この授業が終わる頃、次のような状態に到達することを目標とします。
・トップ・ミドル・ロアーのそれぞれが、何をするのか、具体例を挙げて話せるようになること

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 50%）	指導内容を深く理解した上で自分の意見や考えを持つことができている。	指導内容を十分理解できている。	指導内容を理解できていないところがある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度（ 50%）	意欲的に受講し、教室全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講し、教室全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に受講している。	意欲的に受講しているとは言えない。	意欲が見られない。

評価方法

・学期末試験（50%）：ルーブリックの「理解度」にあたります。
試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
・受講態度　（50%）：ルーブリックの「受講態度」にあたります。

テキスト

教科書はありません。教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分で確実に実行してください。

企業論　～企業と社会の関係の在り方を学ぶ～	藤井喜一郎

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

経営学は管理論と企業論から構成されている。管理論が製造部、販売部、人事部、財務・経理部などのように企業組織の一部門の効率化を目的としているのに対して、企業論は企業全体を対象としている。

本授業では、経済学と経営学の二つの分析視点から、企業の種類と株式会社の発展、会社の機関とガバナンス、企業の社会的責任、企業の競争戦略と成長、持続可能なビジネス、中小・ベンチャー企業と新たなビジネス・モデルについて学んでいく。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション：シラバスを確認し、講義の概要、目的、スケジュールについて説明する。
第 2 回	日本企業の諸形態について講義する。
第 3 回	株式会社の大規模化と支配・統治変化について講義する。
第 4 回	日本の最高経営組織と企業統治について講義する。
第 5 回	アメリカの最高経営組織と企業統治について講義する。
第 6 回	CG コードと SS コードによるガバナンス改革について講義する。
第 7 回	企業の社会的責任について講義する。
第 8 回	企業の成長戦略について講義する。
第 9 回	企業の競争戦略について講義する。
第 10 回	企業の M&A 戦略について講義する。
第 11 回	貧困問題と BOP ビジネスについて講義する。
第 12 回	日本の長寿企業について講義する。
第 13 回	日本の中小企業の現状と課題について講義する。
第 14 回	ベンチャービジネスの現状と課題について講義する。
第 15 回	全体のまとめ：DX で変わる企業経営について講義する。

予習・復習

・予習：授業のレジュメを把握し、教科書の該当箇所と新聞・WEB サイトの日本の産業と企業に関する記事をよく読むこと。

・復習：配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

履修上の注意

1. 経営学の基礎知識を踏まえたうえで受講すること。
2. 講義内容の変更等授業の重要事項が第１回目に説明される。単位認定にかかわるので必ず第１回目の授業に出席すること。
3. やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをすること。

到 達 目 標

本講義の到達目標は、①日本企業の組織・行動・成果を体系的に理解するために必要な幅広い教養的知識・技能を学ぶことができること、②経営学検定初級合格に必要な知識を得ることができること、③独力で企業の仕組みを理解し、説明することができること、④学んだ知識を、企業等での経営企画、調査研究等に活かすことができることにある。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	企業経営の現実を理解しているうえ、経営問題を探ることができる	企業経営の仕組みを十分に理解している	企業経営の理解にはやや努力を要する	企業経営の理解にはかなり努力を要する	企業経営の仕組みついて理解できていない
課題解法能力（20%）	経営課題についてアドバイスもできる	経営課題ついて十分理解し、問題解法もできる	特に経営現場やマーケティングについての課題解法にはやや努力を要する	経営学の課題の解法にはかなりの努力が必要である	企業経営の課題解法はできていない
解法を文書で説明する力・レポート（　20%）	企業経営やケースを巡って論文まで書ける	経営現場の他人を説得する内容が記述することができる	論理が通った経営課題説明文を記述することができる	ケース・スタディについて説明不足があるが、説明文を書くことができる	ケース・スタディについて説明文を書くことができない
統計的分析能力（10%）	経営財務について統計的分析に優れている	経営財務について統計的分析が良くできている	経営財務についての統計的な分析にやや努力を要する	経営財務についての統計的な分析にかなり努力を要する	企業経営や財務についての統計的な分析ができていない
歴史的知識（10%）	企業経営の歴史について詳しい	企業経営の歴史について理解している	企業経営の歴史を知るにはやや努力が必要である	企業経営の歴史を知るにはかなり努力を要する	企業経営の歴史について分かっていない

評価方法

期末レポート提出 70%、理解度テスト（授業内１回・教科書持ち込み可）20%、受講態度 10%。

テキスト

・教科書名：『入門 企業論』
・著 者 名：佐久間信夫・井上善博・矢口義教［編著］
・出版社名：法律文化社
・出 版 年（ISBN）：2024 年（ISBN）978-4-589-04297-2

中小企業論　～我々の身近にある会社を知る～

藤井喜一郎

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

授業では、教科書に沿って、中小企業の定義、日本経済の発展プロセスと中小企業との関係、日本の中小企業において切実な問題である中小企業の事業承継の現状と課題、中小企業の経営形態と経営特質について説明し、中小企業の経営課題と解決策について丁寧にたどっていく。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション：シラバスを確認し、講義の概要、目的、スケジュールについて説明する。
第 2 回	中小企業の定義と特徴：中小企業基本法などから中小企業の定義を講義する。
第 3 回	日本における中小企業の歴史的変遷について講義する。
第 4 回	中小企業の創業：創業の要件、企業形態、株式会社の設立について講義する。
第 5 回	中小企業経営①中小企業経営者、中小（法人）企業の経営指標と経営課題について講義する。
第 6 回	中小企業経営②経営組織、経営戦略、経営管理、マーケティングについて講義する。
第 7 回	中小企業の事業承継：事業承継のパターン、事業承継の課題について講義する。
第 8 回	中小製造業：概要、変化、産業集積について講義する。
第 9 回	中小非製造業：商業、サービス業、旅行業、中小サービス業の課題について講義する。
第 10 回	中小企業財務：財務諸表、財務分析の基本、財務戦略について講義する。
第 11 回	中小企業信用格付：金融機関による格付と信用格付機関による格付について講義する。
第 12 回	中小企業金融システム：中小企業の資金需要と資金調達の形態、制度融資について講義する。
第 13 回	中小企業金融実務/企業の資金繰り、資金需要の優先順位、負債による調達について講義する。
第 14 回	中小企業金融実務/資本による調達（CF）と資産による調達（ABL）について講義する。
第 15 回	中小企業問題と中小企業政策：中小企業の低生産性問題、中小企業政策について講義する。

予習・復習

・予習：授業のレジュメを把握し、教科書の該当箇所と『中小企業白書』をよく読むこと。

・復習：配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

履修上の注意

1. 企業論の基礎知識を踏まえたうえで受講すること。
2. 講義内容の変更等授業の重要事項が第１回目に説明される。単位認定にかかわるので必ず第１回目の授業に出席すること。
3. 毎回、講義テーマに沿った講義資料を提供し、知識の修得を図ると同時に、可能な限り多くの事例を提示し理解促進を図る。知識だけでなく、各自の考え方を持つために、小レポートの提出を数回予定する。
4. やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをすること。

到 達 目 標

本講義の到達目標は、①中小企業の本質に関する理解とそれに必要な理論を獲得できること、②中小企業の発展性と問題性を理解し、中小企業経営の現状や課題解決に対する基本的な分析力を身につけることができること、③日本の中小企業における制度融資についてより深く理解し、学んだ知識を、中小企業での経営企画、調査研究等に活かすことができることにある。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	中小企業経営の現実を理解しているうえ、経営問題を探ることができる	中小企業経営の仕組みを十分に理解している	中小企業経営の理解にはやや努力を要する	中小企業経営の理解にはかなり努力を要する	中小企業経営の仕組みついて理解できていない
課題解法能力（20%）	中小企業の経営課題についてアドバイスもできる	中小企業の経営課題ついて十分理解し、問題解法もできる	特に中小企業の経営現場やマーケティングについての課題解法にはやや努力を要する	中小企業経営の課題の解法にはかなりの努力が必要である	中小企業経営の課題解法はできていない
解法を文書で説明する力・レポート（　20%）	中小企業経営やケースを巡って論文まで書ける	中小企業経営現場の他人を説得する内容が記述することができる	経営学の論理が通った経営課題説明文を記述することができる	ケース・スタディについて説明不足があるが、説明文を書くことができる	ケース・スタディについて説明文を書くことができない
統計的分析能力（10%）	中小企業経営財務について統計的分析に優れている	中小企業経営財務について統計的分析が良くできている	中小企業経営財務についての統計的な分析にやや努力を要する	中小企業経営財務についての統計的な分析にかなり努力を要する	中小企業経営や財務についての統計的な分析ができていない
歴史的知識（10%）	地域経済、地場産業や中小企業経営の歴史について詳しい	地場産業や中小企業経営の歴史について理解している	中小企業経営の歴史を知るにはやや努力が必要である	中小企業経営の歴史を知るにはかなり努力を要する	中小企業経営の歴史について分かっていない

評価方法

期末レポート提出 70%、理解度テスト（授業内１回・教科書持ち込み可）20%、受講態度 10%。

テキスト

・教科書名：『中小企業論』
・著 者 名：藤井　喜一郎［著］
・出版社名：時潮社
・出 版 年（ISBN）：2022 年 8 月（ISBN）978-4-7888-0759-4

人的資源管理論　～映像で学ぶヒトの管理～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

経営資源には、ヒト（人的資源）やモノ（生産設備）、カネ（資本）、情報等があります。この授業では、ヒトの管理を学びます。人的資源管理論の理論、概念で物事を捉え、考察する練習をしていただきたいと思います。ほぼ毎回、理論や概念装置というめがねをかけて映像の中の出来事を見て、考察し授業内レポートを出していただきます。この授業では具体的には次のようなことを講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	総論その１　人的資源管理論とはどのような学問か 人的資源管理論の成り立ち、人的資源管理論の対象、領域、課題について学ぶ。
第 2 回	総論その２　人的資源の特性、「人間観」について 「人間観＝人間をどういう存在として捉えているか」の重要性を学ぶ。
第 3 回	総論のふりかえり 第１回、第２回の授業で学んだ重要な概念が理解できているか、確認する。
第 4 回	ヒトと仕事をどう結びつけるか　その１ 採用：採用戦略、採用の種類・方法、難しさについて学ぶ。
第 5 回	ヒトと仕事をどう結びつけるか　その２ 配置：配置の種類や配置に対する考え方について学ぶ。
第 6 回	ヒトをどのように働かせるか 採用すれば働いてくれるわけではない。働いてもらうためになすべきことを学ぶ。
第 7 回	コミットメントによる管理、コントロールによる管理　その１ 二つの管理方法を比較し、それぞれの特徴や長所・短所を学ぶ。
第 8 回	コミットメントによる管理、コントロールによる管理　その３ コミットメントはいかにして引き出すことができるのかを学ぶ。
第 9 回	ヒトは育てるものか、育つものか 育成：能力開発は誰が、どこが担うのか、能力開発における選択と自己責任を学ぶ。
第 10 回	ヒトは育てるものか、育つものか 評価、報酬：報酬はお金とはかぎらないことを学ぶ。
第 11 回	リーダーシップ論 リーダーシップの型と、それぞれの型の長所・短所を学ぶ。
第 12 回	経営においてヒトとは何か　その１ ヒトの確保と維持に何が必要かを考えてみる。
第 13 回	労使紛争、労使関係管理 雇用調整をめぐる紛争を手がかりに、労使紛争の痛みと労使関係の維持・管理を学ぶ。
第 14 回	経営においてヒトとは何か　その２ 結局、経営においてヒトとは何なのか、自分なりの答えを持つ。
第 15 回	まとめとふりかえり 授業の意図がつかめていたか、確認する。

予習・復習

予習・復習に求めることは確認・要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の２点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②学んだ概念や理論が、ここにも当てはめることができるのではないかと思う経験や出来事を探してみてください。

・予習：前回の授業のポイントを１分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は成績に反映させます。
2 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
3 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。

到 達 目 標

この授業が終わる頃に、次のような状態に到達することを目標とします。
1　企業で働くとき、どのように管理されるのかイメージを持つことができる。
2　ヒトを管理する側が直面する問題について自分なりに考えをもつことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　50%）	指導内容を深く理解した上で自分の意見や考えを持つことができている。	指導内容を十分理解できている。	指導内容を理解できていないところがある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度（　50%）	意欲的に受講し、教室全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講し、教室全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に受講している。	意欲的に受講しているとは言えない。	意欲が見られない。

評価方法

・学期末試験（50%）：ルーブリックの「理解度」にあたります。
　　試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
・受講態度　（50%）：ルーブリックの「受講態度」にあたります。

テキスト

教科書はありません。教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分で確実に実行してください。

財務管理論　～金融リテラシーとしての「財務管理」入門～	劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

財務管理とは、企業の経営と成長に必要な資金をどのように集めて（調達）、それをどのように使えば（運用）よいのかを管理することである。本授業では、財務管理に関する主要なキーワード、理論、および実践スキルを考察し、実際の企業事例を取り上げながら、その実態や課題についての理解を深めることを目指して講義する。授業で得た専門知識を応用することで、自らの視野を広げ、新たな可能性を探求することを期待する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の狙い、全体像、進め方、評価方法および受講上の注意点
第 2 回	生活者の視点からみる経済の仕組みと景気変動
第 3 回	私たちが金融を支えている？金融の役割と資金調達の種類
第 4 回	大航海時代からあった？株式会社の仕組み
第 5 回	株式会社の資金調達方法：株式の発行と株主の権利
第 6 回	株式市場と株式流通の仕組み
第 7 回	株価の変動要因（1）
第 8 回	株価の変動要因（2）
第 9 回	中間まとめ（前半までの授業内容の振り返り、復習問題・解説）
第 10 回	株式会社の資金調達方法：債券の仕組み
第 11 回	株式会社の資金調達方法：債券の利回り
第 12 回	株式会社の資金調達と家計の資産形成（1）
第 13 回	株式会社の資金調達と家計の資産形成（2）
第 14 回	株式会社の資金調達と家計の資産形成（3）
第 15 回	期末まとめ（後半の授業内容の振り返り、復習問題・解説）

予習・復習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計６回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・財務管理論の基礎知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・財務管理論の知識を応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

①受講姿勢：７０%（授業内小課題またはリアクションペーパーの提出）
②期末課題：３０%（第 15 回授業内で作成・提出）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

マーケティング論

～ビジネスの本質理解とマーケティング戦略立案のための発想法～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

『マーケティング』は「ファイナンス（財務・経理）」と「アドミニストレーション（管理全般）」とともに企業体を構成する機能であり、業種・職種を問わず、身につけるべきビジネス実務の知識である。そのマーケティングの考え方の枠組みとビジネスにおけるマーケティング戦略立案・戦術策定の発想法を、担当教員の広告会社マッキャン・ワールドグループ及びインターネット調査会社 GMO リサーチ社での実務経験に基づいて、具体的な事例を取り上げて講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	マーケティングとは？ 企業のマーケティング活動の定義／マーケティングを学ぶための基本的な考え方
第 2 回	マーケティングの本質 マーケティングファネルという考え方／具体的事例で学ぶマーケティングの本質
第 3 回	マーケティングリサーチ マーケティングの実施管理プロセスとその起点となるマーケティングリサーチ
第 4 回	競争優位性の確立の基本と発想法（有利な立ち位置でビジネスを進める；STP）① Segmentation ｾｸﾞﾒﾝﾃｰｼｮﾝ／Targeting ﾀｰｹﾞﾃｨﾝｸﾞ／Positioning ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞ
第 5 回	競争優位性の確立の基本と発想法（有利な立ち位置でビジネスを進める；STP）② Segmentation ｾｸﾞﾒﾝﾃｰｼｮﾝ／Targeting ﾀｰｹﾞﾃｨﾝｸﾞ／Positioning ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞ
第 6 回	製品戦略 4P／4C ① 何を売るのか／Product と Customer Value（製品／顧客にとっての価値）
第 7 回	価格戦略 4P／4C ② いくらで売るのか／Price と Cost（価格／購入までの時間を含めたトータルコスト）
第 8 回	広告・プロモーション戦略 4P／4C ③ どのように知らせるのか／Promotion と Communication（販売促進／顧客との関係構築）
第 9 回	販売チャネル戦略 4P／4C ④ どのように届けるのか／Place と Convenience（流通／購入・利用の利便性）
第 10 回	ネーミングとパッケージ 製品名・サービス名称・店舗名の考案／マーケティングにおける役割／ブランドの基本
第 11 回	ブランディング ブランドの定義・種類と役割の変遷／ブランド価値の重要性／ブランドエクイティ
第 12 回	サービスマーケティング モノとサービスの違い／サービス品質の構成要素／顧客接点の重要性
第 13 回	Web マーケティング Web サイトへの集客手法／Web サイトでの接客／ターゲティング・リターゲティング
第 14 回	企業のマーケティング活動の実例を調べる（グループワークによる資料作成） どのような人に・どのような価値を・どのように届けているのか
第 15 回	企業のマーケティング活動の実例を発表する（グループによるプレゼンテーション） どのような人に・どのような価値を・どのように届けているのか

予習・復習

- 予習：毎回講義で取り上げるテーマに関して、身近な製品・サービスや店舗・施設等のマーケティング活動を想定し、簡潔にまとめておくこと（他に、授業内で事前準備の指示あり）。
- 復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること（他に、授業内で提出課題の指示あり）。

※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

2. 自身が利用している身近な製品・サービスや店舗・施設等のマーケティング活動を想定し、講義で解説するテーマに当てはめて考える習慣を身につけること。
3. 講義回は未定であるが、マーケティングデータの収集ノウハウやブランディングを講義テーマとして、外部講師（元ハイエンドブランドのマーケティングディレクター）の招聘を予定している。
4. 受講者の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
5. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡)。
6. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. マーケティング戦略立案のための基本的な考え方の枠組み （フレームワーク） である「STP (Segmentation／Targeting／Positioning)」を説明することができる。
2. マーケティング戦術策定のための手段である「4P (Product、Price、Place、Promotion)／4C (Customer Value、Cost、Convenience、Communication)」を説明することができる。
3. 身近な製品・サービスや店舗・施設等の「マーケティング戦略と戦術」を説明することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
STP の説明（30%）	STP の知識の習得にとどまらず、分析力や創造力まで習得できている。	STP のフレームワークを用いて分析し説明できる。	STP の基本とフレームワークを説明できる。	STP の基本を理解しているが、フレームワークまでは説明できない。	STP の基本もフレームワークも十分に説明できない。
4P／4C の説明（30%）	4P／4C の知識の習得にとどまらず、分析力や創造力まで習得できている。	4P／4C のフレームワークを用いて分析し説明できる。	4P／4C の基本とフレームワークを説明できる。	4P／4C の基本を理解しているが、フレームワークまでは説明できない。	4P／4C の基本もフレームワークも十分に説明できない
企業のマーケティング活動の説明（40%）	企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠と論理的な説明に基づき、正確かつ説得力のある結論を導いている。	企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠に基づき、論理的な説明がほぼできている。	企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠を示して概ね正確に説明しているが、読み手を納得させる書き方や結論となっていない。	企業のマーケティング戦略と戦術について、一部根拠を示しているが、参照したデータや文章の意味を取り違えたり、論理的な説明ができていなかったりする。	企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠がまったく示されておらず、情緒的な文章が続き、論理的な説明ができていない。

評価方法

前期定期試験 40%、グループワークによる資料作成とプレゼンテーション 30%、受講態度 30%

テキスト

- 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
- 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「マーケティング論」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること)。

会計学　～ビジネス教養としての「会計」入門～	劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

会計とは、企業活動の成果をお金の視点から把握し、その実態を利害関係者に報告する仕組みである。本授業では、会計学に関するキーワードや主要な理論を考察し、実際の企業事例を取り上げながら、その実態や課題についての理解を深めることを目指して講義する。授業で得た専門知識を応用することで、自らの視野を広げ、新たな可能性を探求することを期待する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の狙い、全体像、進め方、評価方法および受講上の注意点
第 2 回	会社の売上は商品を売って得たお金
第 3 回	相手企業を信用して支払いを先延ばしにする信用取引
第 4 回	会社の費用は経営活動するために必要なお金
第 5 回	商品の製造原価を把握する原価計算
第 6 回	会社の利益と損失は売上から費用を引いたお金
第 7 回	円高・円安、税金と利益の関係
第 8 回	中間まとめ（前半までの授業内容の振り返り、復習問題・解説）
第 9 回	会社の売上を増やすにはどうすればいい？
第 10 回	会社の利益を増やすにはどうすればいい？
第 11 回	決算書は会社の経営状況を報告するためのもの
第 12 回	会社のもうけがわかる「損益計算書」
第 13 回	会社の財産と借金がわかる「貸借対照表」
第 14 回	会社の現預金の動きがわかる「キャッシュフロー計算書」
第 15 回	期末まとめ（後半の授業内容の振り返り、期末課題の提出）

予習・復習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計 6 回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・会計学の基礎知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・会計学の知識を応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

①受講姿勢：７０%（授業内小課題またはリアクションペーパーの提出）
②期末課題：３０%（第 15 回授業内で作成・提出）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

情報処理概論　～データサイエンスの基礎を身につける～

原　かおり

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

AI の開発が進み、社会や産業は大きく変化をしています。これからのデジタル化社会において、データサイエンス・AI についての知識は必要な教養であると考えられています。

本講義では、情報機器の仕組みや様々な情報技術を扱い、データサイエンスの基礎を身につけます。また、情報を扱う上での留意点やセキュリティについて指導し、課題や問題点についても考察していきます。

IT パスポートの問題も扱います。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、情報処理とコンピュータ、コンピュータの種類
第 2 回	ハードウェアとソフトウェア、コンピュータの歴史
第 3 回	入力装置と出力装置
第 4 回	主記憶装置と補助記憶装置
第 5 回	コンピュータの世界は 0 と 1（コンピュータの扱うデータ）
第 6 回	ソフトウェアとファイルの形式
第 7 回	データベースの仕組み
第 8 回	ネットワーク方式とプロトコル
第 9 回	通信回線と送信方式
第 10 回	セキュリティと脅威の種類
第 11 回	セキュリティ対策
第 12 回	情報セキュリティマネジメント
第 13 回	様々なシステム（システムと導入までの流れ）
第 14 回	情報に関する法制度
第 15 回	AI 最新技術の活用例と AI の留意事項

予習・復習

・予習：情報に関するニュースに関心を持ち、自身で考えること（講義内で取り上げます）。

・復習：講義内で取り扱った用語について、自身で調べ確認をすること。
　　講義内で扱った、IT パスポートの練習問題を再度解いてみること。

履修上の注意

授業開始後 30 分までの入室は遅刻として受講を認めます。30 分を超えての入室の場合は欠席扱いとします。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。
授業の進行状況によって、講義内容が前後する場合があります。

到 達 目 標

・情報に関する用語を理解すること。
・コンピュータの仕組みについて理解すること。
・情報を扱うことのリスクを考え、行動できるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
用語理解度（30%）	用語を十分に理解し説明ができる。	用語を十分に理解している。	おおよその用語を理解している。	用語を少しは理解している。	用語をまったく理解していない。
仕組理解度（30%）	仕組みを十分に理解し説明ができる。	仕組みを十分に理解している。	おおよその仕組みは理解している。	仕組みを少しは理解している。	仕組みがまったく理解できていない。
情報リテラシー（40%）	扱う情報の重要性を正確に判断し処理できる。	扱う情報の重要性を正確に判断できる。	扱う情報をおおよその区別はできる。	扱う情報の種類を区別できない。	扱う情報の重要性がわからない。

評価方法

学期末試験（50%）　　授業内課題（30%）　　授業態度（20%）

テキスト

指定のテキストはありません。毎授業、ワークシート形式のプリントを配付します。
全講義が終了した時に、各自のオリジナルテキストが完成します。
プリントを入れるファイル（A4 版）を用意してください（初回の講義で説明します）。

文書作成　～MS-Word スペシャリストを目指す～

原　かおり

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2 年	前期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

ＭＯＳ(Microsoft Office Specialist)(Word)の資格は、word の利用能力を証明する資格試験制度です。
本講義では、資格試験に対応できるスキルが身につくよう指導します。
資格試験に必要なスキルを身につけることで、様々なビジネス文書が作成でき、扱えるようになります。
ＭＯＳ(Microsoft Office Specialist)(Word)取得をめざし、模擬試験なども含め、試験対策についても指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画の説明　タイピング練習の方法　初級の文書作成
第 2 回	ビジネス文書の基本ルール、ビジネス文書の種類、基本的なフォーマット 敬称の種類、頭語と結語、前文と末文
第 3 回	記号と特殊文字、検索と置換、行間、段落の間隔、インデント、書式のコピー、書式のクリア
第 4 回	セクション区切り、段組、段組のある文書の作成
第 5 回	表の作成、表の編集（余白、間隔の設定、結合と分割、高さと幅の調整）
第 6 回	リストの作成、編集（行頭文字、レベルの設定、変更、リスト番号）
第 7 回	表、リスト、段組を含む新規文書の作成
第 8 回	図の挿入、図の書式設定、図の編集、SmartArt の挿入と編集
第 9 回	テキストボックス、図形へのテキスト追加、図の扱い方
第 10 回	文書のスタイル、ページの背景、文書のプロパティ、印刷設定
第 11 回	脚注や文末脚注、資料文献、引用文献、目次の作成
第 12 回	図やテキストボックスを含む新規文書の作成
第 13 回	コメントと変更履歴
第 14 回	総合演習
第 15 回	MOS 試験対策：まとめ、模擬試験問題

予 習 ・ 復 習

・予習：次回講義部分のテキストを読んでくること。

・復習：講義内で扱った練習問題を繰り返し解いてみること。
　　理解が不十分な箇所は次の講義までに解決すること。

履修上の注意

授業開始後 30 分までの入室は遅刻として受講を認めます。30 分を超えての入室の場合は欠席扱いとします。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。
また、課題の提出がない場合は出席をしていても単位付与はできません。
資格取得を目標としている学生向けの講義です。
毎授業、パソコンを持参してください。授業の進行状況によって、講義内容が前後する場合があります。
パソコンの充電は充分にしておいてください。

到 達 目 標

・Microsoft Office Specialist(Word)の資格取得。
・自分の力で、目的のデータを作成できるようになる。
・他者の作成したデータを理解し、編集できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
資格取得への姿勢 (50%)	MOS 資格の取得。	MOS 資格取得への十分な知識がある。	ヒントを与えれば、問題に解答できる。	指示通りに操作はできるが、理解が不足している。	1 つ 1 つの機能の理解が足りない。
応用力 (発想能力) (25%)	使用したことのない機能でも自分で調べ活用できる。	基本を十分に理解し、機能を組み合わせて結果を出せる。	ヒントを与えれば、問題に解答できる。	指示通りに操作はできるが、理解が不足している。	1 つ 1 つの機能の理解が足りない。
読解力 (判断能力) (25%)	作成者の意図を理解した上で、データをアップグレードできる。	作成者の意図を理解し、編集作業ができる。	ヒントを与えれば理解し、編集作業ができる。	指示通りに操作はできるが、自分自身で判断ができない。	どのようにしたらよいか判断ができない。

評価方法

課題提出（3 回）(60%)　授業内課題（20%）　　授業態度（20%）

テキスト

・教科書名：『よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist　Word 365 対策テキスト&問題集』
・著 者 名：株式会社富士通ラーニングメディア
・出版社名：FOM 出版（株式会社富士通ラーニングメディア）
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-86775-069-8）

データ活用　～MS-Excel スペシャリストを目指す～

原　かおり

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2 年	後期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

ＭＯＳ(Microsoft Office Specialist)(Excel)の資格は、Excel の利用能力を証明する資格試験制度です。本講義では、資格試験に対応できるスキルが身につくよう指導します。

資格試験に必要なスキルを身につけることで、Excel 機能を理解し、ビジネスで活用できるようになります。ＭＯＳ(Microsoft Office Specialist)(Excel)取得をめざし、模擬試験なども含め、試験対策についても指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画の説明、タイピング、表計算ソフトの画面構成、基本操作
第 2 回	表の編集：コピーと貼付け、挿入と削除、オートフィル機能
第 3 回	表の編集：テキストの配置、インデント、セルの結合、数値の書式、書式のコピー
第 4 回	表の編集：セルのスタイル、複数シートの扱い、範囲名の設定と参照
第 5 回	データを視覚的にまとめる、条件付き書式
第 6 回	テーブルの作成、スタイルとオプション設定、フィルターと並び替え
第 7 回	関数：相対参照と絶対参照、構造化参照、SUM、AVERAGE、MAX、MIN
第 8 回	関数：相対参照と絶対参照、構造化参照、COUNT、COUNTA、COUNTBLANK
第 9 回	IF 関数と文字列関数：IF、LEFT、RIGHT、MID、UPPER、LOWER、LEN、CONCAT、TEXTJOIN
第 10 回	グラフの編集：グラフシートの作成、グラフの書式設定、グラフの編集
第 11 回	グラフと表の総合演習：要素の追加と変更、データ系列の追加
第 12 回	データの互換：txt、csv、xml のインポート、検索と移動、ハイパーリンクの設定
第 13 回	改ページプレビュー、ヘッダー・フッター、ウィンドウの分割、ファイルのプロパティ
第 14 回	ツールバーの管理、印刷設定、ファイルのエクスポート、ブックの検査、メモとコメント
第 15 回	MOS 試験対策：まとめ、模擬試験問題

予 習 ・ 復 習

・予習：次回講義部分のテキストを読んでくること。

・復習：講義内で扱った練習問題を繰返し解いてみること。
　　理解が不十分な箇所は次の講義までに解決すること。

履修上の注意

授業開始後 30 分までの入室は遅刻として受講を認めます。30 分を超えての入室の場合は欠席扱いとします。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。
また、課題の提出がない場合は出席をしていても単位付与はできません。
資格取得を目標としている学生向けの講義です。
毎授業、パソコンを持参してください。授業の進行状況によって、講義内容が前後する場合があります。
パソコンの充電は充分にしておいてください。

到 達 目 標

・Microsoft Office Specialist(Excel)の資格取得。
・関数を応用して、目的のデータを作成できるようになる。
・他者の作成したデータを理解し、編集できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
資格取得への姿勢 (60%)	MOS 資格の合格。	MOS 資格取得への十分な知識がある。	ヒントを与えれば、問題に解答できる。	指示通りに操作はできるが、理解が不足している。	1 つ 1 つの機能の理解が足りない。
応用力 (発想能力) (20%)	使用したことのない機能でも自分で調べ活用できる。	基本を十分に理解し、機能を組み合わせて結果を出せる。	ヒントを与えれば、問題に解答できる。	指示通りに操作はできるが、理解が不足している。	1 つ 1 つの機能の理解が足りない。
読解力 (判断能力) (20%)	作成者の意図を理解した上で、データをアップグレードできる。	作成者の意図を理解し、編集作業ができる。	ヒントを与えれば理解し、編集作業ができる。	指示通りに操作はできるが、自分自身で判断ができない。	どのようにしたらよいか判断ができない。

評価方法

課題提出 (3 回) (60%)　　授業内課題 (20%)　　授業態度 (20%)

テキスト

・教科書名：『よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist　Excel 365 対策テキスト&問題集』
・著者/製作：株式会社富士通ラーニングメディア
・出版社名：FOM 出版 (株式会社富士通ラーニングメディア)
・出 版 年 (ISBN)：2023 年 (978-4-86775-056-8)

インターンシップ　～現場実習を通して職場意識を高めよう～	齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社において様々な業界との取引や社員教育・育成などの実務経験に基づき、企業等での現場実習を体験します。これに先立ち現場実習のための準備として、仕事や就職活動の方向性の確認、現場実習に向けての履歴書の作成、ビジネスマナーの習得等を行います。実習後は報告書の作成と報告会等を行います。実習と事前・事後指導を通して、就職活動・就職への意識を高めるための指導をする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	履修者の選考
第 2 回	授業の進め方
第 3 回	＜事前指導＞
第 4 回	＜事前指導＞履歴書等、必要書類の作成
第 5 回	＜事前指導＞実習先に関する研究
第 6 回	＜事前指導＞実習本番への準備（マナー）
第 7 回	＜事前指導＞実習報告の準備（プレゼン準備）
第 8 回	〔現場実習〕
第 9 回	〔現場実習〕各々の実習先での現場実習
第 10 回	〔現場実習〕日報の記載・提出
第 11 回	〔現場実習〕お礼状の作成と送付
第 12 回	≪事後指導≫
第 13 回	≪事後指導≫実習の内容と成果について
第 14 回	≪事後指導≫各自 PowerPoint を使用してのプレゼン
第 15 回	実習報告会

予習・復習

・予習：実習先への提出書類作成準備、実習先での留意事項、マナーなどのおさらい

・復習：日報を作成して、学んだことを振り返る。実習報告会の準備、就職活動と就職に活かせることをまとめておく。

履修上の注意

・履修者選考（第１回授業で実施）の合格者だけが履修登録をすることができます。
なお定員は最大でも８名程度です。
・履修者の選考は、前期科目履修状況（特に遅刻・欠席)、面接等総合的に行います。
・後期総合ガイダンスの日に説明会を実施します。
・現場実習はもちろん、事前・事後指導も、授業時間外に実施する場合があります。もちろん、事前の調整・連絡は致しますので、連絡のチェックを怠らないようにして下さい。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は原則不可とし、正当な理由のない遅刻、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・ビジネス現場で実際に働く事を通じて、仕事の流れや職場における人間関係のあり方などを体験する。
・働く事の面白さと難しさ、働く事の意義を考えるとともに、就職への意識を高める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０%）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０%）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０%）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

現場実習（50%)、事前・事後における受講態度（50%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

教科書はありません。必要な資料は適宜配付しますので、受け取りと管理を各自適切に実行してください。

流通ビジネス論　～小売業の現実と小売業の様々なタイプを学ぶ～

平野　英一

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

流通とは、生産と消費の間の懸隔をつなぐための社会的な仕組みであり、その構成要素は具体的には生産者、卸売業者、小売業者、消費者といった主体からなる。流通ビジネスに関わる企業がどんなに優れた製品を工場で生産しても、また農家がどんなにおいしい果物を栽培したとしても、最終的に消費者の手に渡るには流通というしくみがなくてはならないのである。流通現象を理解するための基礎理論を具体例や事例を用いながらわかりやすく学習していく。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	1.流通の概念とその役割: 流通ビジネスへのイントロダクション
第 2 回	2.流通の社会的役割と流通機構
第 3 回	3.流通ビジネス事例研究①「セブンイレブン」(コンビニエンスストア)
第 4 回	4.流通機能（1）所有権の流れに関する機能
第 5 回	5.流通機能（2）財（商品）の流れに関する機能
第 6 回	6.流通機能（3）情報の伝達に関する機能
第 7 回	7.流通ビジネス事例研究②「ドン・キホーテ」(ディスカウントストア)
第 8 回	8.消費者と流通
第 9 回	9.生産者と流通
第 10 回	10.流通ビジネス事例研究③「サミット」(総合スーパー)
第 11 回	11.流通ビジネス（商業）の存立基盤　～取引数単純化の原理とは～
第 12 回	12.小売業の役割と機能
第 13 回	13.小売業の構造と諸形態（諸業態）
第 14 回	14.流通ビジネス事例研究④「しまむら」(総合アパレル小売販売業、埼玉県企業)
第 15 回	15.流通ビジネスの新動向と未来像

予習・復習

・予習：指定参考書をはじめ、事前に提示される資料を読み込み、これらについての理解を深め、不明な点や自身の問題意識をまとめ、その上で授業にのぞむことが予習として必要である。
・復習：授業で不明な点や問題意識に対する認識が明確となり、知識をえることになるが、そこから応用として、学習した理論や枠組みが、自身に身近な企業でどのように適合しまた異なる事項は何かなどを整理することが求められることと、授業で説明した以外の別企業の事例を分析することや問題解決の提案をまとめてもらうことが求められる

履修上の注意

・当該授業では、予習（授業資料を事前に読んでおくこと)、そして授業後の課題があるのでこれらを毎回こなしていくことが求められる
・少人数の授業であれば、グループでの議論などの時間をとり、議論内容について授業最後に発表してもらうことを予定している
・休まず授業に出席し、毎回の課題などをこなしていくことが求められる

到達目標

流通ビジネスの社会的役割や流通ビジネスの機能に関する基本的な学問的枠組みを学習する。特に、流通に関する基礎理論や分析手法を学び、流通現象をみる視点を身につけ流通の本質的意義に関する理解を深める。当該授業科目は流通の基礎を学ぶ授業であるだけに、その教育上の到達目標は基本的な流通の知識を身につけ知見を深め理解を徹底することとなる。

流通ビジネスの社会的役割や流通ビジネスの機能に関する基本的な学問的枠組みを学習する。特に、流通に関する基礎理論や分析手法を学び、流通現象をみる視点を身につけ流通の本質的意義に関する理解を深める。当該授業科目は流通の基礎を学ぶ授業であるだけに、その教育上の到達目標は基本的な流通の知識を身につけ知見を深め理解を徹底することとなる。

このことを段階的に分解して理解すると、まず学習内容の理解（①学習内容の理解）が重要となる。理解するためには、事前に資料・参考書・WEB 上の正しく適切な情報などを授業前に読み込み、不明な点は自ら調べ、それでもわからない点や問題意識を持って授業にのぞみ、そして授業での完璧な理解を得ることがまず重要となる。続いて、理解をもって得た知識、知見を活用して、実際の事例や具体例を分析し考察できる能力（②分析力・考察力）を身に付け磨いていくことが求められる。これを実現するには、授業時によく聴き想像力をはたらかせて、授業以外で関心や問題意識のある事例や具体例の現状や課題を適切に認識し、その原因を分析したり、構造的な問題を正しく見極めたりすることができるようになることが肝要である。さらに、求められるのが、③応用力（課題や問題の解決力、提案力）が求められる。実際の流通ビジネスの現場を想定した課題や問題が授業後の課題として提示され、それに対する自身の課題・問題に対する改善、解決のための具体的な提案を示せるかどうかがこの能力といえる。さらに、企業で働いていれば、④実績・成果（結果）が求められる、ということになるが、大学での授業では①、②、③野のお力を身に付けて発揮できる状況になることが到達目標となる。

受講者たちは、まず流通のしくみと現実について基本的な知識・知見をまずは身につける。それから、それを前提に流通に関する現象や問題に対して理解ができるような力をつける。そしてそうした問題・現象に対して深く思考・考察するとともに、他者や外部の人にわかりやすく説明できるようになることが行動目標となる。さらに、流通の新しい動きに対して自分の意見をまとめ述べ、表明することができるようになること、すなわち判断し評価し提案することができるようになることが最終的な到達目標である。

ところで、私たちはコンビニエンスストアやスーパー、専門店で買物をしますが、そういった店舗で売られている商品がどこからどのようにして小売店に辿り着いたのか、また、どのような人が関与し、どのような働きをしているのかについてはそれほど考えたことはないと思います。流通とは、商品の生産と私たち消費者の消費を有機的に結びつける極めて重要な活動で、流通の良し悪しが私たちの生活の質を規定するといっても過言ではありません。しかも、消費の側である私たち消費者と密接であるため、消費者の変化が敏感に影響することも特長の一つでしょう。本授業では、その中核をなす小売業と卸売業に焦点をあて、実際の事例を採り入れながらマーケティングや経営の戦略を学びます。この授業を受けることにより、流通のしくみや現在の流通業が直面している問題について知ることができ、流通ビジネスの変化についての知識も会得できるようになります。

このことを段階的に分解して理解すると、まず学習内容の理解（①学習内容の理解）が重要となる。理解するためには、事前に資料・参考書・WEB 上の正しく適切な情報などを授業前に読み込み、不明な点は自ら調べ、それでもわからない点や問題意識を持って授業にのぞみ、そして授業での完璧な理解を得ることがまず重要となる。続いて、理解をもって得た知識、知見を活用して、実際の事例や具体例を分析し考察できる能力（②分析力・考察力）を身に付け磨いていくことが求められる。これを実現するには、授業時によく聴き想像力をはたらかせて、授業以外で関心や問題意識のある事例や具体例の現状や課題を適切に認識し、その原因を分析したり、構造的な問題を正しく見極めたりすることができるようになることが肝要である。さらに、求められるのが、③応用力（課題や問題の解決力、提案力）が求められる。実際の流通ビジネスの現場を想定した課題や問題が授業後の課題として提示され、それに対する自身の課題・問題に対する改善、解決のための具体的な提案を示せるかどうかがこの能力といえる。さらに、企業で働いていれば、④実績・成果（結果）が求められる、ということになるが、大学での授業では①、②、③の能力の身に付けて発揮できる状況になることが到達目標となる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
① 学習した内容の理解度（40%）	学習した内容について十分に理解した上で、それを応用できる	学習した内容について概ね理解できている	学習した内容の知識や枠組みの基本的事項について、理解ができている	学習した内容の基本的知識や枠組みが断片的な側面のみ理解できている	学習した内容の理解が十分ではなく、積極的に学習を深める必要がある
② 実際の事例・具体例に対する分析力・考察力（30%）	実際の事例・具体例に対する分析や考察が十分かつ適切である	実際の事例・具体例に対する分析や考察が概ね適切である	実際の事例・具体例に対する分析や考察が部分的には適切であるといえる	実際の事例・具体例に対する分析や考察が適切ではなく、みずから他の例の学習を行う必要がある	実際の事例・具体例に対する分析や考察が不適切であり、事前を再度行い、授業を再度学習する必要がある
③ 問　題・課題への解決力改善のための提案力（30%）	問題・課題に対して適切な認識ができていて、優れた解決・改善のための提案がなされている	問題・課題に対して一定の認識ができていて、概ね妥当な解決・改善のための提案がなされている	問題・課題に対して認識が曖昧で、解決・改善のための提案がなされているが不充分である	問題・課題に対して認識が正しくなく、解決・改善のための提案も適切ではない	問題・課題に対して認識が完全に誤っており、このため解決・改善のための提案も誤ったものとなっている

評価方法

・最終レポートまたは最終筆記試験（40%）、授業時・授業後の課題（40%）、授業への積極的参加（発言など）（20%）
・最終レポートまたは最終筆記試験は、授業の終盤で課される
・授業時又は授業に課題が課され、これを提出することで課題の得点となる

テキスト

テキスト（教科書）は指定しないが、参考書として以下を提示する
・参考書名：『 新・流通と商業（第６版）』
・著者名：鈴木安昭著【東伸一・懸田豊・三村由美子 補訂】
・出版社名：有斐閣
・出版年（ISBN）：2016 年（978-4-641-16467-3）

ベンチャービジネス論

～自ら考え主体となって働くことの意義と大切さを学ぶ～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

起業する・しないに関わらず、将来のビジネス実務において、自ら考え主体となって働くことの意義と大切さを学ぶために、「ベンチャースピリット／アントレプレナーシップ」を『起業家の精神と行動能力』と定義し、担当教員の GMO インターネットグループへの参画で得た実務経験に基づいて、ベンチャービジネスの具体的な事例を取り上げて講義する。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	イントロダクション（ベンチャースピリット／アントレプレナーシップを学ぶことの重要性） ベンチャービジネスの定義／伝統的企業との違い／イノベーションとは？	
第 2 回	(1) 事業機会の発見とアイデア考案	(2) ケーススタディ 萌芽期のベンチャービジネス①
第 3 回	(1) 弱者が圧倒的に勝つための法則	(2) ケーススタディ 萌芽期のベンチャービジネス②
第 4 回	(1) 儲ける仕組み（ビジネスモデル）	(2) ケーススタディ 萌芽期のベンチャービジネス③
第 5 回	(1) 目標を達成するための作戦	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦①
第 6 回	(1) 事業計画の立案（ﾘｰﾝｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ）	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦②
第 7 回	(1) ベンチャーのマーケティング	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦③
第 8 回	(1) チームビルディング	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦④
第 9 回	(1) 事業の成長	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦⑤
第 10 回	(1) お金の調達	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦⑥
第 11 回	(1) 総括 ①：ベンチャースピリット	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦⑦
第 12 回	(1) 総括 ②：ゴールの先にあるもの	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦⑧
第 13 回	ベンチャービジネスの実例を調べる（グループワークによる資料作成） ビジネスモデル／戦略目標と戦術／成長の要因／ベンチャースピリットなど	
第 14 回	ベンチャービジネスの実例を調べる（グループワークによる資料作成） ビジネスモデル／戦略目標と戦術／成長の要因／ベンチャースピリットなど	
第 15 回	ベンチャービジネスの実例を発表する（グループによるプレゼンテーション） ビジネスモデル／戦略目標と戦術／成長の要因／ベンチャースピリットなど	

予習・復習

- 予習：教科書の指定された範囲を必ず講義までに読み、自分の意見をまとめておくこと （他に、授業内で事前準備の指示あり）。
- 復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー） に記入し、次回講義までに必ず提出すること （他に、授業内で提出課題の指示あり）。

※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 授業内容は、前半「(1)講義形式」、後半「(2)指定テーマ及びケーススタディについてのディスカッション（反転授業・アクティブラーニング形式)」とする。
2. 経済や産業の変化、最先端テクノロジーの進化や業界のトレンドを自ら学び、どの事象が自身にとって重要な出来事なのかを考え、将来のキャリアの方向性を見出すこと。
3. ベンチャー（スタートアップ）企業のホームページやニュース記事、起業家の著書などを調べる習慣を身につけること。
4. 受講者の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
5. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡)。
6. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. 自ら考え主体となって働くために（もしくは、起業・事業創造に）必要不可欠なマインドセットとスキルであるベンチャースピリット／アントレプレナーシップを理解する。
2. 「ベンチャービジネスの実例（または、オリジナルのビジネスプラン)」を説明することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
ベンチャースピリット／アントレプレナーシップの理解（40%）	ベンチャースピリット／アントレプレナーシップの理解にとどまらず、事業構想力まで習得できている。	ベンチャースピリット／アントレプレナーシップを理解している。	ベンチャービジネスの特徴を理解している。	ベンチャービジネスの特徴をある程度理解している。	ベンチャースピリット／アントレプレナーシップもベンチャービジネスの特徴も理解していない。
ベンチャービジネスの実例の説明（60%）	特定のベンチャービジネスについて、根拠と論理的な説明に基づき、正確かつ説得力のある結論を導いている。	特定のベンチャービジネスについて、根拠に基づき、論理的な説明がほぼできている。	特定のベンチャービジネスについて、根拠を示して概ね正確に説明しているが、読み手を納得させる書き方や結論となっていない。	特定のベンチャービジネスについて、一部根拠を示しているが、参照したデータや文章の意味を取り違えたり、論理的な説明ができていなかったりする。	特定のベンチャービジネスについて、根拠がまったく示されておらず、情緒的な文章が続き、論理的な説明ができていない。

評価方法

前期定期試験 40%、グループワークによる資料作成とプレゼンテーション 30%、受講態度 30%

テキスト

・教科書名：水道を救え ―AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦―
・著 者 名：加藤 崇
・出版社名：新潮社
・出 版 年（ISBN)：2022 年（978-4-10-610973-7)
※講義で用いた資料は Microsoft Teams の「ベンチャービジネス論」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること)。

秘書実務　～ビジネススキルを身につける～

原　かおり

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

「ハラスメント」という言葉が使われるようになり、職場で起こる問題がニュースになっています。また、リモート業務やAIの導入などで、働き方や職場環境が変化し、これまで以上にコミュニケーション力が必要とされています。

秘書実務では、「秘書」という職種に限定せず、ビジネスマナーや一般的な礼節に関する知識等、社会人に必要な知識を広く講義し、コミュニケーション能力が身につくよう指導します。

授業内で秘書検定問題も扱います。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画の説明　秘書の資質とは
第 2 回	第一印象：身だしなみ・表情・目線・美しい所作
第 3 回	コミュニケーション基礎：伝わる話し方・わかりやすい話し方・上手な聞き方
第 4 回	言葉使いー正しい敬語の使い方：尊敬語・謙譲語・丁寧語・美化語
第 5 回	コミュニケーション応用：ビジネス会話マナー　クッション言葉・ビジネス慣用句 信頼される話し方
第 6 回	一般知識：カタカナ用語・略語・ビジネス用語（労務・会計・法律）
第 7 回	仕事のマナー：社内編（役割と業務内容）
第 8 回	仕事のマナー：社外編（アポイント・訪問時のマナー）
第 9 回	郵便の知識（種類と扱い）・会議の知識（種類と形式、必要な業務）
第10回	電話対応：基本対応・取り次ぎ・クレーム電話の対応・携帯電話のマナー
第11回	ビジネス文書の基本ルール：社内文書・社外文書・文書の取り扱い
第12回	ビジネス文書の基本ルール：社交文書・メール・FAX・お決まりのフレーズ
第13回	ビジネスでの慶事・弔事のマナー
第14回	プレゼンテーション資料の作成・ZOOM面接のチェック項目
第15回	ハラスメントを考える・まとめと振り返り

予習・復習

・予習：予告された内容について、調べ予習をすること。

・復習：講義内で出てきた用語について自身で調べ覚えること。また、日常使えるスキルは即実践すること。
　　講義内で解いた秘書検定の問題を再度自身で解いてみること。

履修上の注意

授業開始後 30 分までの入室は遅刻として受講を認めます。30 分を超えての入室の場合は欠席扱いとします。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。
授業の進行状況によって、講義内容が前後する場合があります。

到 達 目 標

・ビジネス用語を理解し、使えるようになる。
・場面に応じた立ち居振る舞いができるようになる。
・自分の意思や考えをきちんと伝えられるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
用語理解度（30%）	十分に理解した上で、実践で応用できる。	用語を理解し、実践で活用できる。	ヒントがあれば、用語と意味が一致する。	用語は知っているが意味と一致していない。	各用語についての理解ができていない。
相手の立場を理解し行動する（30%）	相手の立場を理解し、期待以上の行動ができる。	相手の立場を理解し、行動することができる。	相手の立場を理解しているが、行動があと一歩及ばない。	相手の立場を理解しているが、行動ができない。	相手の立場を理解できない。
伝達能力（40%）	伝えたい内容をすべて、正確に伝えることができる。	伝えたい内容を伝えることができる。	伝えることはできるが、確認が必要なレベル。	伝えるべき内容に誤解を招く表現がある。	伝えたい事がまとまらない。

評価方法

学期末試験（50%）　授業内課題（30%）　授業態度（20%）

テキスト

指定のテキストはありません。毎授業、ワークシート形式のプリントを配付します。
全講義が終了した時に、各自のオリジナルテキストが完成します。
プリントを入れるファイル（A4 版）を用意してください（初回の講義で説明します）。

コンテンツビジネス論　～日韓エンタメ産業の比較～

黄　仙惠

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

・コンテンツビジネスとは何か、ジャンルごとの特徴について講義する。
・自身の利用・体験に基づくファンの立場として、消費者行動を分析、考察する。
・コンテンツにかかわるビジネス事例と成功条件について理解する。
・グローバル視野を念頭にし、コンテンツ市場の未来について理解する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	（総合）オリエンテーション
第 2 回	（総合）IP ビジネスの展開と特徴
第 3 回	（映像）ワークショップとディスカッション（テーマ：日韓における国際協業）
第 4 回	（音楽）ワークショップとディスカッション（テーマ：K-POP と J-POP の比較）
第 5 回	（ドラマ）「番組」から「商品コンテンツ」への変貌（発表とディスカッション）
第 6 回	（音楽）K-POP にみるグローバル戦略（発表とディスカッション）
第 7 回	（漫画）スマートフォンに適するウェブトゥーンの現状（発表とディスカッション）
第 8 回	（ゲーム）e スポーツの出現と興行ビジネスの実態（発表とディスカッション）
第 9 回	（公演）ライブの強みとデジタルメディアの最先端（発表とディスカッション）
第 10 回	（ニューメディア）メタバース、新たな産業への可能性（発表とディスカッション）
第 11 回	（文化政策）韓流と国家戦略（発表とディスカッション）
第 12 回	（海外展開）クールジャパンと海外展開の支援策（発表とディスカッション）
第 13 回	（SNS）SNS によるファンダム形成（発表とディスカッション）
第 14 回	（プラットフォーム）動画配信サービスとグローバル（発表とディスカッション）
第 15 回	（映画）ストーリーIP、国際共同制作、映画際の役割（グループ発表とディスカッション）

予習・復習

・予習：事前小レポート作成または発表準備

・復習：授業中にグループワークした内容のまとめと事後小レポート作成

履修上の注意

コンテンツビジネスについてのこれから実社会で活動する者にとっての基礎的な教養を身につけられる幅広く総合的な内容となる。DX 時代におけるメディアコンテンツの社会的役割とグローバル視野を念頭にし、コンテンツ市場の未来について理解すること。授業内容は受講学生の習熟度に応じて変更する場合がある。遅刻・私語は成績評価において厳しく対処する。

到 達 目 標

・エンタメコンテンツビジネス業界の実践基礎知識を身につけることができる。
・コンテンツ市場への理解と最新トレンドについて説明がすることができる。
・市場ごとの異なるコンテンツの特徴について説明することができる。
・グローバル展開の必然性について説明することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力（25%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文書で説明する力（レポート）（25%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
参加意欲（20%）	グループ発表やディスカッションに参加し、8回以上発言する。	グループ発表やディスカッションに参加し、6回以上発言する。	グループ発表やディスカッションに参加し、4回以上発言する。	グループ発表やディスカッションに参加し、2回以上発言する。	グループ発表やディスカッションに参加せず、発言しない。

評価方法

・中間レポート：40%
・授業への取り組み・発表：30%
・期末レポート：30%

テキスト

教科書とともに適宜スライドを使用し，学生の視覚的理解の向上を狙っている。スライド資料は毎回配布する。
・教科書名：韓国コンテンツのグローバル戦略　韓流ドラマ・K-POP・ウェブトゥーンの未来地図
・著 者 名：黄仙惠
・出版社名：星海社
・出 版 年（ISBN）：2023 年（9784065309490）

サービスビジネス論　～商品とは異なるサービスの魅力と特質を知る～

平野　英一

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

経済のサービス化が進展し、多くの企業はサービスの生産と販売を手掛けるようになり、一般の消費者の約60～70%の消費支出の対象がサービスとなっている。本授業ではサービスの概念、分類、特性などについて学習し、そのビジネスの特質について学習する。近年サービスに関する研究が進み、多様な知見の集積と体系化が図られてきた。特に、サービスに関してはサービスマーケティングという研究分野での研究が積み上げられ、一定の学問知識体系が構築されてきた。本講義では、サービスマーケティングの観点から、サービスのビジネスとは、モノ（製品）を基軸におく従来のビジネスとは何がどのように異なるのか、考察を行う。サービスに関する眼を養い、批評し分析する力を身につける。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	1.サービスの範囲と概念: イントロダクションとして
第 2 回	2.サービスの分類とサービス・エンカウンター
第 3 回	3.プロダクト（製品）vs. サービス: プロダクトとサービスの違いは何か
第 4 回	4.サービスビジネス事例・業界研究①「日本航空（JAL)」(エアラインビジネス)
第 5 回	5.サービスを捉えるフレームワーク①: 劇場アプローチとサーバクション・システム
第 6 回	6.サービスを捉えるフレームワーク②: 7Ps（サービスマーケティングの 7Ps)
第 7 回	7.サービスをめぐる設備環境のデザインと有形化戦略
第 8 回	8.サービスビジネス事例・業界研究②「ホテル業界」＊動画視聴予定
第 9 回	9. プロダクト（製品）としてのサービスの製品戦略とその品質管理
第 10 回	10. サービスの価格設定
第 11 回	11. サービスビジネス事例・業界研究③「USJ（ユニバーサル・スタディオ・ジャパン)」(テーマパーク業界）＊動画視聴予定
第 12 回	12. サービスのプロモーションと流通
第 13 回	13. サービスビジネス事例・業界研究④「JR 東日本」(鉄道ビジネス)
第 14 回	14. サービス・ドミナント・ロジックの論理と枠組み: プロダクト・ドミナント・ロジック vs. サービス・ドミナント・ロジック
第 15 回	15. サービスマーケティングの新動向とサービスマーケティング研究の今後の行方

予習・復習

・予習：指定参考書をはじめ、事前に提示される資料を読み込み、これらについての理解を深め、不明な点や自身の問題意識をまとめ、その上で授業にのぞむことが予習として必要である。
・復習：授業で不明な点や問題意識に対する認識が明確となり、知識をえることになるが、そこから応用として、学習した理論や枠組みが、自身に身近な企業でどのように適合しまた異なる事項は何かなどを整理することが求められることと、授業で説明した以外の別企業の事例を分析することや問題解決の提案をまとめてもらうことが求められる

履修上の注意

・当該授業では、予習（テキストの事前に読んでおくこと)、そして授業後の課題があるのでこれらを毎回こなしていくことが求められる
・少人数の授業であれば、グループでの議論などの時間をとり、議論内容について授業最後に発表してもらうことを予定している
・休まず授業に出席し、毎回の課題などをこなしていくことが求められる

到 達 目 標

昨今注目が高まるサービスのビジネスは従来のプロダクト（製品、モノ）を基軸とするビジネスと比べ、複雑で高度な理論体系が構築されている。これら高度で複雑な知見を身につけ、サービスビジネスに関わる現象を分析できる能力を身につけることが本授業の目的である。また、現実のサービスに係るビジネス現象を正しく把握し、問題や課題の発見、そうした事項の原因の解明、そして解決策の提案などの実践的な能力を発揮することが受講者達の到達目標である。そして、極力サービスビジネスのコンサルタントとしての基本的な能力を涵養することが最終的なねらいといえる。

サービスの概念は複雑で広範に及ぶものであるが、今日多くの企業が扱うのが”サービス“であり、製品を扱う企業であっても何らかのかたちでサービスを理解しておくことが重要といえる。例えば、モノをつくっているメーカーであっても、保証やアフターサービスのため、また顧客からの声を聴くためにサービス事業を行っているのである。何より、大学の教育は重要かつ高額なサービス商品である。サービスの生産者・提供者という立場だけではなく、サービスの受益者・利用者として、サービスビジネスの知見を身につけ、それに関する観察眼を養うことは大いに役立つものと思われる。

このことを段階的に分解して理解すると、まず学習内容の理解（①学習内容の理解）が重要となる。理解するためには、事前に資料・参考書・WEB 上の正しく適切な情報などを授業前に読み込み、不明な点は自ら調べ、それでもわからない点や問題意識を持って授業にのぞみ、そして授業での完璧な理解を得ることがまず重要となる。続いて、理解をもって得た知識、知見を活用して、実際の事例や具体例を分析し考察できる能力（②分析力・考察力）を身に付け磨いていくことが求められる。これを実現するには、授業時によく聴き想像力をはたらかせて、授業以外で関心や問題意識のある事例や具体例の現状や課題を適切に認識し、その原因を分析したり、構造的な問題を正しく見極めたりすることができるようになることが肝要である。さらに、求められるのが、③応用力（課題や問題の解決力、提案力）が求められる。実際の流通ビジネスの現場を想定した課題や問題が授業後の課題として提示され、それに対する自身の課題・問題に対する改善、解決のための具体的な提案を示せるかどうかがこの能力といえる。さらに、企業で働いていれば、④実績・成果（結果）が求められる、ということになるが、大学での授業では①、②，③の能力の身に付けて発揮できる状況になることが到達目標となる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
① 学習した内容の理解度（40%）	学習した内容について十分に理解した上で、それを応用できる	学習した内容について概ね理解できている	学習した内容の知識や枠組みの基本的事項について、理解ができている	学習した内容の基本的知識や枠組みが断片的な側面のみ理解できている	学習した内容の理解が十分ではなく、積極的に学習を深める必要がある
② 実際の事例・具体例に対する分析力・考察力（30%）	実際の事例・具体例に対する分析や考察が十分かつ適切である	実際の事例・具体例に対する分析や考察が概ね適切である	実際の事例・具体例に対する分析や考察が部分的には適切であるといえる	実際の事例・具体例に対する分析や考察が適切ではなく、みずから他の例の学習を行う必要がある	実際の事例・具体例に対する分析や考察が不適切であり、事前を再度行い、授業を再度学習する必要がある
③ 問　題・課題への解決力改善のための提案力（30%）	問題・課題に対して適切な認識ができていて、優れた解決・改善のための提案がなされている	問題・課題に対して一定の認識ができていて、概ね妥当な解決・改善のための提案がなされている	問題・課題に対して認識が曖昧で、解決・改善のための提案がなされているが不充分である	問題・課題に対して認識が正しくなく、解決・改善のための提案も適切ではない	問題・課題に対して認識が完全に誤っており、このため解決・改善のための提案も誤ったものとなっている

評価方法

・最終レポートまたは最終筆記試験（40%）、授業時・授業後の課題（40%）、授業への積極的参加（発言・質問に対する解答など）（20%）
・最終レポートまたは最終筆記試験は、授業の終盤で課される
・授業時又は授業に課題が課され、これを提出することで課題の得点となる

テキスト

テキスト（教科書）は指定しないが、参考書として以下を提示する
・参考書名：『サービスマーケティング入門』
・著者名：山本昭二
・出版社名：日本経済新聞社（日経文庫）
・出 版 年（ISBN）：2007 年（9784532111342）

国際経営論　～国際的な企業戦略、国際展開の仕組みを知る～

藤野　洋

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

世界はグローバルな規模で大きく変化しています。グローバリゼーション、情報化、ネットワーク化などの言葉に代表されるように国家や企業にとって従来とは違う状況が作り出され、国や企業を取り巻く環境は大きく変貌を遂げています。これを踏まえて、海外進出企業について深く学びます。日本企業の海外展開、多国籍企業、国際経営戦略、国際マーケティング、国際経営マネジメント、新興市場など国際経営に関する内容を学びます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション:国際経営論の内容
第 2 回	国際経営戦略
第 3 回	国際マーケティング
第 4 回	海外生産
第 5 回	技術移転と海外研究開発
第 6 回	国際経営マネジメント①
第 7 回	国際経営マネジメント②
第 8 回	後半（1～7回）のまとめとレポート作成
第 9 回	北米・欧州の中の日本企業
第 10 回	アジアの中の日本企業
第 11 回	新興国市場と日本企業
第 12 回	サービス企業の海外進出
第 13 回	国際経営の新展開
第 14 回	分断の国際経営
第 15 回	後半（9～14回）のまとめとレポート作成

予習・復習

・予習：事前に配布する講義資料の該当箇所を授業の前に必ず読んでおくこと

・復習：授業での教員の発言も含め、どのような内容であったかを思い起こし講義資料を利用して確認する

履修上の注意

・この科目は経営学総論、経営学、経営管理論、経済学などと多様なつながりがあるので、関連科目を履修していることが望ましい。
・始業時刻には着席しておくこと。遅刻は 15 分以内の場合に認めます（15 分超の遅刻は欠席として扱います)。ただし、公共交通機関の遅延等で挙証資料の提出が可能、かつ大学が把握している事情がある場合には救済措置を検討します。

到 達 目 標

(1)海外進出企業の実態や課題について理解し、特徴について説明できる。
(2)より専門的な知識を深め、企業の国際展開について分類して論ずることができる。
(3)個々の国際企業を国際的な企業戦略の視点から見る眼を養う。国際展開の仕組みや経営を考える力を養い、マーケットと経営の関連性についての意識を高めながら、常に競争状況、社会的背景、戦略の三つの視点から企業を観察し表現することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（60%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	理解はしているが授業内容について理解が多少不足している	授業内容を最低限理解している	授業内容についての理解ができていない
課題を文章で説明する力（レポート）（40%）	他人を説得する内容が記述できること	論理構成が整った説明文を記述することができる	不足する点があるが、説明文を書くことができる	最低限の内容について説明ができる	内容についての説明ができない

評価方法

１．第 8 回・第 15 回以外の回に課すレポート 40%（授業の内容に基づき出題する）
２．第 8 回と第 15 回のレポート 60%（第 8 回（前半のまとめ)、第 15 回（後半のまとめ）の授業の後に実施し、終了時間内に回収します）

テキスト

テキストは使用しません。
参考書は、吉原英樹著『国際経営　第 5 版』有斐閣 2021 年です。

インターネットビジネス
～ビジネス教養としての情報リテラシー～

劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

インターネットビジネスとは、インターネットを活用して商品やサービスを提供し、取引やコミュニケーションを行うビジネスである。本授業では、インターネットビジネスに関するキーワードや主要な理論を考察し、実際の企業事例を取り上げながら、その現状、特徴、および課題についての理解を深めることを目指して講義する。授業で得た専門知識を応用することで、自らの視野を広げ、新たな可能性を探求することを期待する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の狙い、全体像、進め方、評価方法および受講上の注意点
第 2 回	コンピュータとハードウェア
第 3 回	コンピュータとソフトウェア
第 4 回	ネットワークとインターネット
第 5 回	コンピュータシステム
第 6 回	デジタル情報とプログラム、アルゴリズム
第 7 回	情報資産と情報セキュリティ
第 8 回	中間まとめ（前半までの授業内容の振り返り、復習問題・解説）
第 9 回	IT と企業活動・ビジネス戦略
第 10 回	IT と企業法務・財務
第 11 回	IT とマーケティング
第 12 回	ビッグデータとデータサイエンス
第 13 回	情報マネジメントとシステム企画
第 14 回	情報デザインとシステム開発
第 15 回	期末まとめ（後半の授業内容の振り返り、復習問題・解説）

予習・復習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計 6 回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・インターネットビジネスの基礎知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・インターネットビジネスの知識を応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

・平常点：７０%（授業内リアクションペーパーの提出をもって総合評価する）
・期末試験：３０%（配付資料やノート等は持込可）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

簿記Ⅲ　～簿記の応用を学ぶ～	稲場　建吾

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	4	選択	専門科目　選択

授業概要

簿記Ⅰ・Ⅱでは、商業の小企業で必要とされる簿記上の入門的、基礎的な知識および技術を修得しました。簿記Ⅲでは、簿記Ⅰ・Ⅱよりは高度な、商業の中企業で必要とされる簿記上の知識および技術を講義します。

授業計画

授業回	授業内容	授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス	第 16 回	中間試験
第 2 回	簿記Ⅰ・Ⅱ(3級レベル)の復習(1)	第 17 回	株式会社の純資産(1)
第 3 回	簿記Ⅰ・Ⅱ(3級レベル)の復習(2)	第 18 回	株式会社の純資産(2)
第 4 回	現金預金(1)	第 19 回	株式会社の純資産(3)
第 5 回	現金預金(2)	第 20 回	リース会計
第 6 回	有価証券(1)	第 21 回	外貨取引
第 7 回	有価証券(2)	第 22 回	税効果会計
第 8 回	手形	第 23 回	決算(1)
第 9 回	その他の債権債務	第 24 回	決算(2)
第 10 回	一般商品販売(1)	第 25 回	本支店会計(1)
第 11 回	一般商品販売(2)	第 26 回	本支店会計(2)
第 12 回	固定資産(1)	第 27 回	連結会計(1)
第 13 回	固定資産(2)	第 28 回	連結会計(2)
第 14 回	引当金(1)	第 29 回	連結会計(3)
第 15 回	引当金(2)	第 30 回	まとめ

予習・復習

・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。

・復習：授業中に解いた問題を活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

1. 「簿記ⅠおよびⅡ」の単位取得者、または、日商簿記検定3級もしくは全商簿記2級商業簿記程度の学習をすでに終えている人が対象です。
2. 毎回電卓を持参してきてください。
3. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。

到 達 目 標

①やや高度な個別処理が理解できる。②決算が理解できる。③本支店会計が理解できる。
本講受講後に、全経簿記2級商業簿記には合格してもらいたいとおもいます。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などからうかがえる。	強く興味を持っている様子が質問内容などからうかがえる。	興味を持っている様子が受講態度などからうかがえる。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などからうかがえる。	興味を全くもっていない様子が受講態度などからうかがえる。

評価方法

試験の成績 70%（内訳：基礎力 40%＋発展力 30%）、受講姿勢(毎回の質問・感想コメントが主)30%

テキスト

・教科書名：『新検定簿記講義　2級商業簿記』
・著 者 名：渡部裕亘・片山　覚・北村敬子編著
・出版社名 ：中央経済社
・出 版 年（ISBN）：2025年

経営分析論　～ビジネス即戦力として「経営分析」入門～

劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

経営分析とは、企業が公開している決算書などの情報からその経営状態を分析評価することである。本授業では、就活生と投資家の視点から経営分析に関する主要なキーワード、理論、および実践スキルを考察し、実際の企業事例を取り上げながら、その実態や課題についての理解を深めることを目指して講義する。授業で得た専門知識を応用することで、自らの視野を広げ、新たな可能性を探求することを期待する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の狙い、全体像、進め方、評価方法および受講上の注意点
第 2 回	会社の健康診断とは？就活生・投資家視点の経営分析と会社情報の活用法
第 3 回	就活生からみた会社の魅力（1）会社の経営成績と従業員の平均年収との関係
第 4 回	就活生からみた会社の魅力（2）会社は成長しているか？売上と利益と従業員数の伸び率
第 5 回	就活生からみた会社の魅力（3）会社はもうかっているか？売上高当期純利益率
第 6 回	就活生からみた会社の魅力（4）会社は安泰か？自己資本比率
第 7 回	就活生からみた会社の魅力（5）会社の未来は明るいか？キャッシュフローのパターン
第 8 回	中間まとめ（前半までの授業内容の振り返り、復習問題・解説）
第 9 回	投資家からみた会社の魅力（1）会社の経営は効率的か？総資産回転率
第 10 回	投資家からみた会社の魅力（2）会社の経営を総合的に判断してみる：ROA（総資産利益率）
第 11 回	投資家からみた会社の魅力（3）ROE（自己資本利益率）とその分解
第 12 回	投資家からみた会社の魅力（4）BPS（1株あたりの純資産）と PBR（株価純資産倍率）
第 13 回	投資家からみた会社の魅力（5）EPS（1株あたりの純利益）と PER（株価収益率）
第 14 回	投資家からみた会社の魅力（6）配当性向と配当利回り
第 15 回	期末まとめ（後半の授業内容の振り返り、期末課題の提出）

予習・復習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計６回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・経営分析論の基礎知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・経営分析論の知識を応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

①受講姿勢：７０%（授業内小課題またはリアクションペーパーの提出）
②期末課題：３０%（第 15 回授業内で作成・提出）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

民法　～人生の必修科目～

三重野雄太郎

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

民法とは、私たち一般市民の間の関係について定めた法律である。

法律というと、皆さんには「難しい」、「お堅い」などと思われるであろう。しかし、コンビニでお茶を買うのも、大学に来るのに電車やバスに乗るのも「契約」という法律に定められた行為に基づくものである。また、婚姻（結婚）も法律に定められた行為である。これらは、全て民法に規定されている。そうすると、民法というのは実は私たちにとって非常に身近なもので、生きていくうえで否が応でも関わらざるを得ない法律だということが分かって頂けるだろう。

また、皆さんには、法律は、私たちを縛るルールであると思われるかもしれない。確かにそういった側面があることは否めないが、一方で、法律は私たちを守ってくれるものでもある。交通事故に遭った場合に被害弁償をしてもらう、配偶者に浮気されたので離婚してもらうなどといったような場合に民法の知識があれば、泣き寝入りしなくて済むであろう。

本講義では、私たちの生活に直接関わりうる事柄を中心に取り上げながら、民法の基本を学んでもらう。民法を学ぶことで、皆さんが一市民として幸せに生きていくためにも必要な知識・素養が得られるであろう。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	契約とは？①
第 3 回	契約とは？②
第 4 回	債務不履行①
第 5 回	債務不履行②
第 6 回	意思表示①
第 7 回	意思表示②
第 8 回	意思表示③
第 9 回	消費生活と法
第 10 回	物権
第 11 回	担保物権
第 12 回	不法行為①
第 13 回	不法行為②
第 14 回	家族関係
第 15 回	相続・遺言

予習・復習

・予習：教科書の該当箇所を精読し、毎回指示する予習課題に取り組む。疑問点を書き出しておく。
・復習：教科書の該当箇所と配布資料を再確認し、理解できた点、できなかった点をまとめる。

履修上の注意

①大学生として、大人としての自覚をもって振る舞うこと。
②当然ながら、他の受講生や担当教員の迷惑となる行動は厳に慎むこと
③欠席すること自体は、やむを得ないが、欠席した分のフォローは自分で行うこと。友達にノートをコピーさせてもらうなど方法はいろいろある。課題の告知なども休んでいたので知りませんでしたなどという言い訳はスルーする。また、一度配布した資料等は、再配布はしない。欠席してもらっていない、紛失してしまったなどといった場合は、友達にコピーさせてもらうなど自身で対応すること。
④自身に関わる事柄として、当事者意識を持って学ぶこと。
⑤授業は基本的に講義形式で行うが、発問して答えてもらったり、グループワークをしてもらったり、みんなでディスカッションをしたりなどの活動を取り入れることもある。（単にその場に居るという「出席」ではなく）授業に積極的に「参加」して欲しい。
⑥授業中にミニレポートを課す予定である。成績評価にも関わるので真剣に取り組まれたい。
⑦本授業を履修して下さる場合、本シラバスの内容について熟知・了承頂けているという前提で教員は対応する。
⑧教科書・参考書を自身の判断で用意しないのは自由であるが、みんな用意している前提で授業運営・課題について対応がなされる。
⑨本シラバスの記載事項については、受講人数その他の事情により変更することがありうる。

到 達 目 標

①現代社会における様々な法的問題や私たちの日常生活に直接関わる法的事象について、関心を持ち、自身に関わる事柄として考えることができる。
②具体的な法的事例を切り口にして法律学を学び、各事例に関わる条文、判例、概念などを理解するとともに、それらを活用して具体的事例について妥当な解決策を導き出すことができる。
③自身の考えを根拠をもって論理的かつ的確に表現できる
④立場の異なる人の考えに耳を傾け、理解しようと努める態度を養う。
⑤他者と議論して問題に対する妥当な結論を見出すことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容をひととおり理解しているが、多少不足がある。	授業内容について最低限の理解はしている。	授業内容について理解できていない。
論理的思考力・表現力（30%）	他人を納得させられるくらいに説得力ある論理的な文章が書ける。	根拠を挙げて、論理的な文章が書ける。	論理性・説得性に不足があるが、根拠を示しながら文章を書ける。	最低限の内容を示す文章が書ける。	課題で問われている内容に即した文章を書けていない。

評価方法

期末レポート　　70%
授業内課題など提出物　　30%

テキスト

・教科書名：ストーリーから学ぶ民法ナビ
・著者名：出雲孝ほか
・出版社名：みらい
・出版年：2021 年
・ISBN：978-4-86015-540-7
※参考書
・参考書名：概説　生命倫理学
・著者名：三重野雄太郎ほか
・出版社名：大学教育出版
・出版年：2025 年（3 月末公刊予定）
・ISBN：978-4-86692-339-0

原価計算　～真実の原価は算定できるのか？～

稲場　建吾

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

原価計算はおもに、(1) 企業外部の利害関係者に有用な会計情報を作成するため、もしくは (2) 企業内部の経営管理者に有用な会計情報を作成するために利用されています。この科目ではとくに、前者の目的に対して原価計算がどのように利用されているかを理解できることを目標に、原価計算の仕組みを講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	原価計算の基礎(1)
第 3 回	原価計算の基礎(2)
第 4 回	材料費の計算(1)
第 5 回	材料費の計算(2)
第 6 回	労務費の計算
第 7 回	経費の計算
第 8 回	製造間接費の計算
第 9 回	個別原価計算(1)
第 10 回	個別原価計算(2)
第 11 回	個別原価計算(3)
第 12 回	総合原価計算(1)
第 13 回	総合原価計算(2)
第 14 回	総合原価計算(3)
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。

・復習：授業中に解いた問題を活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

1. 毎回電卓を持参してきてください。
2. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。

到 達 目 標

①原価計算の意義、目的などの基礎知識が理解できる。②費目別計算、部門別計算、製品別計算という原価計算の基本的手続きが理解できる。③個別原価計算、総合原価計算などの計算ができる。
本講受講後に、少なくとも全経簿記 2 級工業簿に合格してもらいたいとおもいます。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などからうかがえる。	強く興味を持っている様子が質問内容などからうかがえる。	興味を持っている様子が受講態度などからうかがえる。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などからうかがえる。	興味を全くもっていない様子が受講態度などからうかがえる。

評価方法

試験の成績 70%（内訳：基礎力 40%＋発展力 30%）、受講姿勢(毎回の質問・感想コメントが主)30%

テキスト

・教科書名：『新検定簿記講義　2 級工業簿記』
・著者名：岡本　清、廣本敏郎編著
・出版社名：中央経済社
・出 版 年（ISBN）：2025 年

金融論　～資金の貸借の仕組みと資産運用の方法を学ぶ～	藤井喜一郎

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

教科書に沿って、お金を稼ぐ・使う・貯める・借りる・増やすなどのお金の知識を学ぶ。金融システムの理解を通じて、銀行や証券会社が何をやっているのか、金融市場においてどのような取引が行われているのか、などについて学んでいく。株式ゲームを学び、株式や投資信託での資産運用の方法も身に着ける。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション・全体の概要と目的を述べるとともに、授業内容について講義する。
第 2 回	金融とはどういうことかについて講義する。
第 3 回	金融業務の主な内容について講義する。
第 4 回	各種の金融機関について講義する。
第 5 回	金融市場と金利について講義する。
第 6 回	株式投資ゲームについて講義する。
第 7 回	企業金融と個人向け金融について講義する。
第 8 回	決済システムについて講義する。
第 9 回	金融のデジタル化とフィンテックについて講義する。
第 10 回	仮想通貨とブロックチェーンについて講義する。
第 11 回	新たな金融手法ーデリバティブと証券化について講義する。
第 12 回	金融政策とプルーデンス政策について講義する。
第 13 回	国際収支の仕組みと動向について講義する。
第 14 回	外国為替市場と外国為替相場について講義する。
第 15 回	国際金融と国際通貨について講義する。

予習・復習

・予習：金利と為替レート、日経平均株価など金融に関するニュース等をまとめておくこと。

・復習：教科書の専門用語を読めるように努め、講義資料などを復習しておくこと。

履修上の注意

特に個人金融知識に関心を持って、講義を受けていただきたい。
・資料は教室で配布する。
・受講中の飲食、雑談は禁止する。
・受講中の PC、スマホ、携帯の利用は原則禁止する。
・20 分以上の遅刻は欠席扱いとする。

到 達 目 標

授業では、最新の教科書を用いて、資金貸し借りの基本原理を学んでいく。特にお金を介した生活スキル・金融リテラシーの知識を身に着けることを目標としている。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
課題解法能力（20%）	金融リテラシーを理解し、お金を介した生活スキルを身に付けている	金融の仕組みを十分に理解している	資金調達者と運用者についての理解にはやや努力を要する	資金調達手法など従業内容の理解にはかなり努力を要する	金融の仕組みについて理解できていない
解法を文書で説明する力・レポート（ 20%）	個人の資金運用者、または資金調達者としての稼ぐ・使う・貯める・借りる・増やすなどの金融リテラシーについてアドバイスもできる	個人と法人の資金運用者、または資金調達について十分理解し、問題解法もできる	特に金融リテラシーについての課題解法能力はやや不足している	資金調達と運用面の課題の解法にはかなりの努力が必要である	金融ビジネスの課題解法はできていない
統計的分析能力（10%）	個人金融と企業金融について論文まで書ける	金融の実務について他人を説得する内容が記述することができる	論理が通った金融課題説明文を記述することができる	ケースについて説明不足があるが、説明文を書くことができる	ケースについて説明文を書くことができない
歴史的知識（10%）	個人と法人におけるお金を稼ぐ・使う・貯める・借りる・増やすなどについて統計的分析に優れている	特に個人におけるお金を稼ぐ・使う・貯める・借りる・増やすなどについて統計的分析が良くできている	金融資産価格の推移についての統計的な分析にやや努力を要する	金融資産価格の推移についての統計的な分析にかなり努力を要する	金融資産価格の推移についての統計的な分析ができていない

評価方法

期末レポート提出 70%、理解度テスト（授業内 1 回・教科書持ち込み可）20%、受講態度 10%。

テキスト

・教科書名：『金融読本(第 32 版)』
・著 者 名：島村高嘉/中島真志
・出版社名：東洋経済新報社 /出 版 年（ISBN）：2023 年（4492100385）

会社法　～会社のしくみ～

三重野雄太郎

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

この授業では、企業の仕組みや運営について定めたルールである、会社法について講義する。会社法は、(広義の）商法の一部であり、商法は、商売をする人々の間での法律関係について定めた法律である。一般に、取引については、民法で規定されているが、商売人同士の取引の場合には、民法ではなく、商法が適用される。商法は、商売をする人々が円滑に商売活動をできるようにするための法律である。いわば、商法は、商売をする人々が効率よく利益を上げられるように合理性を追求している。しかしながら、当然のことであるが、利益を上げるためなら何をしても良いというわけにはいかないだろう。いくら企業が利益を上げて日本経済が活性化したとしても、不正な企業活動によって社会に害を与えることがあってはならない。そこで、商法は、商売活動の合理化を目指す一方で、商売活動が公正に行われるよう、その適正化も目指している。この両者のバランスの取れた法規制というのが商法にとっての永遠の課題であろう。　多くの皆さんは、将来、企業に就職するであろう。自身が勤める企業がどのような仕組みで動いているのかは、企業人として当然知っていなければならない。また、上述のように、商法においては、商売活動の合理化（効率）と適正化（公正）のバランスを取ることが必要である。こうした視点を持って商法を学ぶことは、自社の利益を守ることと公正な企業活動とをいかに両立させていくかという、企業人にとっての重要問題に直面した時のためにも有益であろう。

多くの皆さんは、企業に就職することになろう。自身が勤める会社がどのような仕組みで動いているのかを知っておくべきであることは言うまでもない。また、将来、株主として株を所有したりなどする人もいるだろう。自身に直接的に関わる問題として、当事者意識を持って学んでもらいたい。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	会社の意義と種類
第 3 回	株式会社の仕組み
第 4 回	株式会社の設立
第 5 回	株式の意義
第 6 回	株式譲渡
第 7 回	株主総会①
第 8 回	株主総会②
第 9 回	取締役
第 10 回	取締役会
第 11 回	代表取締役・監査役
第 12 回	社債
第 13 回	組織再編
第 14 回	解散・清算
第 15 回	株式会社の仕組みの全体像の再確認と会社をめぐる今後の諸問題

予習・復習

予習：教科書の該当箇所を精読し、毎回指示する予習課題に取り組む。疑問点を書き出しておく。
復習：教科書の該当箇所と配布資料を再確認し、理解できた点、できなかった点をまとめる。

履修上の注意

①大学生として、大人としての自覚をもって振る舞うこと。
②当然ながら、他の受講生や担当教員の迷惑となる行動は厳に慎むこと
③欠席すること自体は、やむを得ないが、欠席した分のフォローは自分で行うこと。友達にノートをコピーさせてもらうなど方法はいろいろある。課題の告知なども休んでいたので知りませんでしたなどという言い訳はスルーする。また、一度配布した資料等は、再配布はしない。欠席してもらっていない、紛失してしまったなどといった場合は、友達にコピーさせてもらうなど自身で対応すること。
④自身に関わる事柄として、当事者意識を持って学ぶこと。
⑤授業は基本的に講義形式で行うが、発問して答えてもらったり、グループワークをしてもらったり、みんなでディスカッションをしたりなどの活動を取り入れることもある。（単にその場に居るという「出席」ではなく）授業に積極的に「参加」して欲しい。
⑥授業中にミニレポートを課す予定である。成績評価にも関わるので真剣に取り組まれたい。
⑦本授業を履修して下さる場合、本シラバスの内容について熟知・了承頂けているという前提で教員は対応する。
⑧教科書・参考書を自身の判断で用意しないのは自由であるが、みんな用意している前提で授業運営・課題について対応がなされる。
⑨本シラバスの記載事項については、受講人数その他の事情により変更することがありうる。

到 達 目 標

①商売活動の効率性と公正性のバランスの取れた社会とはいかにあるかという問題について当事者意識を持ち、そうした社会の実現に向けて主体的かつ積極的に考え、行動することができる。
②企業がどのような仕組みで動いているのか説明できる。
③自身の考えを根拠をもって論理的かつ的確に表現できる。
④立場の異なる人の考えに耳を傾け、理解しようと努める態度を養う。
⑤他者と議論して問題に対する妥当な結論を見出すことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容をひととおり理解しているが、多少不足がある。	授業内容について最低限の理解はしている。	授業内容について理解できていない。
論理的思考力・表現力（30%）	他人を納得させられるくらいに説得力ある論理的な文章が書ける。	根拠を挙げて、論理的な文章が書ける。	論理性・説得性に不足があるが、根拠を示しながら文章を書ける。	最低限の内容を示す文章が書ける。	課題で問われている内容に即した文章を書けていない。

評価方法

期末レポート　70%
授業内課題など提出物　30%

テキスト

・教科書名：『基礎から学ぶ商法』
・著 者 名：小柿徳武ほか
・出版社名：有斐閣
・出 版 年（ISBN）：2022 年（978-4641138674）

心理学　～心のはたらきを理解する～	伊澤　利文

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

この授業では、まず人間の「心」についての基礎を学んでゆきます。生物としての人間という視点から心理学の基礎的な知識を習得します。次に、他の動物にはみられない人間心理の特徴的な部分についての学習に進みます。そして最終的に、みなさん自身を含めた「人間」という存在の理解を目指します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス、および心理学の歴史　－心への関心はいつ生まれたのか？－
第 2 回	「心」はどこにあるのか？　－脳の構造と人間心理との関係－
第 3 回	知覚　－感覚を使った世界とのつながり方を知る－
第 4 回	学習　－新しいことが「出来るようになる」メカニズムについて－
第 5 回	記憶　－新しいことを「覚える（覚えておく）」メカニズムについて－
第 6 回	感情　－自分の周りの世界を「彩る」メカニズムと人間の生活について－
第 7 回	感情　－自分の周りの世界を「彩る」メカニズムと人間の生活について－
第 8 回	ストレス　－さまざまなストレスと心身への影響について－
第 9 回	発達　－人間が「成長する」メカニズムについて－
第 10 回	言語　－人間が「会話」し「理解する」仕組みについて－
第 11 回	思考　－人間が手に入れた「考える」メカニズムについて－
第 12 回	意識　－「意識がある」とは心理学的にどのような状態なのか？－
第 13 回	パーソナリティ　－性格を科学的に理解することの意味－
第 14 回	社会心理　－社会生活における「情報処理」と「他者」の役割について－
第 15 回	睡眠と夢　－人間の「眠り」と「夢」のメカニズムについて？－

予習・復習

・予習：各回の授業テーマに関連する予備知識をつけておくことが望ましい（ネットなどで）。

・復習：スマホなどで撮影した画像から、授業ノートを分かりやすく清書することが望ましい。

履修上の注意

授業には積極的な態度で望み、心と身体の基本的なメカニズムを理解するよう努めること。欠席した分だけ、得られる情報量が少なくなることを意識してください。そのため、この授業では「遅刻 2 回で欠席 1 回」の扱いとしますので注意するように。

到 達 目 標

・科学的な視点から心理学の基礎を学ぶ。
・科学的な視点から世界を眺め、必要な場合には状況を分析して対処できるようになる。
・この授業で得られた心理学の知識を、今後の生活で活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（４０%）	-	授業内容をほぼ理解できている。	授業内容の理解が多少不足している。	授業内容を大まかにではあるが理解している。	出席不足などから授業内容を理解していない。
関心度（３５%）	授業内容を越えた領域まで興味を示している。	授業に大きな関心を持って望んでいる。	授業内容への好奇心が多少不足している。	授業内容への関心があまり持てていない。	授業内容にほぼ関心がなく出席しているだけである。
発信力（２５%）	自分の疑問点を分かり易く簡略に質問できる。	教員からの質問に対して自分の考えを口頭で表現できる。	教員からの質問に対して自分の意見を発信できる（挙手）。	教員からの質問に対して自分の意見を発信できない。	-

評価方法

定期テスト　：　７０%
発表　：　２０%
受講態度　：　１０%

テキスト

使用しません。資料が必要な場合に、適宜プリントを配布します　。

医療ビジネス論　～成長と進化を続ける医療ビジネス～

一戸　真子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

様々なテクノロジーの恩恵や研究成果を受けて、医療ビジネスは現在急速に成長と進化を遂げている領域となった。近未来には国内外における最大マーケットになることも期待されている。医療ビジネスの特徴や諸課題について理解を深め、今後どのような展開をしていくかについても含め講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	医学史からみた医療－医療はビジネスなのか？
第 2 回	医療ビジネスの特徴と範囲
第 3 回	医療ビジネスにおける人的資源の重要性と人件費
第 4 回	医療ビジネスにおける材料費、薬剤費、医療関連サービス等の重要性
第 5 回	医療ビジネスが抱える諸問題
第 6 回	開設主体による病院経営の特徴と違い
第 7 回	ブランド病院
第 8 回	異業種参入
第 9 回	医療費増大とセルフケアの重要性
第 10 回	遠隔医療の発展
第 11 回	AI ホスピタル
第 12 回	先端医療とビジネス
第 13 回	未病ビジネス
第 14 回	未来の医療ビジネス
第 15 回	命を扱うビジネスに重要な視点－倫理、教育・研修、安全、質

予習・復習

・予習：次回の単元についての教科書部分の予習を 1 時間程度毎回行うこと。

・復習：授業での実施内容について、1 時間程度の振り返りのための復習を毎回行うこと。

履修上の注意

遅刻（20 分まで）3 回で欠席 1 回とする。

到 達 目 標

1. 医療ビジネスの扱う領域について理解できる。
2. 医療ビジネスの特徴について説明できる。
3. 医療を取り巻く急速な変化とニーズについて理解できる。
4. 医療ビジネスの課題と問題点について説明できる。
5. 未来の医療ビジネスの方向性について創造できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度 （ 50 %）	深い理解に基づき自身の言葉で置き換えて表現きる。	ほぼ 100%理解している。	理解はしているが、十分ではない。	あまり理解していない。	理解できていない。
説明する力 （ 30 %）	具体的な例も取り上げ、きちんと説明できる。	ほぼ 100%説明することができる。	説明はできるが、内容は十分ではない。	やや不十分である。	説明できない。
創造する力 （ 20 %）	独創的に創造することができる。	ほぼ 100%創造することができる。	創造することはできるが、不十分である。	十分に創造することができない。	創造できない。

評価方法

授業内レポート 40%、期末試験 60%

テキスト

・教科書名：図解入門業界研究　最新　病院業界の動向とカラクリがよ～くわかる本[第 4 版]
・著 者 名：中村恵二、山口大樹著
・出版社名：秀和システム
・出 版 年（ISBN）：2024 年（978-4798071961）

医療コミュニケーション論　～良質な医療コミュニケーションは患者の回復を促進する～

一戸　真子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

様々な人間関係においてコミュニケーションは最も重要な役割を果たすが、医療現場における医療コミュニケーションもまた、患者の回復や医療安全に直接影響を与える重要な要素であることについて講義する。グループワークを通してコミュニケーションの具体的なあり方についても理解を深められるよう講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	コミュニケーションの本質と目的
第 2 回	コミュニケーションの手段（バーバル・コミュニケーション、ノンバーバル・コミュニケーション）
第 3 回	コミュニケーション・スキル
第 4 回	意思決定能力とコミュニケーション
第 5 回	信頼関係とコミュニケーション
第 6 回	五感からの情報とコミュニケーション
第 7 回	医療コミュニケーションの特徴
第 8 回	患者・患者家族―医療従事者間コミュニケーション
第 9 回	チーム医療におけるコミュニケーション
第 10 回	グループワーク①あいさつ、ホスピタリティ
第 11 回	グループワーク②告知
第 12 回	グループワーク③傾聴・共感
第 13 回	グループワーク④意思決定支援
第 14 回	良質な医療コミュニケーションと患者の QOL(Quality of Life)
第 15 回	良質な医療コミュニケーションと患者・家族満足度、医療のアウトカム

予習・復習

・予習：次回の単元についての教科書部分の予習を 1 時間程度毎回行うこと。

・復習：授業での実施内容について、1 時間程度の振り返りのための復習を毎回行うこと。

履修上の注意

遅刻（20 分まで）3 回で欠席 1 回とする。

到 達 目 標

1. コミュニケーションの本質について理解できる。
2. コミュニケーションの手段・方法について説明できる。
3. 患者・家族―医療者関係について理解できる。
4. 医療コミュニケーションの特徴について理解できる。
5. 良質な医療コミュニケーションについて実践できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 50 %）	深い理解に基づき自身の言葉で置き換えて表現きる。	ほぼ 100%理解している。	理解はしているが、十分ではない。	あまり理解していない。	理解できていない。
説明する力（ 30 %）	具体的な例も取り上げ、きちんと説明できる。	ほぼ 100%説明することができる。	説明はできるが、内容は十分ではない。	やや不十分である。	説明できない。
実践力（ 20 %）	積極的に実践することができる。	ほぼ 100%実践することができる。	実践できるが、十分ではない。	あまり実践できない。	実践できない。

評価方法

授業内レポート 40%、期末試験 60%

テキスト

・教科書名：メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論
・著 者 名：山蔦圭輔、本田周二著
・出版社名：南山堂
・出 版 年（ISBN）：2021 年（978－4525504519）

臨床心理学　～臨床心理を体験してみよう～

蓮井千恵子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

臨床心理学は何のために発展したのか、何を学ぶのかということを目的とした講義を行う。自分の体験とてらしあわせ、他者の体験について考えることについて学ぶ。他者との話し合いを通して、自分の考えをまとめ、それをさらに他者に伝え、共有することを重要視した講義である。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　講義の内容の説明とスケジュールの確認　臨床心理学を学ぶ意味について理解する。
第 2 回	精神医学と臨床心理学の違いについてⅠ　双方は重なる面もあるが､異なる面も存在する。その相違について学び、理解する。
第 3 回	精神医学と臨床心理学の違いについて II　事例を通して、双方の違いを理解する。
第 4 回	臨床心理学の実際Ⅰ　自分を理解する一環として、質問紙による心理検査を実際に行ってみる。
第 5 回	臨床心理学における心理査定の意義　心理臨床においては心理査定（心理検査）が用いられるが、検査の目的、紹介、査定の違いについて理解する。
第 6 回	臨床心理学における観察の意義　心理臨床において観察は非常に重要である。実際に観察してみよう。観察レポートを作成する
第 7 回	臨床心理学の実際 II　心理療法場面の DVD を見て、グループディスカッションを行い、自分たちの意見を発表する。まず自分なりの感覚に基づき、自分の意見を持つことが重要である。
第 8 回	臨床心理学の実際 III　個人心理療法の目的について理解する。
第 9 回	臨床心理学の実際 IV　心理療法の事例について読み、面接で何が起きているのか理解を深める。
第 10 回	日常生活における心理臨床
第 11 回	心理療法における失敗①　失敗を通して何を学ぶか、どう失敗から学ぶか、他者の体験談を読み、自分の失敗についての理解の仕方や対応の仕方について考える。
第 12 回	心理療法における失敗②　臨床心理学において失敗とは何かということについて理解を深める。
第 13 回	恋愛に関する心理学　男女差は存在する？
第 14 回	アウトサイダーアート
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：講義中に、関連図書を紹介する。また次に用いるレジュメを渡すこともあるので、それを読んでおくこと。
・復習：講義中に、関連図書を紹介する。

履修上の注意

臨床心理学は実践学問である為、体験することを通して学ぶことを重要視する。講義中はグループワークを行うので、グループでのディスカッションに積極的な参加を必要とする。ただし、学年等が異なる場合は、作業を一人でおこなってもさしつかえない。遅刻は4回で1回欠席となる。

到 達 目 標

1）臨床心理学において、何が目指されているかについて説明できること、2）臨床心理学において自分を理解することの重要性を説明できること、3）心理、精神的に実際に自分が困った時、どのように対処すればよいか説明できること、4）コミュニケーション能力を高めることを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
読解力・要約力（50%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	読んで正しく理解し、期待される課題をとけること	参考書や教科書を参考にすれば、課題をとくができる。	他人のアドバイスがあれば課題の理解ができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
文章で説明する力（レポート）（20%）	他人を説得する内容が記述できることができる	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

定期試験　50 %　　小テスト 30%　レポート 20%

テキスト

適宜レジュメを配布する。

メンタルケア　～こころの健康の維持とは～

蓮井千恵子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

メンタルヘルスとは心理、精神的な健康を意味する。心理、精神的な健康さとその健康さを損なうもの、ことについての理解を目的とした講義を行う。こころの健康は自分一人で維持することは困難であるという理解を促すことを目的としている。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　講義の内容の説明とスケジュールの確認　メンタルヘルスの意味を理解する。
第 2 回	こころの健康と異常 I
第 3 回	こころの健康と異常 II
第 4 回	こころに問題を抱えた人に対する援助 I
第 5 回	こころに問題を抱えた人に対する援助 II
第 6 回	精神障害（を有する人）に対する偏見 I　自分がどんな偏見を持っているか、いないか理解しよう。他者の意見を聞いてみよう。
第 7 回	精神障害（を有する人）に対する偏見 II　自分がどんな偏見を持っているか、いないか理解しよう。他者の意見を聞いてみよう。
第 8 回	家族心理療法 I　健康な家族とはどういうものだろうか。
第 9 回	家族心理療法 II　家族成員の一人の変化は家族全体の健康を取り戻すことに役立つだろうか。
第 10 回	家族心理療法 III　家族成員の一人の変化は家族全体の健康を取り戻すことに役立つだろうか。
第 11 回	心理療法・精神科治療の効果 I　心理臨床の効果に関する研究を紹介し、効果と限界について説明する。現在どのようなことが現在わかっており、これからの課題は何かを理解する。
第 12 回	心理療法・精神科治療の効果 II　心理臨床の効果に関する研究を紹介し、効果と限界について説明する。現在どのようなことが現在わかっており、これからの課題は何かを理解する。
第 13 回	心理療法の失敗とは？
第 14 回	メンタルをケアするための様々なアプローチ
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：講義中に関連図書を紹介する。また次の回にレジュメを配布することがあるので、必ず読んでくること。
・復習：講義中に関連図書を紹介する。

履修上の注意

他者と交流することから学ぶことを重要な講義となっている。そのため講義ではグループワークを行う。グループディスカッションでは、積極的な参加を必要とする。ただし学年が異なるなどの場合は、作業を一人で行うことは差し支えない。その場合、教室全体で共有する際、積極的に発表してほしい。遅刻は４回で１回欠席となる。

到 達 目 標

１）こころの異常と健康について説明することができる。２）こころの健康を損なうもの、ことについて説明することができる。３）こころの健康を維持するため何が必要か学ぶ。４）他者の意見を聞き、自分のコミュニケーション能力を現状より高めることを目的とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
読解力・要約力（50%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	読んで正しく理解し、期待される課題をとけること	参考書や教科書を参考にすれば、課題をとくができる。	他人のアドバイスがあれば課題の理解ができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
文章で説明する力（レポート）（20%）	他人を説得する内容が記述できることができる	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

定期試験　50 %　　小テスト 30%　レポート 20%

テキスト

適宜レジュメを配布する。

医療情報システム論　～医療情報のシステム化による医療の質向上への貢献～

一戸　真子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

情報テクノロジーの進歩に伴い、医療現場における医療情報システム化が進んできている現状を理解することにより、どのようなことが医療者―患者関係および医療従事者間において変化してきているかについて講義する。電子カルテシステムにはどのような情報が含まれているか、医療情報のシステム化が医療の質の向上にどのように貢献可能であるかについて理解を深められるよう講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	医療情報の特性、医療情報の量と質
第 2 回	医療情報倫理、プライバシー保護とセキュリティ
第 3 回	標準化と EBM (Evidence- Based Medicine)
第 4 回	病院情報システム（診療、看護、薬剤含む)
第 5 回	基幹システム①オーダシステム
第 6 回	基幹システム②電子カルテシステム (1)
第 7 回	基幹システム②電子カルテシステム (2)
第 8 回	部門システム①医事会計システム
第 9 回	部門システム②検査系システム
第 10 回	部門システム③医用画像システム
第 11 回	部門システム④栄養システム
第 12 回	部門システム⑤物流システム
第 13 回	部門システム⑥リスク管理システム
第 14 回	地域医療連携情報システム
第 15 回	医療の質の向上と医療情報システムの未来

予習・復習

・予習：次回の単元についての教科書部分の予習を 1 時間程度毎回行うこと。

・復習：授業での実施内容について、1 時間程度の振り返りのための復習を毎回行うこと。

履修上の注意

遅刻（20 分まで）3 回で欠席 1 回とする。

到 達 目 標

1. 医療情報とは何かについて理解できる。
2. 医療情報のシステム化の意味することを理解できる。
3. 医療情報システムについて説明できる
4. 基幹システムや部門システムについて説明できる。
5. 医療情報システムの未来について思考できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度 （ 50 %）	深い理解に基づき自身の言葉で置き換えて表現きる。	ほぼ 100%理解している。	理解はしているが、十分ではない。	あまり理解していない。	理解できていない。
説明する力 （ 30 %）	具体的な例も取り上げ、きちんと説明できる。	ほぼ 100%説明することができる。	説明はできるが、内容は十分ではない。	やや不十分である。	説明できない。
思考する力 （ 20 %）	具体的に自ら思考して表現できる。	ほぼ 100%思考することができる。	思考できるが、十分ではない。	あまり思考できない。	思考できない。

評価方法

授業内レポート 40%、期末試験 60%

テキスト

・教科書名：医療情報　第 6 版　医療情報システム編
・著 者 名：日本医療情報会医療情報技術育成部会編
・出版社名：篠原出版新社
・出 版 年（ISBN）：2020 年（978－4867058015）

産業心理学　～社会で働き、生きていくことを考える～

赤城　知里

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

この授業では産業心理学の観点から、社会で働き生きていくために必要な知識を習得し、社会人として対応する力を高めることを目的とします。会社組織で働くために必要となる力に関する基本的テーマとして、自立、モチベーション、リーダーシップ、職場のメンタルヘルスとストレス対処について講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	自立とは何かを考える１　自立について
第 3 回	自立とは何かを考える２　経済的自立　精神的心理的自立について
第 4 回	自立とは何かを考える３　社会的自立について
第 5 回	ワークモチベーション１　モチベーションとは
第 6 回	ワークモチベーション２　想像性を生み出す働き方を考える
第 7 回	ワークモチベーション３　ワークモチベーションの理論
第 8 回	リーダーシップ１　リーダーシップとは
第 9 回	リーダーシップ２　自分らしさを活かしたリーダーシップスタイルを考える
第 10 回	職場のストレスとメンタルヘルス１　ストレスとは
第 11 回	職場のストレスとメンタルヘルス２　ストレス対処
第 12 回	職場のストレスとメンタルヘルス３　職場のストレス
第 13 回	職場のストレスとメンタルヘルス４　メンタルケア
第 14 回	職場のストレスとメンタルヘルス５　ケーススタディ
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：毎回の授業テーマについて、ネットで調べ自分なりに理解し、疑問点を明確にする。
・復習：授業での学びをリアクションペーパーで整理し理解する。

履修上の注意

人と関わることや発表の機会が多い授業である。
教員と学生が双方向でやりとりしながら運営し、グループワーク等体感的なカリキュラムであり、主体的に参加することを求める。

到 達 目 標

自立について理解し自分自身の自立について向き合う事ができる
社会で働く上で必要な理論や考え方を知ることで、職場で適応できる力を育む

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（30%）	自分の考えを他人に伝わるように論理的に記述する事ができる。	自分の考えを含めて記述する事ができる。	不足する点があるが、課題に沿った文を書く事ができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明ができない。
積極性（40%）	率先して自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する努力ができる。	リアクションを取るなど、人と関わろうという意思がある。	人と関わろうとしない。

評価方法

授業での積極性（発言、他者との関わり、意欲）３０％
毎回の授業レポート課題（リアクションペーパー）２０％
定期試験（レポート）５０％

テキスト

必要に応じてプリントを配布する

観光ビジネス論

～観光ビジネスを分類別に学び、就活や社会生活で活かそう～

齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社における、観光産業の様々な会社や組織との実務経験に基づき、観光ビジネスを分類し、具体的な業務内容や日本経済、環境に与える影響について、実例を交えて講義する。また観光関連の仕事に興味を持ち就職先の選択肢の一つとしたり、消費者目線で観光サービスを利用する際にも役立ちます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション　授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	日本の観光ビジネスの概要と歴史
第 3 回	観光ビジネス❶　〔運輸関連：ＪＲ、私鉄〕
第 4 回	観光ビジネス❷　〔運輸関連：航空、観光バス他輸送〕
第 5 回	観光ビジネス❸　〔運輸関連：クルーズ〕
第 6 回	観光ビジネス❹　〔宿泊：ホテル、旅館、レストラン施設〕
第 7 回	観光ビジネス❺　〔テーマパーク、他アミューズメント関連〕
第 8 回	理解度小テストの実施、課題レポートの提出
第 9 回	日本の観光政策と地域における観光ビジネス（地方創生）
第 10 回	観光ビジネス❻　〔着地型テーマ旅行関連、他〕
第 11 回	観光ビジネス❼　〔イベント〕
第 12 回	観光ビジネス❽　〔ＭＩＣＥ〕
第 13 回	観光ビジネス❾　〔ロードサイド〕
第 14 回	海外の観光ビジネス〔欧米、東南アジア、オセアニア他〕
第 15 回	まとめ及び課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示します。

・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。

・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・観光ビジネス（航空、鉄道、宿泊、テーマパーク、イベントなど）関連に興味を持って、日常的に情報収集（テレビ、新聞、雑誌、Web）を心掛けてください。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・観光ビジネスを分類別に学び、興味を持って、就職先の選択肢のひとつにする（消費者目線で利用する際に役立てる）
・「観光ビジネスが日本経済や環境に与える影響」について修得して、課題に対して情報収集・提案出来るようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０％）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０％）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

課題レポート及び授業内の理解度テスト（70%）、受講態度（30％）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

ホスピタリティ概論

～社会に出て役立つホスピタリティを習得する～

冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

「ホスピタリティ」はさまざまな業界・業種で必要とされる接客や対人関係の心構えにあたり、日本での「おもてなし」に通じるものでもある。旅行会社と航空会社に在籍し、お客様の満足度を高めるために実践してきた実務上の経験を元に取り上げる「ホスピタリティ」の基本を習得しながら、様々な業種・業界におけるマナー・ホスピタリティ・おもてなしの理解につなげていく。とりあげる「ホスピタリティ」の事例から企業やビジネス上の「顧客満足」とは何かを習得することも重要である。就活、実社会での仕事、いずれにおいても本授業が非常に重要な意味を持つことを理解して履修すること。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画と成績評価の方法の説明、ホスピタリティとは？
第 2 回	ホスピタリティの基本①　ビジネスマナーの基本、言葉使い、対応方法のマナー
第 3 回	ホスピタリティの基本②　電話のマナー、会話のマナー
第 4 回	ホスピタリティの基本③　メール、PC、スマホ、インターネット、SNS のマナー
第 5 回	ホスピタリティの基本④　国際儀礼（プロトコール）・冠婚葬祭のマナー
第 6 回	ホスピタリティの基本⑤　外国人・インバウンド（訪日外客）の受入対応のマナー
第 7 回	業界別ホスピタリティスの考察①　ブライダルのホスピタリティ
第 8 回	業界別ホスピタリティスの考察②　ホテルのホスピタリティ、理解度小テスト①
第 9 回	業界別ホスピタリティスの考察③　テーマパークのホスピタリティ
第 10 回	業界別ホスピタリティスの考察④　医療事務・福祉業界のホスピタリティ
第 11 回	業界別ホスピタリティスの考察⑤　インバウンドにおけるホスピタリティ
第 12 回	業界別ホスピタリティスの考察⑥　「和食・日本酒」のホスピタリティとマナー講座
第 13 回	伝統文化のホスピタリティ①　日本の伝統文化「金継ぎ」と本学の SDGs 活動、地域交流
第 14 回	伝統文化のホスピタリティ②　特別講師と体験授業「浴衣の着付け・生け花・就活メイク術」
第 15 回	振り返り、理解度小テスト②、最終課題レポートの提出

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。

・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を２回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

・授業計画は変更になることがある。
・外部講師を招いての特別講義を行うことがあります。その場合、体験・実習に参加するグループと、それを視聴するグループに分かれることがあります。また、それに伴い実費が発生する場合は各自負担となる。
・フィールドワーク、企業訪問を実践する際の交通費など実費は学生負担となる。安全対策に留意して行う。
・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
・前期選択科目「ホテルビジネス基礎」、後期選択科目「エアライン・ホスピタリティ」との関連が深いため、可能であれば一緒に受講することが望ましい。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到 達 目 標

１．　ホスピタリティの実践に向けて、その方法を構想、立案することができる。
２．　ホスピタリティに溢れた利用すべきサービスやビジネスモデルを客観的に捉えることができる。
３．　ホスピタリティの現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０%）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０%）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０%）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・平常点（毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の提出）　　５０％
・理解度小テスト（前半・後半に分けて２回実施）　３０％
・最終課題レポート　２０％

テキスト

・テキストの指定はしない。
スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

ホテルビジネス基礎

～宿泊業の実務を知り主要部門の業務が分かる～

冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

ホテルや日本旅館を中心とした宿泊サービスおよびホテルでのブライダル実務を様々な角度から考察し、基礎となる知識を習得する。今後計画されている外資系５ツ星ホテルの日本開業にも対応可能な基礎知識の向上に役立てる。成功したビジネス事例・ホテ経営の数々を取り上げて講義する。人気のある「ホテルブライダルスタッフ」になるためのホテル分析の仕方やブライダル・コーディネーターを目指す方法にも触れる。即戦力として接客業務に従事できる「ホテルビジネス実務検定：ベーシック２級」の受験対策も取り入れる。観光庁が進めるこれからの観光産業を支える「観光DX検定」も講義に取り入れて、「初級資格」取得の一助とする。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画と成績評価の方法の説明、「ホテル検定」に対する理解
第 2 回	宿泊業研究①　テーマホテル：ディズニーランド「ミリアルリゾートホテルズ」魅力-応募
第 3 回	宿泊業研究②　リゾートホテル：「星野リゾート」成長の秘密・ＭＣ戦略・ホテルリート
第 4 回	宿泊業研究③　宿泊特化型：日本が生み出したモデル―アパホテル・東横イン等
第 5 回	宿泊業研究④　日本旅館：旅館の魅力、倒産の危機からＶ回復し優良企業へ
第 6 回	宿泊業研究⑤　都市型総合ホテル：帝国ホテル、西武プリンスホテルズワールドワイド等
第 7 回	宿泊業研究⑥　ＭＩＣＥ：国際イベント（大阪・関西万博含む）、ＭＩＣＥビジネス
第 8 回	宿泊業研究⑦　地方創生、事業再生、町まるごとホテル　理解度小テスト①
第 9 回	宿泊業界の実務①　ホテルの概要、ホテル英語の解説
第 10 回	宿泊業界の実務②　宿泊部門の業務、ホテルでの接客の基礎
第 11 回	宿泊業界の実務③　料飲部門、調理部門、宴会部門の業務
第 12 回	宿泊業界の実務④　特別授業：ホテルでのブライダル部門の仕事
第 13 回	宿泊業界の実務⑤　調理・宴会：「ニューオータニ・即位の礼」日本を表す祝賀パーティ
第 14 回	データで需要を予測する　ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）と観光ＤＸ検定
第 15 回	振り返り、理解度小テスト②、最終課題レポートの提出

予 習 ・ 復 習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。

・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を２回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

・フィールドワーク、企業訪問、オンライン特別授業等により、授業計画は変更になることがある。
・「ホテルビジネス実務検定ベーシック 2 級」取得の対策を取り入れた講義も一部含まれますが、検定試験の対策は資格講座（エクステンションセンターで募集するもの）を受講すること。
・「観光 DX 検定初級」（12 月予定）を受験する際の検定料（2,500～3,000 円予定）は別途個人負担。
・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
・フィールドワーク、企業訪問を実践する際の交通費など実費は学生負担となる。安全対策に留意して行う。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到 達 目 標

１．宿泊業界の知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
２．ホテルビジネスの実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
３．ホテルでの「ブライダル・コーディネーター」に応募するための就活戦略が習得できる。
４．「観光ＤＸ検定初級資格」の取得を目指しデジタルトランスフォーメーションのことが理解できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０％）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０％）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０％）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・平常点（毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の提出）　　５０％
・理解度小テスト（前半・後半、２回実施）　３０％
・最終課題レポート　２０％

テキスト

・教科書名：ホテルビジネス基礎編 －ベーシック レベル 2 級・1 級準拠－（5,500 円）
・著者名：日本ホテル教育センター
・出版社名：日本ホテル教育センター
・出版年：改定 2021 年
・ISBN：記載なし

ホテル経営論　～ホスピタリティーマインド（思いやりを持って優しく温かく接する心）を学び社会生活でも役立てよう！！～	齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社の重要なビジネスパートナーであるホテルとの実務経験を基づき、この授業では、ホテルの歴史や分類、代表的なホテルやホテルチェーンの概要に加え、ホテルビジネスにおける経営の基礎知識、各部門の特徴・役割・実務、さらにホスピタリティに関する内容を学びます。さらに、この授業ではホテルビジネス実務検定試験に対応できるよう、必要な知識も講義する。
思いやりを持って優しく温かく接する心のことです。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション　授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	ホテルの歴史（江戸時代から始まる宿泊業の役割と変遷）
第 3 回	日本旅館の歴史（奈良時代から始まる宿泊業の役割と変遷）
第 4 回	ホテルと日本旅館の経営形態の違い
第 5 回	ホテル宿泊部門の組織と業務役割、施設と設備の知識
第 6 回	ホテル料飲（フード&ビバレッジ）部門のサービスと経営
第 7 回	ホテルレストランの業態と役割
第 8 回	ホテル宴会部門の組織と業務役割、サービスと宴会の種類、MICE に関する知識
第 9 回	調理部門の組織と業務内容、各国料理の知識
第 10 回	マーケティング部門の組織と業務役割、マーケティング実務
第 11 回	レベニューマネージメント（収益管理）と各担当者の業務
第 12 回	総務・人事部門、施設管理部門、仕入・購買部門、経理・会計部門の各概要
第 13 回	ラグジュアリーホテルや旅行会社におけるホスピタリティーの事例
第 14 回	西洋料理（フランス料理）の歴史と基本ならびに各国料理について
第 15 回	ホテル業界を取り巻く環境、まとめ及び課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示します。
・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。
・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・関連する事（ホテル、レストラン、パーティー、各国料理、食文化、ホスピタリティー）に興味を持って日常的に情報収集（テレビ、雑誌、旅行パンフレット、Web）を心掛けてください。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・「ホテル実務・経営」がどのようなものかを理解して、ホテル関連の仕事に興味を持って就職先の選択肢のひとつにする（消費者目線でホテルを利用する際に役立てる）
・「ホテルビジネス実務検定」の合格を目指し、引き続き資格講座（エクステンションセンター）を受講する。
・ホテル関連の知識（ホテルチェーン、各国料理、料理関連の基礎知識など)」について修得して、社会常識としての知識を身に付ける。
・「ホテルや旅行業界におけるホスピタリティー」を学ぶことによって、他業界でも活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識＜宿泊、企画、経営＞（４０％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
理解・知識＜料飲、宴会、調理＞（４０％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
情報収集力・探求心（２０％）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

課題レポート及び授業内の理解度テスト（70%)、受講態度（30%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

旅行業法　～国家試験にチャレンジしよう～	齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行の企画・販売など旅行業法関連の資格が必要とされる旅行会社における実務経験に基づき、この授業では旅行業務取扱業者（旅行会社）に関する法律や規程（旅行業法及びその関連命令）について学びます。旅行会社の特徴は、形の無い商品を扱うことから、特に信用が重視される点を理解してもらいます。旅行会社の業務全般の知識を身につけ、旅行業務取扱管理者資格取得に必要な項目を講義する。なお旅行業法の修得は、実際に旅行をする際にも役立つ知識となります。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション　授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	旅行業法の基礎知識
第 3 回	登録制度と営業保証金制度
第 4 回	旅行業務取扱管理者と外務員
第 5 回	旅行業務取扱料金、旅行業約款、標識
第 6 回	取引条件の説明・書面の交付、広告・旅程管理、受託契約
第 7 回	禁止行為・業務改善命令・罰則、旅行サービス手配業、旅行業協会、弁済業務保証金
第 8 回	標準旅行業約款〔総則、企画旅行契約の締結・変更・解除〕
第 9 回	標準旅行業約款〔旅程管理・責任、旅程保証、特別補償規程、手配旅行契約〕
第 10 回	運送・宿泊約款〔国内旅客運送約款、モデル宿泊約款〕
第 11 回	国内旅行実務〔JR 運賃・料金〕
第 12 回	国内旅行実務〔国内航空運賃・料金〕
第 13 回	国内旅行実務〔国内地理：世界遺産、国立公園、ラムサール条約、伝統行事、郷土料理〕
第 14 回	国内旅行業務取扱管理者試験（国家試験）と過去問題研究
第 15 回	旅行業界を取り巻く観光ビジネス、まとめ及び課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示しますが、業法は覚える範囲が広いため、特に復習が大事です。
・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。
・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・国内の地理や歴史、世界遺産などに興味を持ち、普段から情報収集（旅番組、ニュース、雑誌、旅行パンフレット、Web サイト）に取り組んでください。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・「旅行業法及びこれにも基づく命令」の各科目を修得する。
・「旅行業務取扱管理者試験（総合、国内)」の合格を目指し、引き続き資格講座（エクステンションセンター）を受講する。
・消費者目線で実際に旅行をする際に役立てる。
・「国内旅行実務（国内地理、JR、航空)」について修得して、社会常識としての知識を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識＜旅行業法・関連法令＞（５０％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
理解・知識＜国内旅行実務：国内地理＞（２５％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
理解・知識＜国内旅行実務：JR、航空＞（２５％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。

評価方法

課題レポート及び授業内の理解度テスト（70%)、受講態度（30%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配布します。

観光マーケティング論

～観光産業で楽しみながら仕事をしよう～

齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社での多彩な販売・企画業務の実務経験に基づき、この授業では、観光業界の事例を通じてマーケティングの基本を学びます。具体的には、観光地にどのようにして多くのお客様を誘客・集客し、その地域の交流人口を増やすことで観光消費額の拡大ができるのかについて考察します。またこれまで魅力的な観光素材が無かった地域でも、アイデア次第で観光資源の発掘し、磨きをかけることによって新たな観光素材を創造し、地域経済の発展（＝地方創生）に繋げる方法を講義する。さらに、近年では他業種においても地方創生（地域共創）事業に積極的に取組む企業が増えており、就職活動や就職後の業務においても活かせる知識を紹介します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション　授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	国家的な観光政策と観光マーケティングの変遷
第 3 回	マーケティングのおける分析方法（PEST 分析、STP 分析、SWOT 分析、VRIO 分析）ほか
第 4 回	マーケティングのおける分析方法（3C 分析、4P・4C 分析、ｻｰﾋﾞｽﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞの７P 分析）ほか
第 5 回	観光マーケティングの考え方（観光消費による地域経済への波及効果：好循環のしくみ）
第 6 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム（インフラ・ツーリズム）
第 7 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム（コンテンツ・ツーリズム）
第 8 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム（ヘルス・ツーリズム）
第 9 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム （エコ・ツーリズムとサステイナブル・ツーリズム）
第 10 回	観光マーケティング事例研究：新しい観光地「道の駅」による地域の活性化
第 11 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム （スポーツツーリズムとスポーツホスピタリティービジネス）
第 12 回	フィルムコミッションとコンベンションビューローの役割と MICE ビジネス
第 13 回	観光マーケティング事例研究：高付加価値なオリジナルイベント実施例
第 14 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム（ＹＡＫＥＩ・ツーリズム）
第 15 回	まとめ、課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示します。

・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。

・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・観光や様々なイベントに興味を持って、関連の情報収集（TV、新聞、雑誌、Web）を心掛けてください。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・「観光が経済に与える影響」について修得して、課題に対して情報収集・提案できるようにする。
・「地方創生と国の様々な観光政策」について修得して、課題に対して情報収集・提案できるようにする。
・「ニューツーリズムの種類と役割」について修得して、課題に対して情報収集・提案できるようにする。
・「観光におけるマーケティング分析の種類と内容」について修得して、説明できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０%）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０%）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０%）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

課題レポート及び授業内の理解度テスト（70%）、受講態度（30%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

かしこい旅行実務論　～旅行プランナーの実務を学ぼう～

齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社における国内外の企画・提案・販売などの多彩な実務経験に基づき、この授業では実際の旅行会社が国内、海外、訪日旅行のマーケットを対象にどのようなビジネスを行っているのか、具体的な仕事内容を楽しく、面白く学びます。皆さんも旅行会社の社員目線また消費者目線で受講してください。どのように旅行企画商品が作られ、どの様に旅行が実施されるのかなど、現場における実務を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション　授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	観光産業の概要、旅行会社の仕事の内容を知る
第 3 回	旅行会社社員（ホスピタリティー産業）に求められる創造力と企画力、人物像と業務知識
第 4 回	旅行業務知識　ヨーロッパ編①（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 5 回	旅行業務知識　ヨーロッパ編②（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 6 回	旅行業務知識　オセアニア編　（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 7 回	旅行業務知識　東南アジア編　（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 8 回	旅行業務知識　ハワイ、南太平洋編　（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 9 回	旅行業務知識　アメリカ、カナダ編　（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 10 回	旅行企画作成（日程表作成：資料収集、テーマ、ストーリー、主なポイントなど）
第 11 回	旅行企画作成（企画をパワーポイントに）
第 12 回	発表　各チーム旅行企画プレゼンテーション
第 13 回	発表　各チーム旅行企画プレゼンテーション
第 14 回	旅行会社、関係諸機関（宿泊業、運輸業等）で使用される業界専門用語などを学ぶ
第 15 回	まとめ、理解度小テストの実施、課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示します。
・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。
・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・旅行に関連する様々な事（名勝、史跡、歴史、文化、芸術、世界遺産、地理、ホテル、食）などに興味を持って情報収集（旅番組、ニュース、雑誌、旅行パンフレット、Web）を心掛けてください。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・「旅行実務」がどのようなものかを理解して、観光関連の仕事に興味を持って就職先の選択肢のひとつにする（消費者目線で旅行をする際に役立てる）
・「観光知識（地理、歴史、文化、芸術、食、世界遺産、ホテルなど)」について修得して、社会常識としての知識を身に付ける。
・「旅行企画書の作成」を通して企画力、情報収集力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を身に付けて、他業界でも活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０%）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０%）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０%）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

旅行企画書の作成及びプレゼンテーション（40%）、受講態度（20%）、授業内の理解度テスト（20%）、課題レポート（20%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

エアライン・ビジネス

～エアラインのビジネスモデルから航空事業の魅力を発見～

冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

最先端のテクノロジー、様々な関連業務、高いホスピタリティの複合体である「エアライン・ビジネス」の基礎知識を多角的・多面的に履修する。空港マネジメント・旅行会社とも密接につながっており、さらにAIやITとの親和性も高いため、広く観光産業を学ぶ導線と位置付けた航空ビジネス全体を捉える。講師のカンタス航空グループに在籍した実務経験を反映した現場感覚を中心とした講義により、社会人としての一般常識、就活アドバイスを含んだ幅広い航空業界の基礎を学ぶ。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画と成績評価の方法の説明、エアライン・ビジネスとは
第 2 回	世界の航空業界と航空自由化の歴史、日本の航空産業
第 3 回	国内航空ビジネス①　日本No1キャリア・ＡＮＡの歴史と今
第 4 回	国内航空ビジネス②　ＡＮＡの事業戦略
第 5 回	国内航空ビジネス③　日本を代表するＪＡＬの歴史と今
第 6 回	国内航空ビジネス④　ＪＡＬの事業戦略
第 7 回	国内航空ビジネス⑤　ＭＣＣ・ＬＣＣのビジネスモデル、新しい「ｅＶＴＯＬ」の登場
第 8 回	国内航空ビジネス⑥　空港ビジネス・エアライン関連ビジネス、　理解度小テスト①
第 9 回	エアライン・ビジネスの業務知識①　エアラインプロダクト、各種専門コード
第10回	エアライン・ビジネスの業務知識②　ＣＲＳ（予約システム）・「INFINI」国際線予約
第11回	エアライン・ビジネスの業務知識③　「グランドハンドリング」特別講義または現場見学
第12回	データで需要を予測する　ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）と観光ＤＸ検定
第13回	外資系航空会社研究①　アメリカ・ヨーロッパ（欧米）主要キャリアの魅力と特徴
第14回	外資系航空会社研究②　アジア・オセアニア（豪亜）主要キャリアの魅力と特徴
第15回	振り返り、理解度小テスト②、最終課題レポートの提出

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。

・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を２回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

・授業計画は変更になることがある。
・フィールドワーク・ゲストスピーカーの招聘・オンライン授業等の実施によりシラバスの変更が生じることもある。
・フィールドワーク、企業訪問を実践する際の交通費など実費は学生負担となる。安全対策に留意して行う。
・後期選択科目「エアライン・ホスピタリティ」との関連が深いため、可能であれば一緒に受講することが望ましい。
・「観光 DX 検定初級」（12 月予定）を受験する際の検定料（2,500～3,000 円予定）は別途個人負担。
・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到 達 目 標

１．エアラインの知識を身に付けそれに基づいたビジネスの問題点や課題を指摘することができる
２．エアライン・ビジネスの実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
３．エアライン・ビジネスの現状や課題を客観的に捉えることができる。
４.「観光ＤＸ検定初級資格」の取得を目指しデジタルトランスフォーメーションのことが理解できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０％）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０％）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０％）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・平常点（毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の提出）　　５０％
・理解度小テスト（前半・後半、２回実施）　３０％
・最終課題レポート　２０％

テキスト

・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

エアライン・ホスピタリティ

～洗練されたエアラインのホスピタリティを知り、それを生かしていこう～

冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

エアラインの使命は、『お客様を「安全」で「快適」に、そして「スケジュールどおり（定時運航）」に目的地にお連れすること』であり、その実現のためにチームとして部門毎に様々な業務を担っている。本講義では、講師のカンタス航空グループに在籍した豊富な実務経験を踏まえ、エアラインをホスピタリティの観点から掘り下げるとともに、求められるエアライン・ホスピタリティとは何か、を解き明かす講義とする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画と成績評価方法、エアライン・ホスピタリティとは
第 2 回	部門別ホスピタリティ①　プロダクトの違いによるホスピタリティ
第 3 回	部門別ホスピタリティ②　キャビンアテンダント（ＣＡ）のホスピタリティグ
第 4 回	部門別ホスピタリティ③　ランドスタッフ（ＧＳ）のホスピタリティ
第 5 回	部門別ホスピタリティ④　グランドハンドリングのホスピタリティ①　ランプ・貨物
第 6 回	部門別ホスピタリティ⑤　グランドハンドリングのホスピタリティ②　運航管理
第 7 回	部門別ホスピタリティ⑥　最新の空港サービスによるホスピタリティ
第 8 回	エアライン別ホスピタリティ①　国内顧客満足度 No.１エアライン、理解度小テスト①
第 9 回	エアライン別ホスピタリティ②　再生したＪＡＬの「ＪＡＬフィロソフィー」からの学び、
第 10 回	エアライン別ホスピタリティ③　ＤＥＩ戦略、ＪＡＬの商品開発の新たな取り組み
第 11 回	エアライン別ホスピタリティ④　２０２５エアライン・空港ランキング、ＮＺの新たな取組み
第 12 回	エアライン別ホスピタリティ⑤　超音速旅客機、プライベートジェットの新マーケット
第 13 回	エアライン別ホスピタリティ⑥　持続可能な航空燃料（ＳＡＦ）への取り組み
第 14 回	空の安全　英国「コメット」の失敗と教訓、航空機事故減少に貢献した日本人科学者
第 15 回	振り返り、理解度小テスト②、最終課題レポートの提出

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を２回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

・授業計画は変更になることがある。
・フィールドワークの実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることもある。
・フィールドワーク、企業訪問を実践する際の交通費など実費は学生負担となる。安全対策に留意して行う。
・前期選択科目「エアライン・ビジネス」と一緒に受講することが望ましい。
・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到 達 目 標

１．エアラインに関するホスピタリティの知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
２．エアライン・ホスピタリティの実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
３．エアライン・ホスピタリティの現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０%）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０%）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０%）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・平常点（毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の提出）　　５０％
・理解度小テスト（前半・後半、２回実施）　３０％
・最終課題レポート　２０％

テキスト

・テキストの指定はしない。
スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

観光交通論　～持続可能な観光のために変革し進歩する交通運輸業の現状と未来を学ぶ～

冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

観光の中で移動に関わる各交通運輸機関の機能、役割、特性、そして未来形を講義する。観光交通ビジネスにおける様々な移動手段は、幾多の歴史を経て、旅行形態の多様化やAI・IoTの進歩との高い親和性により、観光産業の重要な一部として進化し続けている。一方で地球温暖化防止はこれからの交通輸送とは切っても切れない重要な課題である。持続可能な観光産業のために交通運輸機関のテクノロジーの進歩と人との関わりを講義し、講師の航空業界・旅行業界に在籍した実務経験に基づく講義は、新しい気づきと学びが溢れたものとなっている。観光庁が進めるこれからの観光産業を支える「観光DX検定」も講義に取り入れて、「初級資格」取得の一助とする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画と成績評価の方法の説明　観光と交通・環境保護の関係性
第 2 回	観光と交通の係わりと歴史
第 3 回	鉄道と観光交通①　鉄道の歴史と観光との関わり
第 4 回	鉄道と観光交通②　脱輸送ビジネス、エキナカビジネス
第 5 回	鉄道と観光交通②　夜行列車の復活、ラグジュアリートレイン戦略、各社の連携
第 6 回	観光地と交通①　ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）とデータサイエンス
第 7 回	観光地と交通②　需要予測「観光ＤＸ」
第 8 回	モータリゼーションと観光交通①　自動車の歴史的変革、　理解度小テスト①
第 9 回	モータリゼーションと観光交通②　ＣＯ２削減と環境にやさしいＦＣＶ・ＥＶ
第10回	モータリゼーションと観光交通③　ライドシェア、高速バス、自動運転
第11回	航空と観光交通①　ＳＡＦ・環境にやさしい航空燃料
第12回	テーマ別考察①　「空飛ぶクルマ」の時代、宇宙旅行の可能性
第13回	テーマ別考察②　クルーズ旅行、フライ＆クルーズ、日本版ディズニークルーズ
第14回	テーマ別考察③　世界の持続可能な交通対策、オーバーツーリズムと交通の相関関係
第15回	振り返り、理解度小テスト②、最終課題レポートの提出

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を２回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

・授業計画は変更になることがある。
・フィールドワークの実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることもある。
・フィールドワーク、企業訪問を実践する際の交通費など実費は学生負担となる。安全対策に留意して行う。
・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
・「観光 DX 検定初級」（12 月予定）を受験する際の検定料（2,500～3,000 円予定）は別途個人負担。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない

到 達 目 標

１．観光交通の知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
２．観光に与える交通の実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
３．観光交通の現状や課題を客観的に捉えることができる。
４．「観光ＤＸ検定初級資格」の取得を目指しデジタルトランスフォーメーションのことが理解できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０％）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０％）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０％）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・平常点（毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の提出）　　５０％
・理解度小テスト（前半・後半、２回実施）　３０％
・最終課題レポート　２０％

テキスト

・テキストの指定はしない。
スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

観光政策論　～観光政策が経済と環境に与える影響を学ぶ～

齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社における、関連省庁や自治体との実務経験に基づき、観光が経済に与える影響が極めて大きい事を理解して、国の観光政策が今後の日本の経済（特に地方創生における地域の活性化）に重要な役割を果たすことを講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション　授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	日本の観光産業の概要
第 3 回	日本の観光政策の歴史❶〔明治～第 2 次世界大戦前〕
第 4 回	日本の観光政策の歴史❷〔戦後～高度経済成長期～バブル経済崩壊後～現代〕
第 5 回	国土交通省の観光政策❶〔観光庁：アクションプログラム〕
第 6 回	国土交通省の観光政策❷〔観光庁：観光地域づくり〕
第 7 回	国土交通省の観光政策❸〔観光庁：国際観光〕
第 8 回	国土交通省の観光政策❹〔港湾局、道路局、総合政策局：クルーズ振興ほか〕
第 9 回	関係省庁の観光政策①〔内閣府、復興庁〕
第 10 回	関係省庁の観光政策③〔農林水産省、経済産業省〕
第 11 回	関係省庁の観光政策②〔外務省、文部科学省、環境省〕
第 12 回	自治体の観光政策〔各都道府県観光協会、DMO，コンベンションビューロー〕
第 13 回	海外の観光政策①〔アメリカ、ヨーロッパ、ほか〕
第 14 回	海外の観光政策②〔東南アジア、オセアニア、ほか〕
第 15 回	まとめ、理解度小テストの実施、課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示しますが、業法は覚える範囲が広いため、特に復習が大事です。
・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。
・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・観光に関する様々な分野（航空、クルーズ、鉄道、宿泊、インバウンド、地方創生、環境）に興味を持って、関連の情報収集（TV、新聞、雑誌、Web）を心掛けてください。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分以内とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・「各省庁の観光関連の政策」を理解して、概略を説明できるようにする。
・「観光政策と地方創生（経済に与える影響)」について修得して、課題に対して情報収集・提案できるようにする。
・「観光政策と環境に与える影響」について学び、課題に対して情報収集・提案できるようする

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０%）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０%）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案が出来る。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０%）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

課題レポート及び授業内の理解度テスト（70%)、受講態度（30%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

ブライダルビジネスⅠ

～ブライダルの基礎からブライダル産業までを知ろう～

岡本　尚也

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

少子化に伴う結婚件数の減少等で縮小傾向といわれるブライダル市場ですが、他業種の進出による多角化等による新たなるサービス提供も急激に進んでいます。本講座はブライダルの歴史から市場の現況、関連産業等ブライダルビジネスを俯瞰して見られるよう講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の目的、進め方、評価方法の説明）
第 2 回	ブライダルの歴史を知る（日本編）
第 3 回	ブライダルの歴史を知る（欧米編）
第 4 回	ブライダルの基礎①（見合い・婚約・結納）
第 5 回	ブライダルの基礎②（挙式・披露宴）
第 6 回	ブライダルビジネス関連産業を学ぶ
第 7 回	ブライダル関連の職種と資格の紹介
第 8 回	小テスト、まとめ（前半の振り返り）
第 9 回	コーディネーター業務とは
第 10 回	打ち合せ業務とは
第 11 回	手配業務及び当日業務とは
第 12 回	ブライダルアイテムについて①（衣装・装花・ヘアメイク）
第 13 回	ブライダルアイテムについて②（テーブルコーディネート・ペーパーアイテム・料理）
第 14 回	ブライダルアイテムについて③（基本演出・引き出物・引き菓子）
第 15 回	小テスト、まとめ（後半の振り返り）、課題レポートの提出

予習・復習

予習：次回取り上げるテーマに関して、書籍・Web 等での情報収集
復習：レポートの提出や小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・授業計画は変更となることがあります。
・フィールドワーク等の実施によりシラバスが変更となる場合があります。
・フィールドワーク実施の際に必要となる交通費は実費負担となります。
・授業開始から 30 分までの入室は遅刻扱いとし、それ以降の入室は欠席扱いとします。
なお、遅刻 3 回で 1 の欠席扱いとし、欠席が 5 回を超えた場合は単位付与を行ないません。

到 達 目 標

ブライダルの歴史を学び、なぜ現在のような挙式スタイルになったのかを知ることで、ブライダル業界の可能性を考える基礎知識の習得を目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	おおむね理解はしているものの、多少の不足がある。	最低限の授業内容を理解している。	内容についての理解ができていない。
積極性（50%）	ディスカッション等において、積極的な発言を行うなど、中心的な役割ができている。	ディズカッション等において、積極的な参加姿勢が認められる。	ディスカッション等において、適切に発言をし、興味を持った取り組み姿勢が認められる。	授業内での発言等、積極性が薄くやや不十分と見受けられる。	欠席が目立ち、授業への参加意思が見られない。

評価方法

・小テスト、課題レポート（50%）
・受講態度及びディスカッション参加の積極性（50%）

テキスト

スライドでの授業のためテキストは使用しません。
必要に応じて資料配布をします。

ブライダルビジネスⅡ

～ブライダルビジネスの現場を知り、新たな可能性を模索する～

岡本　尚也

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

ブライダルビジネスⅠで学んだ基礎を基に、より実務的な内容を掘り下げます。実際の現場を視察することで実務を理解し、ブライダルビジネスへの知識を深めていきます。ビジネス現場でも役に立つ「考える力」や「対人能力」等のビジネススキルも合わせて指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の目的、進め方、評価方法の説明）
第 2 回	挙式スタイルについて①（キリスト教式）
第 3 回	挙式スタイルについて②（神前式・仏前式）
第 4 回	挙式スタイルについて③（人前式・シビルマリッジ）
第 5 回	海外ウェディングと新婚旅行
第 6 回	ブライダル現場におけるＳＤＧｓを考える
第 7 回	披露宴の進行と演出について、小テスト
第 8 回	式場見学（予定）※見学先都合で日にちは変更になる場合があります
第 9 回	ディスカッション（式場見学での気づきの発表）
第 10 回	ブライダルプランナー検定２級問題にチャレンジ
第 11 回	関連資格問題にチャレンジ（色彩検定・食空間コーディネーター　等）
第 12 回	ウェディングプランナーに必要なビジネスマナーとコミュニケーションを学ぶ
第 13 回	ディスカッション（ブライダル業界の課題点を考える）
第 14 回	ディスカッション（新しいブライダルビジネスを考える）
第 15 回	まとめ、課題レポートの提出

予習・復習

予習：次回取り上げるテーマに関して、書籍・Web 等での情報収集
復習：レポートの提出や小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・前期「ブライダルビジネスⅠ」を履修していることが望ましい。
・授業計画は変更となることがあります。
・フィールドワーク等の実施によりシラバスが変更となる場合があります。
・フィールドワーク実施の際に必要となる交通費は実費負担となります。
・授業開始から 30 分までの入室は遅刻扱いとし、それ以降の入室は欠席扱いとします。
なお、遅刻 3 回で 1 の欠席扱いとし、欠席が 5 回を超えた場合は単位付与を行ないません。

到 達 目 標

ブライダル現場を実際に訪問し、自分なりに課題点を見つけ出し、解決方法や発展を考察し話し合うことで、ビジネス現場に必要なコミュニケーション能力や思考力を養うことを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	おおむね理解はしているものの、多少の不足がある。	最低限の授業内容を理解している。	内容についての理解ができていない。
積極性（50%）	ディスカッション等において、積極的な発言を行うなど、中心的な役割ができている。	ディズカッション等において、積極的な参加姿勢が認められる。	ディスカッション等において、適切に発言をし、興味を持った取り組み姿勢が認められる。	授業内での発言等、積極性が薄くやや不十分と見受けられる。	欠席が目立ち、授業への参加意思が見られない。

評価方法

・小テスト、課題レポート（50%）
・受講態度及びディスカッション参加の積極性（50%）

テキスト

スライドでの授業のためテキストは使用しません。
必要に応じて資料配布をします。

アニメで学ぶ環境論　～アニメ・漫画から読み解く環境問題～

小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

近年の日本のアニメや漫画は独創性・クオリティが評価され、“クール・ジャパン”と呼ばれ、国内のみならず海外でも高い人気を誇っています。産業・科学・教育・芸術など様々な分野にわたって詳細に描かれているこれら作品群のなかには、利害が複雑に絡み合う現代社会のうつし鏡ともいえる良質な作品を見つけることができます。そのなかでも特に環境問題を考えるのに適した作品を選定し、細部を注意深く読み解くことで、厳しくも温かい「人と自然との共生社会」の世界への扉を、あるいは複雑怪奇な環境問題への扉を開くような講義を行ないます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	アニメで描かれる自然１ 『ピーターラビット』で描かれる動物観
第 3 回	アニメで描かれる自然２ 『鬼滅の刃』で描かれる自然の緻密さと誤り
第 4 回	アニメで描かれる自然３ 『ゴールデン・カムイ』で描かれるアイヌ文化とマタギ文化の違い
第 5 回	アニメで描かれる自然４ 『ゴールデン・カムイ』で描かれる北海道の野生動物の真偽
第 6 回	アニメで描かれる自然５ 『美味しんぼ』で描かれる世界と現実との乖離
第 7 回	日本人の自然観１ 『ミヨリの森』の世界観を分析する
第 8 回	日本人の自然観２ 『ミヨリの森』の世界観を分析する
第 9 回	日本人の自然観３ 『もののけ姫』の世界観を分析する
第 10 回	日本人の自然観４ 『もののけ姫』の世界観を分析する
第 11 回	未来の地球のゆくえ１ 『風の谷のナウシカ』の世界観を分析する
第 12 回	未来の地球のゆくえ２ 『風の谷のナウシカ』の世界観を分析する
第 13 回	環境を題材にしたアニメや漫画は現状を伝えられているのか？ YouTube 動画で見られる環境系動画の分析
第 14 回	科学の進歩と環境問題１ ドラえもんは「何世紀」から来ていたのか？想定された未来と現在との矛盾
第 15 回	科学の進歩と環境問題２ 環境問題は科学で解決可能なのか？

予習・復習

・予習：次回の講義で扱うテーマのチェックをしておいてください。授業内で予習や事前準備等の指示をすることもあります。

・復習：原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらいます。講義時間内に行ないますが、これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにする訓練だと考えてください。まれに復習の一環としてレポート提出をしてもらう時があります。

履修上の注意

本講義を履修したのちは、環境問題への理解をより深めることができる『自然科学』や『環境論』を履修することを是非お勧めします。むろん、それらをまず履修してからあるいは並行して履修しながらでも構いません。なお、遅刻については公共交通機関の遅延を除き、授業開始 20 分以上が経過した際の入室は認めていません。授業中のスマホも厳禁です。

到 達 目 標

講義の目的は、①アニメや漫画で描かれる虚実を通じて、現実的に起こっている「環境問題」への興味・関心へとつなげ、自身を取り巻く自然や社会が密接につながっていることを実感できるようになること、②アニメや漫画をきっかけに知的好奇心を刺激し、新書や文庫へ、さらにその先の専門的な書籍へと関心を広げてもらうといった「学問的探究心の向上」、にあります。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解してい る。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしてい る。	内容についての理解ができていな い。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の社会問題などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

講義時間内実施レポート 70%、学期末レポート 30%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配布します。

動物愛護　～動物たちの現状と課題～	山田佐代子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

日本の動物愛護活動は東日本大震災を境に犬猫の保護団体が飛躍的に増加し、愛護活動が盛んに行われ「保護犬猫」という言葉が広く認知されるようになっている。2019 年の動物愛護法改正では飼養施設基準など数値規制も取り入れられた。動物たちが置かれる状況にも徐々に改善が見られる一方、活動内容の問題を指摘される団体もある。本講義では、本年 2025 年は動物愛護法改正が予定されていることから、犬猫以外の動物にも目を向け、当然整備されていると思われている事が手つかずであることや、一般の認識と異なる点など動物たちを取り巻く現状を紐解き、動物の好き嫌いに関わらず全ての人に関係する社会的問題として理解し、法律への関心を持つこと目的に講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、履修上の注意）：神奈川県動物愛護協会について
第 2 回	動物を取り巻く環境　：法律で区分されている動物種を知る
第 3 回	なぜノラ猫がいるのか？　：猫の歴史、犬と猫の問題の違い、TNR・地域猫活動について
第 4 回	犬猫の多頭飼育、飼育放棄：多頭飼育崩壊・飼育放棄のプロセスと課題
第 5 回	巨大化したペット産業①　：犬猫の流通、遺伝性疾患、動物取扱業の法規制
第 6 回	犬猫殺処分ゼロ　：スローガンと現実のギャップ、しつけ、飼育者の問題
第 7 回	巨大化したペット産業②　：犬猫以外の動物たちの取扱い
第 8 回	動物輸入大国ニッポン　：外来生物問題の拡大放置の歴史と外来生物法
第 9 回	展示動物とは？　：動物園の問題とエンリッチメントについて
第 10 回	家畜の福祉とは？　：日本の畜産業の現状とアニマルウエルフェア
第 11 回	実験動物の福祉とは？　：動物実験の歴史と現状
第 12 回	動物虐待と法規制　：動物虐待とは何か、動物愛護法改正と動物法医学の必要性
第 13 回	海外の動物福祉　：動物愛護先進国の歴史と考え方
第 14 回	動物愛護と動物福祉　：動物愛護団体の変遷、客観的な視点と想像力の重要性
第 15 回	動物愛護法の改正と今後：法改正の規制範囲と飼育者責任等について

予習・復習

・予習：次回講義に関する課題を出し、講義前にレポート記載してから講義を受けていただきます。

・復習：前回の講義内容から 2 問程度の小テストを行います。

履修上の注意

・授業中にワークショップを取入れたいと思います。
・動物愛護は現在進行形の問題をお話ししますので、現状や課題を知り改善策を自分で考えて頂くことが大切です。レポートは自分の言葉で記載して頂くようお願いします。
・疑問や質問はできるだけ授業中に発言して頂くようお願いします。
・30 分以上の遅刻は欠席とします（但し、交通機関の遅延や通院等の証明がある場合を除く）。

到 達 目 標

・動物の問題は動物の好き嫌いに関わらず、社会に組み込まれて起きている事を理解していただくこと。
・単に「可愛い」「可哀そう」などの表面的な視点ではなく、何故この状態があるのかに疑問を感じ、原因や関係性に興味を持って考えていただくこと。
・疑問を感じた時に質問できることや放置せず調べ、考えるようにすることを身につけていただくことも目標です。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができている	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容を 8 割程度理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容が理解できていない
多角的視野（30%）	客観的な複数の視点で物事を論理的に捉えた上で自分の意見を明確に述べることができている	客観的な視点と自分の意見を論理的に述べることができている	客観的な視点と自分の意見を述べることができているが論理性に欠ける	客観的に見る努力は感じられるが論理性に欠ける	偏った立場から自分の意見を展開している
考察力と説明する力（40%）	課題に関する情報収集と考察に加え自分の意見や疑問を明瞭に表現できている	課題に関して考察した自分の意見や疑問を明瞭に表現できている	課題に関して考察した自分の意見や疑問の表現がやや不明瞭	課題に関して考察した自分の意見や疑問の表現が不明瞭	課題に関する考察や意見が表現されていない

評価方法

授業内レポート及び小テスト 60%、学期末レポート 30%、受講態度 10%

テキスト

・資料配布

生命の尊重　～ゆるやかな共生社会へ向けて～

中野真樹子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

「いのち」が見えづらくなっている社会の中、生きづらさを感じることも多いのではないでしょうか。本講義では、動物や植物など生きもの達、社会的弱者、ジェンダー、いじめ、貧困、自然環境、など様々な観点から現代社会を見直し、「生命の尊厳」と向き合うことを目標とした講義です。個々の発言や質問を尊重いたします。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス（当講義の概要）～「いのちとはなんだろう？」（地球の生命史等）
第 2 回	動物から学ぶいのち：ペットから野生動物、畜産動物等の現状と課題を考える。
第 3 回	植物から学ぶいのち：雑草から森林、田畑の作物等、植物たちの「生き様」を知る。
第 4 回	農業と関わるいのち：若者の新規就農や移住、さらに有機農業等について知る。
第 5 回	温泉という「いのちの泉」：温泉の種類や効能、さらに温泉に関する資格等を学ぶ。
第 6 回	昔話におけるいのち：昔話、妖怪、民俗学、アイヌ等の先住民の世界観等を知る。
第 7 回	エシカル消費といのち：生活の中で私達ができる倫理的な消費活動について考える。
第 8 回	野宿・路上生活といのち：ホームレス状態にある人や動物の現状や課題を知る。
第 9 回	若者や女性の貧困問題を考える：ゲストスピーカー（雨宮処凛氏）による講義。
第 10 回	負のベクトルをなくすために：いじめ、ハラスメント、DV 等について考える。
第 11 回	心のセルフケア：ワークショップ（臨床心理士チームと ZOOM セッション）等。
第 12 回	二利（自利・利他）を生きる：ゲストスピーカー（玉置妙憂氏）による講義。
第 13 回	多様性を生きる①：人間社会における多様性（ジェンダー等）、生物多様性を考える。
第 14 回	多様性を生きる②：日本と朝鮮半島の文化交流の歴史等を知る（韓国打楽器演奏あり）。
第 15 回	総括～いのちのにぎわい＆共に生きるということ

予習・復習

予習・復習については、授業のなかで提示するようにします。講義ごとに、レポート（意見・感想・質問等含む）を必ず提出していただきます。レポートについては、次の講義までに、全員宛にメールで、意見や感想などへの対応をいたします。

履修上の注意

「なぜだろう、どうしてだろう？」という気持ちを常に大事にしてください。質問があれば、講義中でも講義後でも（メールでも）遠慮なくどうぞ！なお、ゲストスピーカーの講義については、都合により講義の順番が替わる可能性があることをご承知ください。

なお、１５分以上の遅刻ならびに私語については、成績評価において減点対象となります。ご注意ください。

到 達 目 標

現代社会において、「自ら生き延びる」ことが重要視される中で、他の生命（動植物、他者であるヒト）の存在を認め、多様性を尊び、個々の存在意義（レーゾンデートル）を考え、ゆるやかで体温のある「共生」について考えていく等、卒後の「長く続く人生」を見据えた生命観・世界観を培う一端になればと願います。

本講義で学び考えたことが、就職や進学等あらゆる分野とどのように関わり、つながっていくのかを理解し、今後の生き方を考えてもらうことができれば幸いです。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた 自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが 授業内容の理解に 多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力（30%）	解法が分からない 他人にアドバイス ができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力（レポート）（30%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

講義ごとの提出レポート　８０％
講義内での発表その他　２０％

テキスト

講義のたびに、作成スライド（パワーポイント）や参考資料を印刷して、その都度お渡しいたします。

ソーシャルメディア

～SNS のビジネス活用と課題：LINE、Instagram、YouTube、X など～

劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2 年	後期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

ソーシャルメディアとは、個人や企業が情報を発信・共有することによって形成されるインターネットサービスである。本授業では、SNS のビジネス活用に関する主要なキーワード、理論、および実践スキルを考察し、実際の企業事例を取り上げながら、その実態や課題についての理解を深めることを目指して講義する。授業で得た専門知識を応用することで、自らの視野を広げ、新たな可能性を探求することを期待する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の狙い、全体像、進め方、評価方法および受講上の注意点
第 2 回	インターネットサービスにおける SNS の位置づけ
第 3 回	SNS の類型と企業の活用実態
第 4 回	目的別 SNS とコンテンツ制作
第 5 回	マーケティングツールとしての SNS 活用
第 6 回	SNS における広告とコンテンツ
第 7 回	ビジネスにおけるメジャーSNS の比較検討と選択
第 8 回	中間まとめ（前半までの授業内容の振り返り、復習問題・解説）
第 9 回	LINE のビジネス活用と注意点
第 10 回	YouTube のビジネス活用と注意点
第 11 回	X（Twitter）のビジネス活用と注意点
第 12 回	Facebook のビジネス活用と注意点
第 13 回	Instagram のビジネス活用と注意点
第 14 回	メジャーSNS のビジネスモデルと経営成績
第 15 回	期末まとめ（後半の授業内容の振り返り、復習問題・解説）

予 習 ・ 復 習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計 6 回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・ソーシャルメディアの基礎知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・ソーシャルメディアの知識を応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

①受講姿勢：７０%（授業内小課題またはリアクションペーパーの提出）
②期末試験：３０%（持込可）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

テーマパーク論

～毎回ワクワク、テーマパークを知り尽くして、そして目指そう～

冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

持続可能な観光産業の育成において旅行消費額を増加させるには、「モノ」消費から「コト」消費へのシフトが重要である。エンターテイメント分野の中で身近で人気のあるテーマパークをマネジメントの観点から深く考察することで「コト」消費の促進へとつなげることが可能となる。成功と失敗を繰り返してきた歴史、成長しているテーマパークと運営企業の戦略ポイントを始めとしたエンタメ産業を、講師の旅行会社在籍時の実務経験を生かして分かりやすく、さらに人気の職業に就くための構成とした他にはないテーマパーク論を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画と成績評価の方法の説明、テーマパークとは
第 2 回	世界・日本のテーマパーク産業の成り立ちと発展の歴史、テーマパークランキング
第 3 回	東京ディズニーリゾート（TDR）の考察①　誘致のドラマと SCSE
第 4 回	TDR の考察②　非日常空間と独自の世界観
第 5 回	TDR の考察③　コロナ後の戦略、大型投資による今後の成長
第 6 回	TDR の考察④　日本版ディズニークルーズの実態とチャンス
第 7 回	ユニバーサルスタジオジャパン（USJ）の考察①　誘致～開園、そして低迷
第 8 回	USJ の考察②　USJ を蘇らせた V 字回復マーケティング戦略、感動の言葉とその戦略
第 9 回	USJ の考察③　USJ を再生したスタッフたちがエンタメ業界の未来を変える
第 10 回	ハウステンボス（HTB）の考察　倒産からカリスマ経営者による再生、そして今後
第 11 回	サンリオピューロランドの考察　女性社長の改革が奇跡の V 字回復を生んだ
第 12 回	その他のテーマパーク①　新しい体験型「イマーシブ」その魅力とは
第 13 回	その他のテーマパーク②　沖縄新テーマパーク「ジャングリア」の全貌
第 14 回	その他のテーマパーク③　世界が注目する日本のテーマパーク・エンタメ業界の今後
第 15 回	振り返り、理解度小テストの実施、最終課題レポートの提出

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。

・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を２回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

・授業計画は変更になることがある。
・フィールドワークの実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることもある。
・フィールドワーク、企業訪問を実践する際の交通費など実費は学生負担となる。安全対策に留意して行う。
・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。

到 達 目 標

１．テーマパークの知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
２．テーマパーク運営の実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
３．テーマパークの現状や課題を客観的に捉えることができる。
４．テーマパークに応募する準備や就活戦略を計画することができる、それを他の業界に応用することができるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０%）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０%）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０%）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・平常点（毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の提出）　　５０％
・理解度小テスト（前半・後半、２回実施）　３０％
・最終課題レポート　２０％

テキスト

・テキストの指定はしない。
スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

健康ビジネス論～新たな健康ビジネスで地球上の人々を幸福に～

一戸　真子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

生活習慣病が死因の上位を占める中、毎日のライフスタイルそのものが病気の原因や予防に深く関わっていることが次第に明らかにされつつある。急成長する健康ビジネスの実態について講義し、良質な健康ビジネスの発展は、世界中の人々を健康に導くことができることについても理解を深められるよう講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	健康ビジネスとは？
第 2 回	ヘルスプロモーション、プライマリ・ヘルスケア、健康増進法
第 3 回	セルフケア、セルフメディケーション時代への突入
第 4 回	五感に働きかける健康ビジネス
第 5 回	衣・食・住のすべてに関連する健康ビジネス
第 6 回	食、運動、休養・睡眠
第 7 回	人間関係と健康ビジネスーストレス・コーピング
第 8 回	フード・ビジネス①和食のグローバル化、メディカル・ハーブ
第 9 回	フード・ビジネス②トクホと栄養機能食品、サプリメント
第10回	フィットネスビジネス
第11回	ヒーリング・ビジネス、リラクゼーション・ビジネス
第12回	アミューズメント・レクリエーションビジネス
第13回	生活関連（日用品・衛生用品)、フレイル予防ビジネス
第14回	アンチエイジング・ビジネス、
第15回	グローバル・ヘルス・ビジネスー健康ビジネスの未来

予習・復習

・予習：次回の単元についての教科書部分の予習を1時間程度毎回行うこと。

・復習：授業での実施内容について、1時間程度の振り返りのための復習を毎回行うこと。

履修上の注意

遅刻（20 分まで）3 回で欠席 1 回とする。

到 達 目 標

1．健康ビジネスの対象について理解できる。
2．健康ビジネスの種類と内容について説明できる。
3．健康ビジネスの必要性について理解できる。
4．人々の健康に必要な要素について説明できる。
5．時代のニーズに合った新たな健康ビジネスを創造することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 50 %）	深い理解に基づき自身の言葉で置き換えて表現きる。	ほぼ 100%理解している。	理解はしているが、十分ではない。	あまり理解していない。	理解できていない。
説明する力（ 30 %）	具体的な例も取り上げ、きちんと説明できる。	ほぼ 100%説明することができる。	説明はできるが、内容は十分ではない。	やや不十分である。	説明できない。
創造する力（ 20 %）	独創的に創造することができる。	ほぼ 100%創造することができる。	創造することはできるが、不十分である。	十分に創造することができない。	創造できない。

評価方法

授業内レポート 40%、期末試験 60%

テキスト

・教科書名：図解入門業界研究　最新健康ビジネスの動向とカラクリがよ～くわかる本[第３版]
・著 者 名：川上清市
・出版社名：秀和システム
・出 版 年（ISBN）：2022 年（978 - 4798067506）

スポーツマネジメント論～スポーツ組織の経営活動を知る～

大野　貴司

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

本講義では、プロスポーツクラブ、スポーツNPO、スポーツ用品メーカー、フィットネスクラブ、スポーツ小売店、スポーツイベント会社など、スポーツを「事業」として行う活動の総称である「スポーツマネジメント」について講義する。具体的には、「事業」としてのスポーツの特性のみならず、事業としてスポーツを取り扱う組織の経営活動や管理方法について、実際の企業や組織の経営活動を事例に挙げながら講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	スポーツマネジメントとは何かを理解する。
第 2 回	東北楽天ゴールデンイーグルスの事例からスポーツマネジメントの基本原理を理解する。
第 3 回	アシックスの事例からスポーツ企業の経営戦略について理解する。
第 4 回	アルビレックス新潟の事例からスポーツ企業のマーケティングについて理解する。
第 5 回	スポーツ企業の事例からスポーツ企業の組織構造について理解する。
第 6 回	北海道日本ハムファイターズの事例からスポーツ組織のミクロ組織的側面について理解する。
第 7 回	大松博文と岩出雅之の事例からスポーツ組織のリーダーシップについて理解する。
第 8 回	アシックスの事例からスポーツ企業の国際経営について理解する。
第 9 回	マンチェスター・ユナイテッドの事例からスポーツ企業の多角化について理解する。
第10回	ミズノの事例からスポーツ企業の経営者に求められる企業家精神について理解する。
第11回	カーブスの事例からスポーツ企業におけるイノベーションについて理解する。
第12回	ビジネスとしての日本プロ野球（NPB）の特徴、現状、課題について理解する。
第13回	ビジネスとしてのＪリーグの特徴、現状、課題について理解する。
第14回	ニッポンランナーズの事例からスポーツNPOのマネジメントの特徴について理解する。
第15回	IOCを事例としてスポーツイベントのマネジメントの特徴について理解する。

予習・復習

・予習：教科書の該当箇所を読み込んで、疑問点を整理しておくこと。

・復習：教科書の該当箇所を読むこと。講義で配布したプリントやノートを読み返すこと。

履修上の注意

・教室のキャパシティに余裕がある場合は、着席制限するので教員の指示に従うこと。
・公欠は個別に課題を提示するので、課題を提出すること。

到 達 目 標

・「スポーツマネジメント」とは何か、自分の言葉で説明できるようになること。
・スポーツ企業・組織の経営事例を、理論を用いながら説明できるようになること。
・スポーツマネジメント現象を分析するためのフレームワークを獲得すること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業の理解度（50%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ完全に理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（30%）	スポーツビジネスが抱える問題について自分なりの解決策を考え、報告書を作成し、人前でプレゼンすることができる。	スポーツビジネスが抱える問題について自分なりの解決策を考えることができる。	スポーツビジネスが抱える問題について自分なりにではあるが現状分析ができる。	自分が関心のあるスポーツについてはビジネス的な側面について自分なりに現状分析ができる。	スポーツビジネスが抱える問題について関心が無く、全く考えることができない。
論理的な文章作成能力（20%）	スポーツビジネスの実務家及び研究者に対して提言性と論理性の高い内容のレポートを作成することができる。	論理性を有し、スポーツビジネスの実務家及び研究者に対し、多少の提言性のあるレポートを作成することができる。	不足する部分があるが論理性を備えたレポートを作成することができる。	不足する部分はあるが、自分の言いたいことは読み手に最低限伝えることができる文章を作成できる。	内容について自分でも理解できておらず、読み手にも伝えることができない。

評価方法

・授業内課題　82%（授業中に提示）
・レポート　18%（教科書から出題）

テキスト

・教科書名：スポーツ経営学入門―理論とケース―（第 4 版）
・著 者 名：大野貴司
・出版社名：三恵社
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-86693-724-3）

スポーツマーケティング論

～ｽﾎﾟｰﾂﾋﾞｼﾞﾈｽﾓﾃﾞﾙの理解とﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ戦略立案のための発想法～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

スポーツビジネスの新奇性や特殊性のみに焦点を当てることなく、スポーツビジネスの実務で活用できるマーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）とスポーツビジネスのマネジメントに欠かせないマーケティング戦略立案・戦術策定のための発想法を、担当教員の広告会社及びリサーチ会社でのスポーツビジネス実務経験に基づいて、具体的な事例を取り上げて講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	スポーツマーケティングとは？ スポーツマーケティングの定義／スポーツビジネスモデルとトリプルミッション
第 2 回	スポーツビジネスとマーケティングの基本 ① 日本プロ野球の概略／横浜 DeNA ベイスターズにみるスポーツビジネスの特徴
第 3 回	スポーツビジネスとマーケティングの基本 ② 横浜 DeNA ベイスターズのマーケティング戦略と戦術
第 4 回	スポーツビジネスとスタジアム・アリーナのマーケティング スタジアム・アリーナの重要性／プロスポーツチームによるスタジアムの所有・管理
第 5 回	スポーツビジネスとメディア テレビ放映権／ネット配信事業者・SNS プラットフォーマーが獲得した放映権
第 6 回	スポーツビジネスと広告・プロモーション スポーツとスポンサーシップ／若者とつながるための新しい潮流（e スポーツ）
第 7 回	オリンピックのマーケティング 世界 No.1 のイベントブランド／オリンピックのブランドエクイティと課題
第 8 回	FIFA ワールドカップのマーケティング 世界 No.1 のスポーツコンテンツ／FIFA ワールドカップのマーケティング課題
第 9 回	ヨーロッパのサッカーリーグ・クラブのマーケティング プレミアリーグ／ブンデスリーガ／ラ・リーガ／セリエ A／リーグ・アン
第 10 回	アメリカのプロスポーツのマーケティング NFL／MLB／NBA／NHL／MLS
第 11 回	日本のプロスポーツのマーケティング プロ野球／J リーグ／バスケットボール／ラグビー
第 12 回	スポーツ用品メーカーのマーケティング アディダス／ナイキ／アシックス／プーマ
第 13 回	スポーツビジネスによる地方創生 地域マーケティング／e スポーツによる地方創生
第 14 回	スポーツ関連企業のマーケティング活動の実例を調べる（グループワークによる資料作成） どのような人に・どのような価値を・どのように届けているのか
第 15 回	スポーツ関連企業のマーケティング活動の実例を発表する（ｸﾞﾙｰﾌﾟによるﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ） どのような人に・どのような価値を・どのように届けているのか

予 習 ・ 復 習

・予習：講義で取り上げるテーマは、必ずチェックすること（授業内で事前準備の指示あり）。
・復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること（他に、授業内で提出課題の指示あり）。
※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 身近なプロスポーツチームやクラブ、スポーツ用品メーカー・小売店、スポーツ施設、スポーツイベント等のマーケティング活動を想定し、講義で解説するテーマに当てはめて考える習慣を身につけること。
2. 受講者の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. スポーツビジネスモデルを理解し、スポーツビジネスの現状と課題・将来性を説明することができる。
2. マーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）を理解し、スポーツビジネスに応用することができる。
3. 身近なプロスポーツチームやクラブ、スポーツ用品メーカー・小売店、スポーツ施設、スポーツイベント等の「マーケティング戦略と戦術」を説明することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
スポーツビジネスの課題・将来性の説明（30%）	スポーツビジネスモデルの知識の習得にとどまらず、分析力や創造力を発揮して、スポーツビジネスに関する説明ができる。	スポーツビジネスモデルのフレームワークを用いて、スポーツビジネスに関する説明ができる。	スポーツビジネスモデルの基本とフレームワークを説明できる。	スポーツビジネスモデルの基本を理解しているが、フレームワークまでは説明できない。	スポーツビジネスモデルの基本もフレームワークも十分に説明できない
マーケティングのスポーツビジネスへの応用（30%）	マーケティングの知識の習得にとどまらず、分析力や創造力を発揮して、スポーツビジネスに関する説明ができる。	マーケティングのフレームワークを用いて、スポーツビジネスに関する説明ができる。	マーケティングの基本とフレームワークを説明できる。	マーケティングの基本を理解しているが、フレームワークまでは説明できない。	マーケティングの基本もフレームワークも十分に説明できない
スポーツ関連企業のマーケティング活動の説明（40%）	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠と論理的な説明に基づき、正確かつ説得力のある結論を導いている。	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠に基づき、論理的な説明がほぼできている。	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠を示して概ね正確に説明しているが、読み手を納得させる書き方や結論となっていない。	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、一部根拠を示しているが、参照したデータや文章の意味を取り違えたり、論理的な説明ができていなかったりする。	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠がまったく示されておらず、情緒的な文章が続き、論理的な説明ができていない。

評価方法

後期定期試験 40%、グループワークによる資料作成とプレゼンテーション 30%、受講態度 30%

テキスト

- 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
- 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「スポーツマーケティング論」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

スポーツ心理学　～日常生活への応用～

相羽　枝莉子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

スポーツ心理学の基礎知識を幅広く身につけ，健康・スポーツにおける課題に対して，スポーツ心理学の観点から対処法を理解できるよう講義する。また，健康増進や競技力向上に活用できるような実践的素質を高めることを目指し，講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	スポーツ心理学の概要と小史
第 3 回	スポーツにおける動機づけ・目標設定
第 4 回	体育心理学
第 5 回	運動学習
第 6 回	運動の学習過程・練習法
第 7 回	運動指導の心理学
第 8 回	試合前の心理的準備
第 9 回	メンタルトレーニング①
第10回	メンタルトレーニング②
第11回	スポーツ競技者のメンタルヘルス
第12回	スポーツとカウンセリング
第13回	スポーツ社会心理学
第14回	スポーツと心理的健康
第15回	総括（授業内レポート）

予習・復習

・予習：各回の資料やメモした内容などを読み返すこと。

・復習：各回の最後に，次回の講義に向けたキーワードを伝えるので，それについて調べること。

履修上の注意

予習：（第１回）シラバスを読んでくること。
（第２回以降）各授業内で指定する資料に目を通してくること。

復習：講義の内容を踏まえ，自身の運動・スポーツの機会でどのように活かすことができるかを整理すること。

到 達 目 標

①運動・スポーツにおける心理学的課題に対して問題意識をもち，理解できる。
②スポーツ心理学の知識を基に，運動・スポーツにおける課題の解決に向けた自分の考えについて，ディスカッションやレポート課題で説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識・理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修が認められる。	講義内容をほとんど理解している。	講義内容は理解しているが，やや不足がある。	到達目標に達していることが認められる。	到達目標に達していない。
思考力・独自性（60%）	課題に対する解決方法について，心理学の専門用語を用いて説明できる。	課題に対する解決方法について，心理学的視点で考えることができる。	資料を参考にすれば，独自で課題解決方法について説明できる。	他者のアドバイスがあれば，課題解決方法について説明できる。	他者のアドバイスがあっても，課題解決方法について説明することができない。

評価方法

・知識，理解度（30%）：レポート課題およびリアクションペーパーで評価する
・思考力（50%）：レポート課題およびリアクションペーパーで評価する
・積極的な参加（20%）：授業への参加態度，授業の出席率で評価する

テキスト

教科書は，指定しない。
参考図書
・「スポーツ心理学の挑戦－その広がりと深まり」日本スポーツ心理学会 編，大修館書店.
・「よくわかるスポーツ心理学」中込四郎，伊藤豊彦，山本裕二 編著，ミネルヴァ書房.

特殊講義Ⅰ　～ビジネスデータ分析入門～	劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

データ分析力とは、多くの情報からパターンを見つけ出し、問題を解決する力である。例えば、お菓子の売り上げデータを分析することで、人気のある味を特定することができる。本授業では、ビジネスデータ分析に関する主要なキーワード、理論、および実践スキルを考察し、実際の企業事例を取り上げながら、その実態や課題についての理解を深めることを目指して講義する。授業で得た専門知識を応用することで、自らの視野を広げ、新たな可能性を探求することを期待する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の狙い、全体像、進め方、評価方法および受講上の注意点
第 2 回	データ分析とは：データ駆動社会、第４次産業革命、Society5.0 との関係
第 3 回	データの探し方：統計ダッシュボード、e-Stat（イースタット）、オープンデータの利活用
第 4 回	データの可視化の仕方： データの加工、構造化とグラフ作成
第 5 回	データの特徴の捉え方：データの特性の推測
第 6 回	問題の解決（１）全数調査と標本調査
第 7 回	問題の解決（２）データの分析と結論
第 8 回	中間まとめ（前半の授業内容の振り返り、復習問題・解説）
第 9 回	プログラミング基礎と Python 入門
第 10 回	Python を用いた数理解析（演習）
第 11 回	ビッグデータ・人工知能（AI）の実例、最新動向と限界（スモールデータの可能性）
第 12 回	データ利活用の留意点：情報倫理と情報セキュリティ
第 13 回	データ分析実践演習（１）
第 14 回	データ分析実践演習（２）
第 15 回	期末まとめ（後半の授業内容の振り返り、復習問題・解説）

予習・復習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計 6 回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・ビジネスデータ分析の基礎知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・ビジネスデータ分析の知識を応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

①受講姿勢：７０%（授業内小課題またはリアクションペーパーの提出）
②期末課題：３０%（第 15 回授業内で作成・提出）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

特殊講義Ⅱ　～SPI（非言語）対策講座～	小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

入社試験のひとつ、「SPI 試験（非言語）」対策の授業です。文系学生が苦手意識を持ちやすい非言語分野のなかで特に頻出問題・必出問題についての基本的な解法パターンについて講義を行ないます。社会人として恥ずかしくない程度の数学知識を得るためにも、またこれまで数学を避け続けて数学の基本的な知識を持ってないなどの、特に数学が苦手な人は必ず受講するようにしてください。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	SPI とは何か？/ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	習熟度判定テスト 中学生レベルの数学でどの分野の知識が欠落しているのかを知るためのテストを実施
第 3 回	基本的な計算の復習その２ 倍数，約数、公倍数，公約数
第 4 回	基本的な計算の復習その３ 分数計算，四則計算
第 5 回	基本的な計算の復習その４ 文字式
第 6 回	基本的な計算の復習その５ 方程式
第 7 回	基本的な計算の復習その６ 割合/比率/分数【応用】
第 8 回	割合/比率/分数【基礎】
第 9 回	割合/比率/分数【応用】
第 10 回	料金計算【基礎】
第 11 回	料金計算【応用】
第 12 回	速さと距離【基礎】
第 13 回	速さと距離【応用】
第 14 回	濃度計算【基礎】
第 15 回	濃度計算【応用】

予習・復習

・予習：次回の授業内容について各自事予習するようにしてください。

・復習：講義毎に配布されるプリントを基に必ず復習をするようにしてください。

履修上の注意

本授業は、「基礎的な問題への理解」を第一目標にした、特に数学が苦手な人向けの内容になっています。社会人として恥ずかしくない程度の数学知識を得られる最後のチャンスだと思って受講するようにしてください。なお、遅刻については公共交通機関の遅延を除き、授業開始 20 分以上が経過した際の入室は認めていません。授業中のスマホも厳禁です。

到 達 目 標

①数学への苦手意識をなくし実力をつける、②SPI 非言語分野の基礎的問題について理解できる、③講義後は復習を行ない、試験にチャレンジできるレベルにまで到達する、ことを目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め，SPI 対応もできている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち簿記会計やなどと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

講義時間内提出物 20%，定期テスト 80%

テキスト

・教科書名：なし
　授業毎に用意した問題用紙を配布します。

特殊講義Ⅲ　～基本的なパソコン操作の再確認～	小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2 年	前期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

パソコンの操作に自信がない初心者向けの講義です。パソコンおよび、Word や Excel などの office ソフトの基本的操作方法についてゆっくり丁寧に指導します。『情報処理』の講義でパソコンスキルが身につかなかった、本当に身についたのか不安が残るといった、特にパソコンに苦手意識を持っている人は必ず受講するようにしてください。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス（講義の進め方や成績の評価方法などについての説明）
第 2 回	パソコンの基本操作（PC の各種基本設定と変更方法など）
第 3 回	パソコンの基本操作（簡単な文字入力とタイピング練習）
第 4 回	インターネット検索（ネット検索による情報収集方法）
第 5 回	電子メールの設定と使用（メール交換・ルールとマナー）
第 6 回	電子メールの設定と使用（フリーメールの取得）
第 7 回	インターネット・電子メールを利用する際の注意（ウイルス対策ほか）
第 8 回	Word を使ったイラスト作成（簡単なイラストの書き方）
第 9 回	Word を使った文章作成（文字の大きさや色，書体などの使い分け）
第 10 回	Word を使った文章作成（長文タイピング）
第 11 回	Word を使った文章レイアウト（チラシ作成）
第 12 回	Excel を使った表作成と表計算（表作成）
第 13 回	Excel を使った表作成と表計算（表計算）
第 14 回	Excel を使った表作成と表計算（グラフ作成）
第 15 回	テスト対策

予 習 ・ 復 習

・予習：「キータッチの練習を毎日必ず 30 分以上すること」を予習の代わりとします。

・復習：講義で学んだ内容について必ず復習をするようにしてください。

履修上の注意

ビジネス実務学科所属の学生は必修科目である『情報処理』を受講しなければなりませんが、その授業が十分に理解できなかった、あるいはもう少しゆっくりのペースで受講したかった、操作方法が身についたのか不安が残る、などもう一度初心者向けのパソコンの講義を受けたいと考える人向けの内容となっています。社会に出る前の，基本的なパソコン操作を学べる最後のチャンスだと思って受講するようにしてください。なお、遅刻については公共交通機関の遅延を除き、授業開始 20 分以上が経過した際の入室は認めていません。授業中のスマホも厳禁です。

到 達 目 標

①手元をあまり見なくてもキーボードの操作ができるようになる、②パソコンへの苦手意識をなくし基本的操作方法を身につける、③資格試験にチャレンジできるレベルにまで到達する、ことを目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め，資格取得にも挑戦できるレベルに至る。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味を持ち資格取得を念頭に考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

講義時間内課題提出 50%、定期テスト 50%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配布します。

経営学（旧課程）　～経営学に対する理解を深める～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

1年生のときに学んだ旧課程の必修科目「経営学総論」をベースに、経営学の理解を深めるのがこの授業のねらいですが、特に本学のカリキュラムに鑑み、「経営戦略論」と「経営組織論」を中心に学びます。これらの学問分野の中身や必要性を具体的に理解するために、映像を見て考える授業です。

具体的には次のようなことを指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業のねらい、授業の受け方、予習・復習のしかた、評価についての説明
第 2 回	経営者とは
第 3 回	経営理念その１：経営理念の必要性
第 4 回	経営理念その２：経営理念に必要なもの
第 5 回	経営戦略論その１：経営戦略はどのように生まれるのか
第 6 回	経営組織論その１：コンフリクト・マネジメント
第 7 回	確認：これまで学んだことを理解できているか、学び方はこれでいいか確認してみよう
第 8 回	経営組織論その２：組織とは何か
第 9 回	経営組織論その３：経営の中のコミュニケーション
第 10 回	マネジメントとは何か
第 11 回	企業は何のために：経営目的と社会目的
第 12 回	企業は何のために：目的はいつ・どのように問われるのか？
第 13 回	企業は何のために：議論の準備
第 14 回	企業は何のために：議論
第 15 回	まとめと振り返り

予習・復習

予習・復習に求めることは確認・要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の2点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②学んだ概念や理論が、ここにも当てはめることができるのではないかと思う経験や出来事を探してみてください。

・予習：前回の授業のポイントを1分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は成績に反映させます。
2 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
3 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。

到 達 目 標

この授業が終わる頃、次のような状態に到達することを目標とします。
1　経営戦略とは何か、具体例を挙げて言えるようになる。
2　組織をマネジメントすることの難しさがどこにあるか、具体例を挙げて言えるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 50%）	指導内容を深く理解した上で自分の意見や考えを持つことができている。	指導内容を十分理解できている。	指導内容を理解できていないところがある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度（ 50%）	意欲的に受講し、教室全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講し、教室全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に受講している。	意欲的に受講しているとは言えない。	意欲が見られない。

評価方法

・学期末試験（50%）：ルーブリックの「理解度」にあたります。
　　試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
・受講態度　（50%）：ルーブリックの「受講態度」にあたります。

テキスト

教科書はありません。教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分で確実に実行してください。

国語(書写を含む)　～言語活動で国語力を高めよう～	佐内　信之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

小学校における国語という教科の位置づけと内容の概略を理解する。さらに、言葉の手本となるべき教員自身の国語に対する意識を高め、思考力・判断力・表現力につながる言葉の力（話す力・聞く力、書く力、読む力）を確かなものにし、具体的な言語活動を通して各技能を磨き高めるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　国語「概説」
第 2 回	ことばの力1　話す力・聞く力
第 3 回	ことばの力1　書く力1－文字を書く－
第 4 回	ことばの力1　書く力2－文章を書く－
第 5 回	ことばの力1　読む力
第 6 回	文章のいろいろ　説明的文章
第 7 回	文章のいろいろ　文学的文章
第 8 回	文章のいろいろ　言語文化
第 9 回	ことばの理解　表記
第10回	ことばの理解　ことばのきまり
第11回	ことばの理解　語と意味
第12回	ことばの力2　音読の力
第13回	ことばの力2　コミュニケーションの力
第14回	ことばの力2　情報活用の力
第15回	ことばの力2　論理の力

予習・復習

・予習：授業計画にしたがって、事前に教科書の該当箇所を読んでおく。

・復習：課題には自分の感想や意見を自由に表出し、各自の課題解決能力を評価する。

履修上の注意

・授業の中に演習形式の内容を多用していきたいと考えている。積極的な参加意欲を期待したい。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・言語活動を通して国語力を構成する「考える力」「感じる力」を深める。
・日常の言語生活において「聞く・話す」「読む」「書く」という具体的な言語活動のスキルを高める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限は理解している。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力（30%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自に課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力（レポート）（30%）	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点はあるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

授業内レポート 70%、学期末レポート 30%

テキスト

・教科書名：言語活動中心　国語概説　改訂版－小学校教師を目指す人のために－
・著 者 名：岩﨑淳ほか
・出版社名：学文社
・出 版 年（ISBN）：2022 年（9784762031274）

生活　～体験を通して気づきの質を高める～	中野　英之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

小学校低学年で設定されている教科「生活科」について、その成立、目標、学習活動例についての学習を通して、低学年期の児童の学びについて考える。特に、本授業においては、生活科の９つの内容について、実際に具体的な活動を通して各内容の理解を深めるとともに、児童の気づきを促す環境構成の在り方について深く考察することを重視する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス、生活科の歴史的背景と意義について講義する。
第 2 回	「生活」の内容と目標について講義する。
第 3 回	（1）「学校と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 4 回	（2）「家庭と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 5 回	（3）「地域と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 6 回	（4）「公共物や公共施設の利用」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 7 回	（5）「季節の変化と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 8 回	（6）「自然や物を使った遊び」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 9 回	（7）「動植物の飼育・栽培」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 10 回	（8）「生活や出来事の伝え合い」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 11 回	（9）「自分の成長」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 12 回	科学原体験について講義を行うとともに、活動を通して理解を深める①
第 13 回	科学原体験について講義を行うとともに、活動を通して理解を深める②
第 14 回	生活科の授業づくりの基礎について講義する。
第 15 回	授業全体の振り返りを行う。

予習・復習

・予習：学習内容に関する学習指導要領の内容を事前に読んでおいてください（週１時間）。
・復習：毎回の授業に関する振り返りシートを仕上げ、授業の振り返りを行ってください（週１時間）。

履修上の注意

・学習内容に関する学習指導要領の内容を事前に読んでください（週 1 時間）。授業後は授業で紹介する参考文献等も参考にしながら振り返りを行ってください（週 1 時間）。
・天候などの理由で活動内容が前後あるいは変更になる場合もあります。
・ハサミ、のり、カッターナイフ、色鉛筆などが必要になりますので各自で用意しておくこと。
・20 分以内の遅刻は出席扱いとしますが、3 回の遅刻（各 20 分以内）で 1 回欠席したものとして扱います。

到 達 目 標

１．生活科の創設の過程と生活科のねらいを理解する。
２．生活科の目標、学習内容を理解する。
３．低学年における体験的な学習活動の事例について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容を理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
活動への積極的な参加（30%）	積極的に活動に参加し他者の学びや授業の充実に大きく寄与した。	積極的に活動に参加している。	概ね積極的に活動を行っているが多少の不足がある。	最低限の活動を行っている。	活動に参加できていない。
解決を文章で説明する力（振り返りシート）（30%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるものの、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

各授業で行う発表・授業の終わりに提出する振り返りシート（50%）※授業態度も含まれます。
試験（50%）

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領解説 生活編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版社
・出 版 年（ISBN）：2018 年 ISBN:978-4491034645
※指導要領は各自でダウンロードして印刷したものを使用してもよい。参考文献は適宜紹介します。

栽培　～主な野菜の作り方を学ぼう～	橋本　敏幸

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	−	−	−

授業概要

基本的な野菜を取り上げ、その栽培方法を習得することを指導する。また、幼児教育での農業体験の重要性を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	科目「栽培」についてのガイダンス（菜園での心得・姿勢について）
第 2 回	トマトなどの定植（野菜苗の植え付けの基本を覚える）
第 3 回	エダマメ・トウモロコシの播種（種まきの基本を知る）
第 4 回	土壌の性質と施肥（豊かな土壌を作る有機物・化学肥料の施肥量を計算する）
第 5 回	ジャガイモの管理（除草と芽掻きの要領を体験する）
第 6 回	トマトの整枝（美味しいトマトを収穫するための技術を習得する）
第 7 回	キュウリ・ナスなどの管理の仕方を学ぶ（肥料・水の管理）
第 8 回	葉菜類栽培の基礎を学ぶ（コマツナ・ホウレンソウなど）
第 9 回	根菜類栽培の基礎を学ぶ（ダイコン・ニンジン・サツマイモ）
第 10 回	ジャガイモの収穫と保存の仕方を学ぶ
第 11 回	エダマメ・トウモロコシの収穫と調整の仕方を学ぶ
第 12 回	菜園の片づけ（栽培した菜園に感謝を込めてきれいにする）
第 13 回	地球温暖化と食糧危機に今、私たちにできることを考える（講義）
第 14 回	幼児教育と農業（自然や生命を通して子供の発達を考える）（講義）
第 15 回	栽培授業のまとめ

予習・復習

・予習：用意した資料等を事前に熟読すること。指示した課題についてはノートにまとめる。

・復習：特に実習で学んだ事柄をまとめて記録する。

履修上の注意

栽培は実習中心の授業です。天候（雨・高温）の影響を受けやすいので体調管理が重要です。また、除草など地味で根気のいる作業が多くあります。相応の覚悟が必要です。そのために実習に適した服装を用意してください。正当な理由がない場合は始業時に遅れた者は遅刻とします。

到 達 目 標

誰でもが一つの野菜を栽培できることを目指す。
栽培（農業）が子どもの発達に影響を及ぼすことについて考えられるようになる。
地道に野菜作りに取り組める姿勢を身に着ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
栽培方法についての理解度（４０％）	栽培方法を理解し次に行う管理を自ら判断し正確に行うことができる。	栽培方法を理解し指示に従って正確に管理を行うことができる。	栽培方法はほぼ理解できているが正確な管理を行うことが困難である。	栽培方法がやや理解不足のため指導のもとある程度の管理ができる。	栽培方法が理解不足のため指導のもとでも管理が困難である。
栽培実習能力についての到達度（４０％）	機械や道具を正しく使いこなし作業手順について先を見ながら率先して行うことができる。	機械や道具を正しく使いこなし指示通りに作業を行うことができる。	機械や道具の使い方にやや難があるが積極的に作業を行うことができる。	機械や道具の使い方にやや難があり作業が消極的で時間がかかる。	消極的で実習を行う姿勢が見られない。
文章で説明する力（２０％）	栽培手順や重点箇所を理路整然と正しくまとめることができる。	栽培手順や重点箇所をやや大まかであるが正しくまとめることができる。	栽培手順や重点箇所をやや正確さに欠けるがまとめることができる。	栽培手順や重点箇所が説明不足なまとめ方である。	栽培手順や重点箇所をまとめる力が劣っている。

評価方法

学期末考査　４０％
実習態度　　４０％
レポート　　２０％

テキスト

教科書は使いません。必要に応じて資料を配布します。

演劇　～演技・演出の体験とファシリテーション～

中村　一規

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1・2年	後期	1	選択	－	－	－

授業概要

身体を使って実践的に演劇を体験する。「短編作品を創作し発表すること」「シアターゲームとそのファシリテーション」の２項目を中心に、演劇という表現方法について体系的に学ぶ。自らの表現を獲得すること、他者とのコミュニケーション理解することについて指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	演劇とは何か？①　演劇について考えてみる
第 2 回	演劇とは何か？②　シアターゲームを体験する
第 3 回	演劇とは何か？③　インプロを体験する
第 4 回	演技演出体験①　発声体験　人に届く声とはなにか？
第 5 回	演技演出体験②　短編戯曲の読み合わせと発表
第 6 回	演技演出体験③　演出を付けてみる、付けられてみる
第 7 回	演技演出体験④　短編作品のストーリーを考える
第 8 回	演技演出体験⑤　短編作品の創作と練習
第 9 回	演技演出体験⑥　短編作品の発表とフィードバック
第 10 回	ファシリテーションとは何か？①　さまざまなシアターゲーム
第 11 回	ファシリテーションとは何か？②　ワークショッププログラムの組み方、進め方
第 12 回	ファシリテーションとは何か？③　実践とフィードバック
第 13 回	ファシリテーションとは何か？④　今、必要とされている表現とは？
第 14 回	ファシリテーションとは何か？⑤　今、必要とされているコミュニケーション力とは？
第 15 回	授業のまとめ

予習・復習

・予習：必要に応じて、テキスト・動画などの事前課題を課す。
・復習：振り返りシートの記入と提出。連続課題の場合は創作や練習、プレゼンテーションの準備

履修上の注意

動きやすい服装で参加すること。
実技を中心とした授業だが、体調がすぐれない場合は見学も可（要相談）
グループでの作業が多いため、遅刻はできる限り無いように。

到 達 目 標

演技スキルの向上や知識の習得だけが目的ではなく、演劇を通じて「なぜ表現するのか」「表現にどのような力があるのか」「幼児・児童に表現をどう促し導くべきか」などについて、思考し自覚ができるようになることを目指す。
芸術という答えがないことについて、身体を通じて創作し、他者と協働できるようになるために必要な、心と身体を整えることを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識・理解（４０％）	演劇についての知識と理解があり、それを応用し発展させることができている	演劇についての知識と理解があり、それを活用する術に自覚的である	演劇について知識を身につけ理解している	演劇に対して最低限の知識を身に付け、理解している	演劇に対する知識と理解が不十分である
意識・関心（３０％）	授業課題に他者と協働して取り組み、優れた成果をあげている	授業課題に自覚的に取り組み、成果をあげている	授業課題に集中して取り組んでいる	授業課題に最低限、取り組んでいる	授業課題への取り組みが不十分である
技能・表現（３０％）	演劇を表現・説明するための能力が十分にあり、それを活用しオリジナルの形に昇華できている	演劇を表現・説明するための能力が十分に備わっている	演劇を身体を通じて、他者に伝わるように表現・説明できている	演劇を身体を通じて最低限、表現・説明している	演劇を表現・説明するための能力が不十分である

評価方法

（知識・理解）学期末試験、レポートなど　４０％
（思考・関心）振り返りシート、授業態度など　３０％
（技能・表現）授業内発表、プレゼンテーションなど　３０％

テキスト

必要に応じて、その都度テキストを配布する。
参考図書については、授業内で紹介する。